
Multi LABELIST V5

練習マニュアル

—様々な発行方法編—

第12版

株式会社サトー

2020年9月23日

ご注意

- 本マニュアルの一部または全部を弊社の許可なく複写・複製することは、その形態を問わず禁じます。
 - 本マニュアルの内容は、訂正・改善のため予告なく変更することがあります。
 - 本マニュアルを運用した結果の影響については責任を負いかねますのでご了承下さい。
 - 本マニュアルの内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
-
- SATO、Multi LABELIST は、サトーホールディングス株式会社の登録商標または商標です。
 - Microsoft、Windows は、米国マイクロソフト社の登録商標です。
 - その他記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

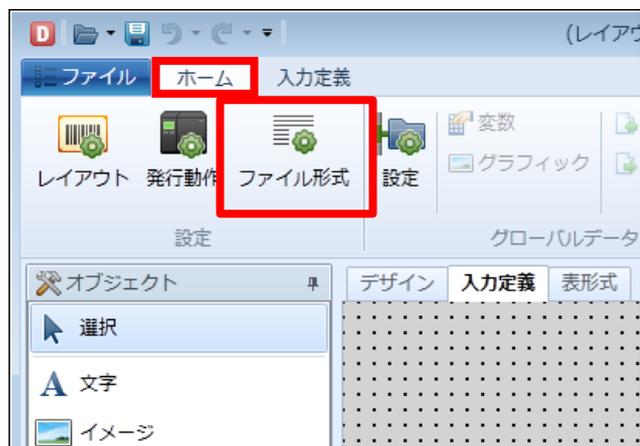
目次

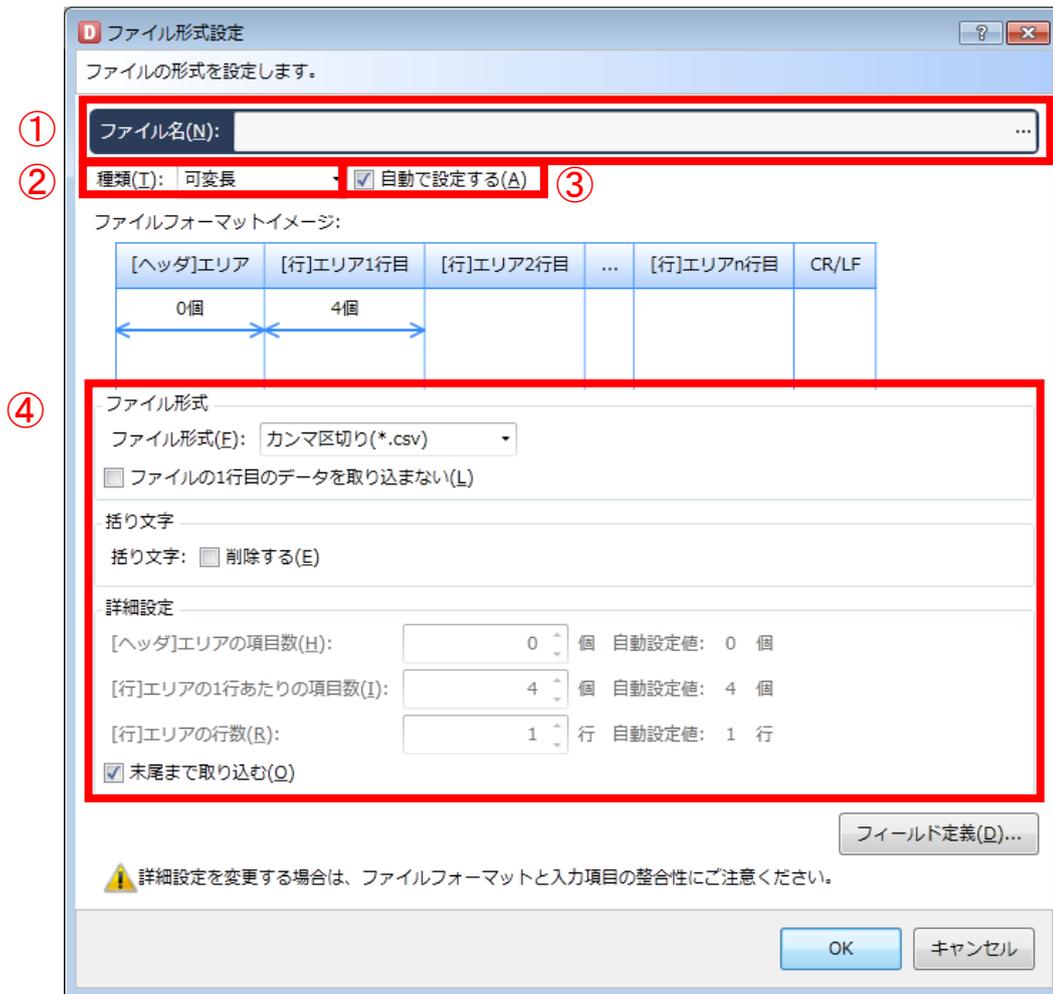
ご注意.....	2
目次.....	3
1：ファイル発行.....	5
1. ファイル発行とは.....	5
2. ファイル形式の設定.....	5
3. ファイルからの呼び出し.....	8
知っておくと便利な機能.....	10
1. フィルタ機能.....	10
2：振分発行.....	11
1. 振分発行とは.....	11
■準備.....	11
1. 振分定義・入力割付の設定.....	12
■自動作成を使った項目割付について.....	16
2. レイアウト判別.....	17
3. 振分項目設定.....	21
4. 振分発行.....	23
5. 発行結果の確認.....	24
3：自動発行.....	25
1. 自動発行とは.....	25
■書式.....	25
■パラメーター一覧.....	26
■データ指定.....	27
■動作指定.....	27
■出力先指定.....	27
■オプション指定.....	28
2. ショートカットの作成.....	29
3. 使用方法.....	32
4：プリセット発行.....	33
1. プリセット発行とは.....	33
■準備.....	33
1. プリセットデータ登録.....	34
2. プリセット発行.....	37
3. プリセット予約発行.....	39
5：フォルダ監視発行.....	41
1. フォルダ監視発行とは.....	41
■準備.....	42
2. フォルダ監視の設定.....	44
3. レイアウトのデータ指定.....	51
4. 出力先のデータ指定.....	57
知っておくと便利な機能.....	63

1. データファイル名のワイルドカード指定	63
2. 設定値のインポート・エクスポート	64
3. ログの確認とログレベル	64
4. データのバックアップ	65
5. カットのタイミングを指定する	65
6. 複数のプリンタへ出力する	67
7. フォルダ監視の起動方法を変更する	68
8. 発行枚数が未指定のデータを発行する	69
6 : ODBC データ取込み	70
1. ODBC データ取込みとは	70
■準備	70
2. ODBC ドライバの設定	71
3. ODBC 接続の設定	74
4. ODBC からの呼び出し	78
知っておくと便利な機能	79
1. 自動で ODBC データ呼び出しを行う	79
2. ODBC 接続でデータを全件取り込む	81
3. 取込むデータを加工する	83

では、取込むファイルの情報を設定しましょう。

ML デザイン（入力定義）画面にて、「ホーム」タブの「ファイル形式」ボタンをクリックして、下記の画面を表示してください。





① ファイル名の設定

参照ボタンを押して取り込むファイル名を指定します。

② 可変長／固定長

取り込むファイル形式に応じて「可変長」または「固定長」に設定します。

③ モード

「自動で設定する」を有効または無効に設定します。より詳細に設定したい場合は無効に設定してください。

④ 可変長／固定長の詳細設定

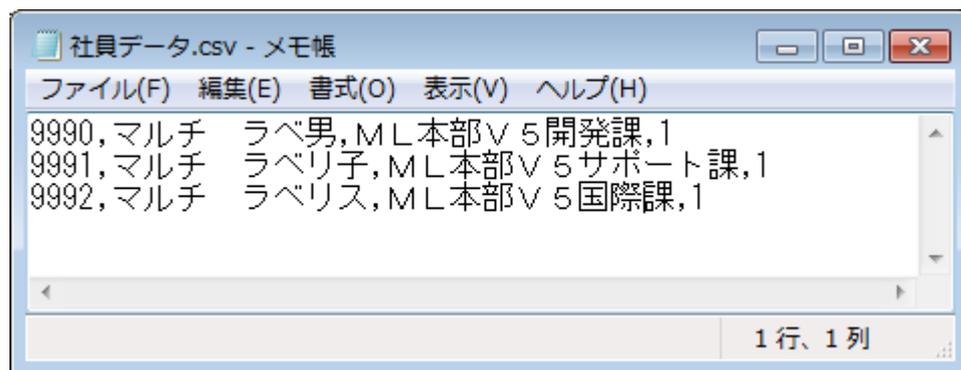
可変長であれば、「ファイル形式」「括弧文字の削除」など

固定長であれば、「レコード桁数」「文字コード」などを設定することができます。

※③のモードが「自動で設定する」に設定されている場合、グレー表示の項目は設定できません。設定を行いたい場合は「自動で設定する」を無効にしてください。

3. ファイルからの呼び出し

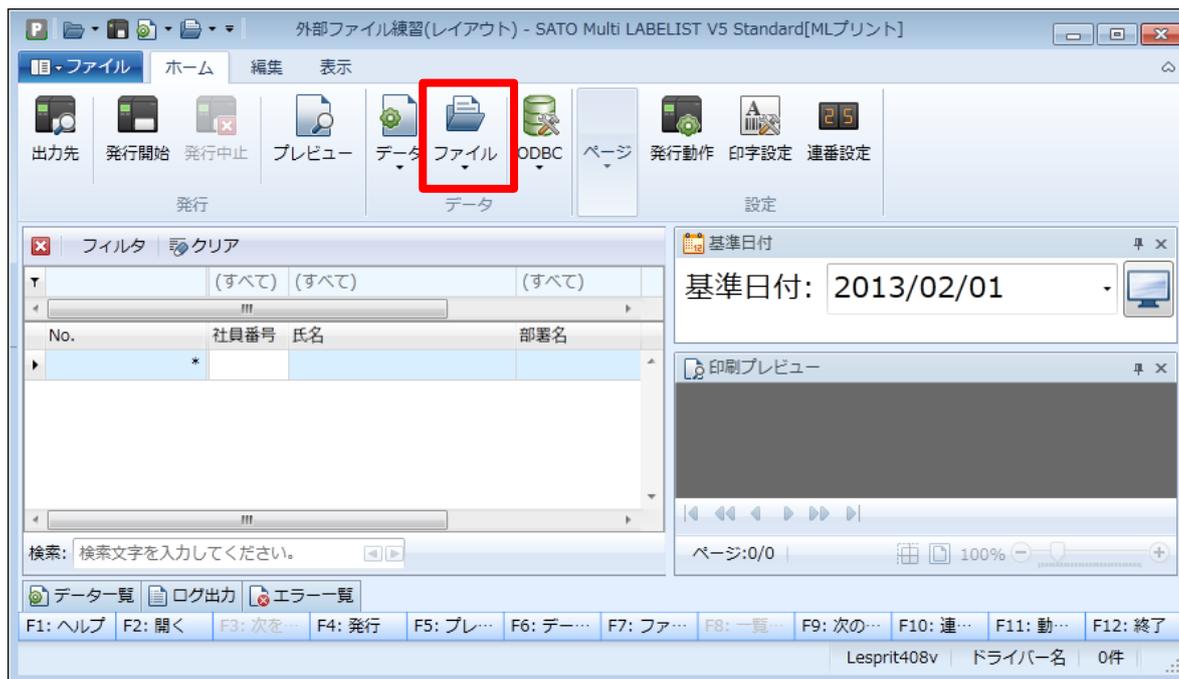
では、実際に ML プリント画面でファイルを読み込んでみましょう。
ここでは下記の CSV 形式のファイルを読み込んでみます。



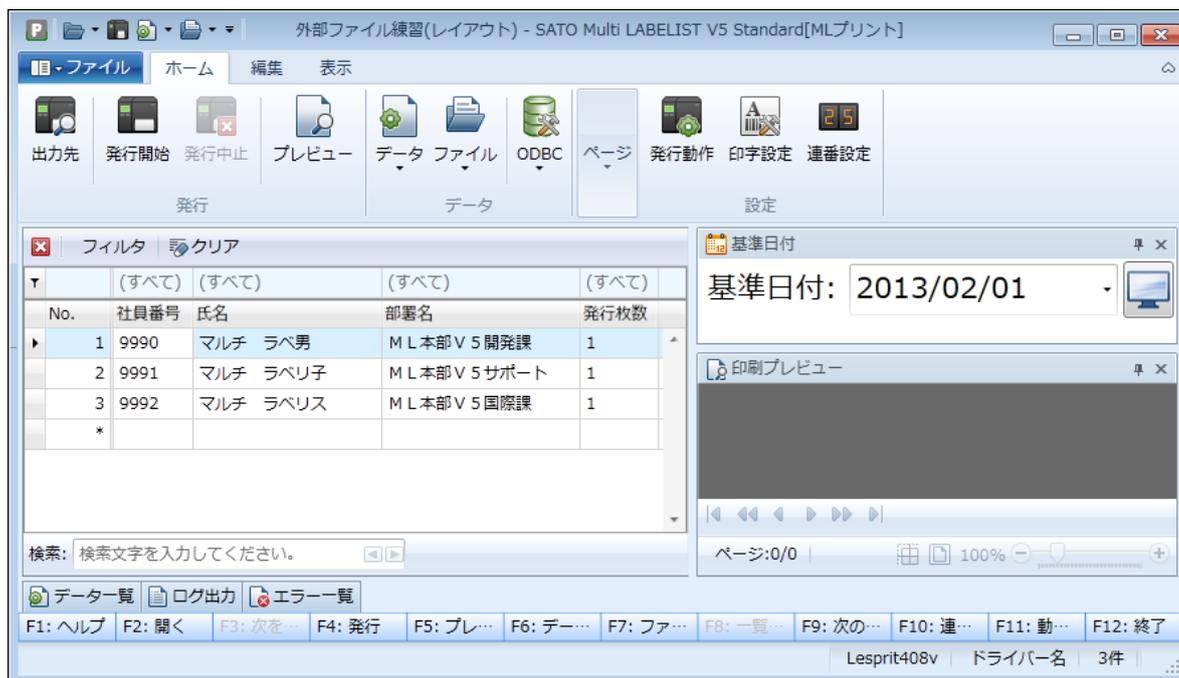
■ファイル形式設定値

- ① ファイル名 : (フルパス名) + 社員データ.CSV
- ② 可変長/固定長 : 可変長
- ③ モード : 自動で設定
- ④ ③の詳細設定 : カンマ区切り (.csv)

MLプリント画面を起動して「ファイル」ボタンを押してください。



今まではそれぞれの項目を入力する必要がありましたが・・・
社員データ.CSVの内容をファイル形式設定に基づいて呼び出すことができました。



ファイル発行はデータを読み出す事はできますが、発行ボタンを押す必要があります。
発行まで自動で行いたい場合は「[3：自動発行](#)」をご参照ください。

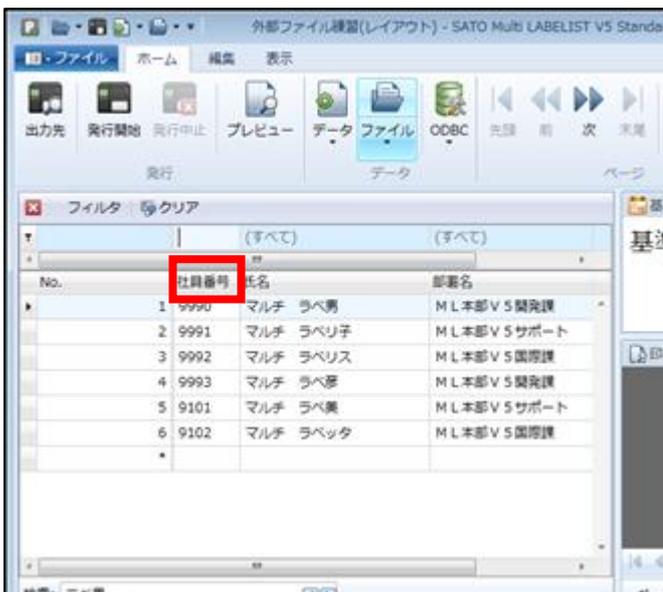
以上で「[1：ファイル発行](#)」は終了です。

知っておくと便利な機能

1. フィルタ機能

条件で絞り込んだデータのみ発行したい場合は、以下のフィルタ機能を使用しましょう。「社員番号」に入力されたデータをキーとして絞り込みを行います。

各項目の上の欄に絞りこみたい値を入力します。



入力した値と前方一致するデータに絞り込んで表示します。



先頭のみワイルドカード指定が可能です。

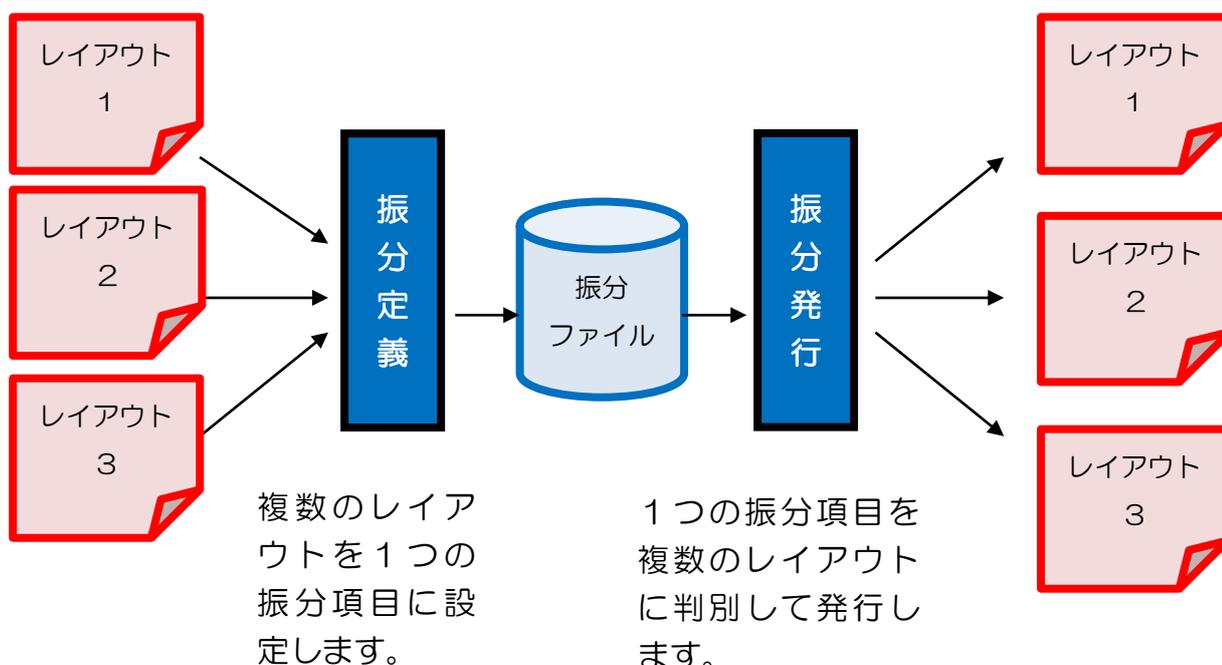
“%” または “_” : 1文字以上の任意の文字列

例として「%310」または「_310」と入力することで、“310”を一部に含むデータ（部分一致）に絞り込みが可能です。

2：振分発行

1. 振分発行とは

複数のレイアウトを、1つの発行画面でレイアウトを自動的に振り分けて発行する機能です。「MLソート」の「振分定義」を使用して設定します。



■準備

これまでの練習を思い出して下のようなレイアウトを2つ作成しましょう。

プリンタ： レスプリ T408v/R408v

用紙： 縦45mm×横70mm

レイアウト名： 振分1.mllayx

デザイン画面

品名	??????????
品番	?????
LotNo	??????????
 * 0000000000000000 *	

変数画面

変数名	区分	桁数	詳細
品名	入力	10	入力種類:文字
品番	入力	5	入力種類:文字
ロットNo	入力	10	入力種類:文字
バーコード	結合	15	指定文字削除:な...
品番	入力	5	入力種類:文字
ロットNo	入力	10	入力種類:文字

プリンタ： レスプリ T408v/R408v

用紙： 縦45mm×横70mm

レイアウト名： 振分2.mllayx

デザイン画面



変数画面

変数名	区分	桁数	詳細
品名	入力	10	入力種類:文字
品番	入力	5	入力種類:文字
バーコード	結合	15	指定文字削除:な...
品名	入力	10	入力種類:文字
品番	入力	5	入力種類:文字

作成出来ましたか？

それでは、振分定義を設定しましょう。

1. 振分定義・入力割付の設定

Windows スタートメニュー>すべてのプログラム>Multi LABELIST V5 の

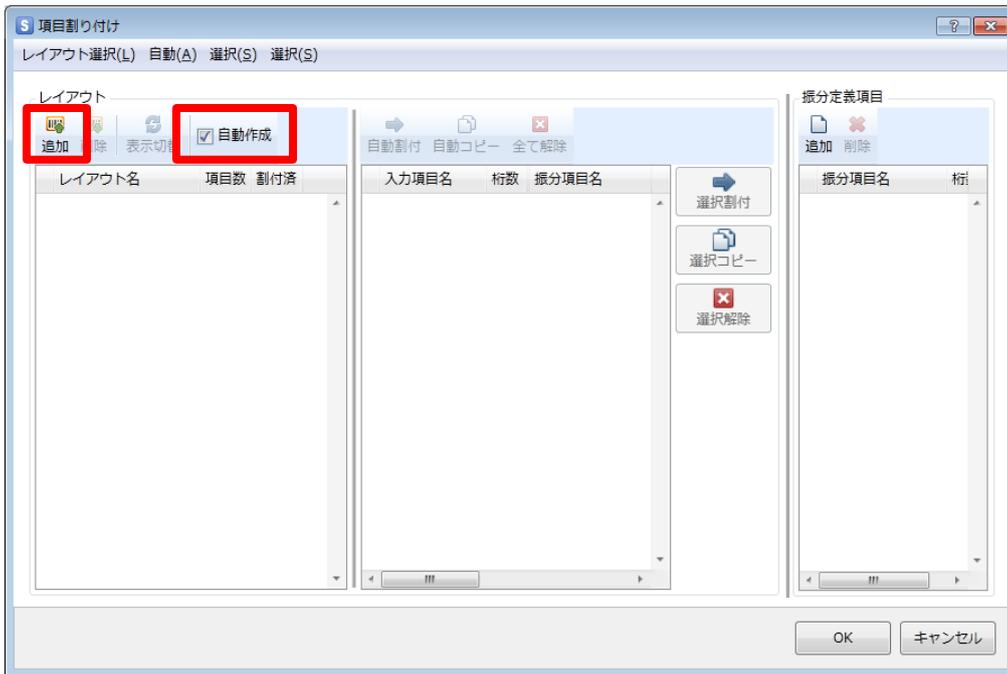
S MLソート を選択します。

「項目割り付け」ボタンをクリックします。

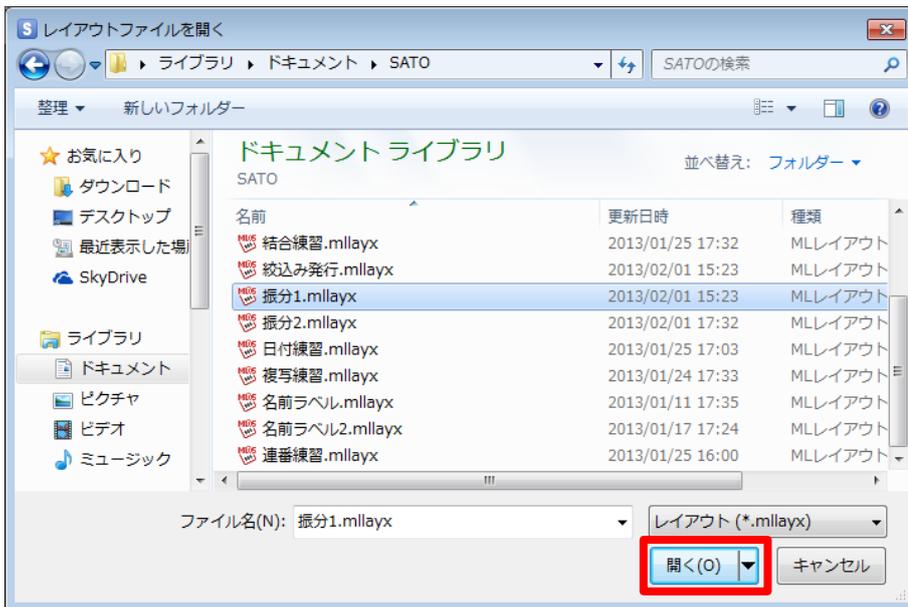


「項目割り付け」画面が表示されます。

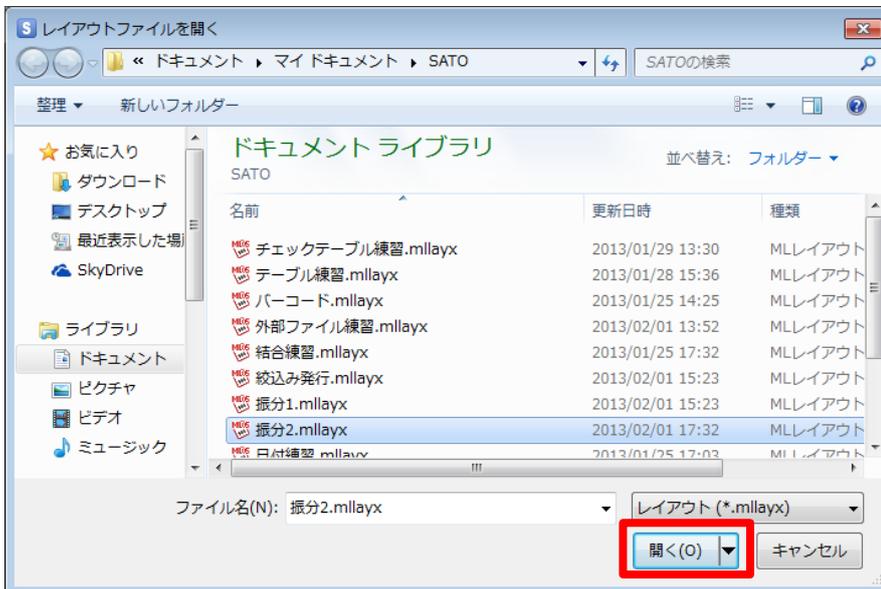
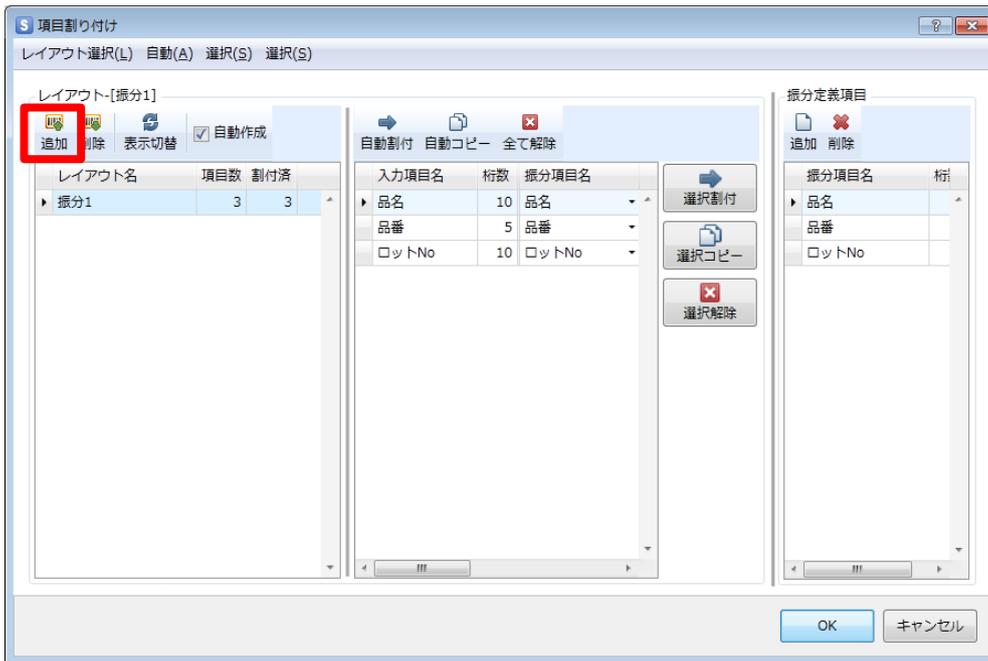
「自動作成」チェックボックスを有効にし、「追加」ボタンをクリックします。



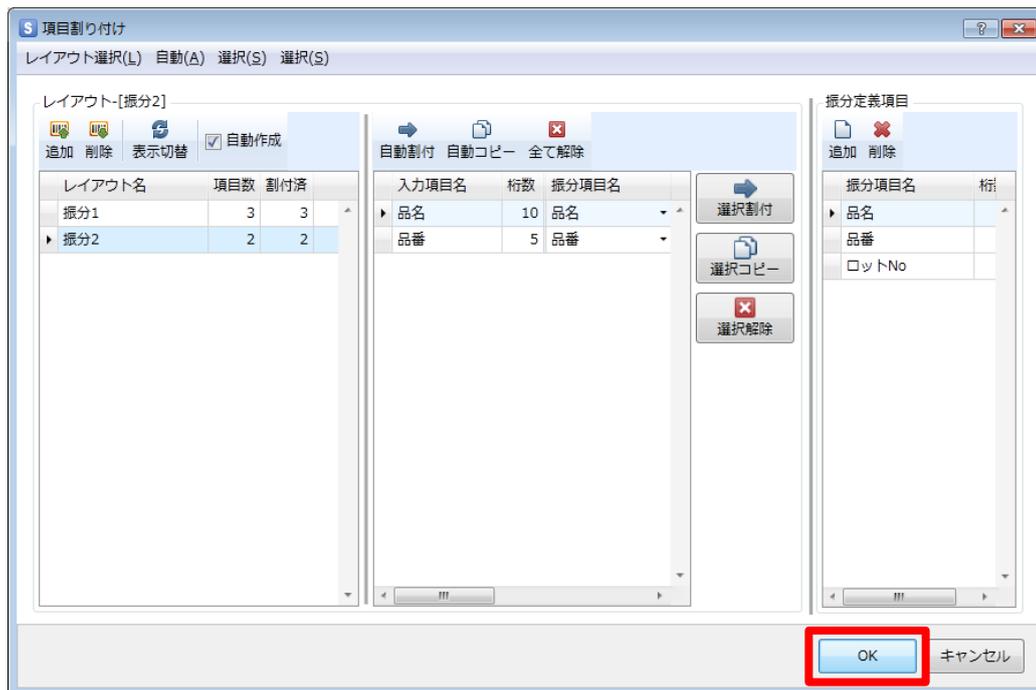
「振分1. mllayx」を選択し、「開く」ボタンをクリックします。



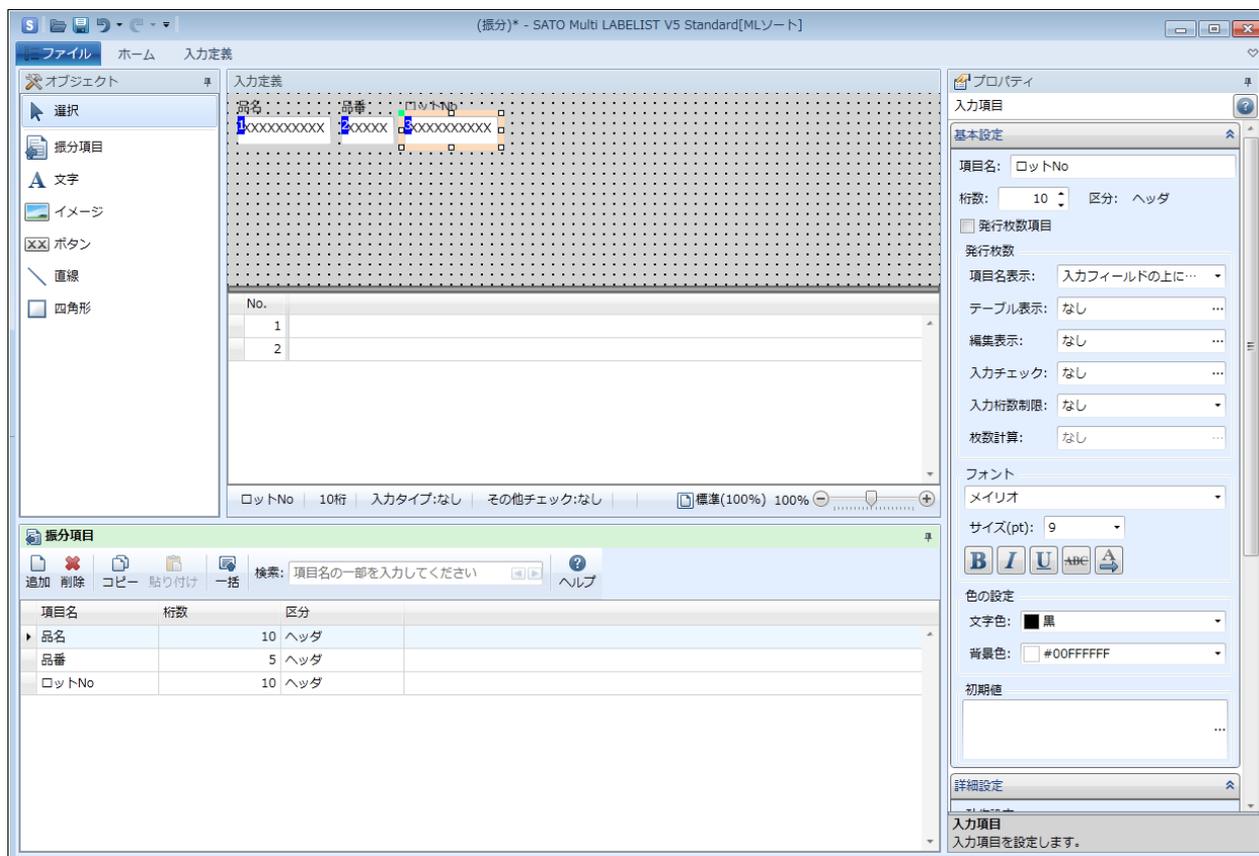
続いて「追加」ボタンをクリックし、登録した
「振分2.mllay」を選択し、「開く」ボタンをクリックします。



下の画面になりましたか？
良ければ「OK」ボタンをクリックします。



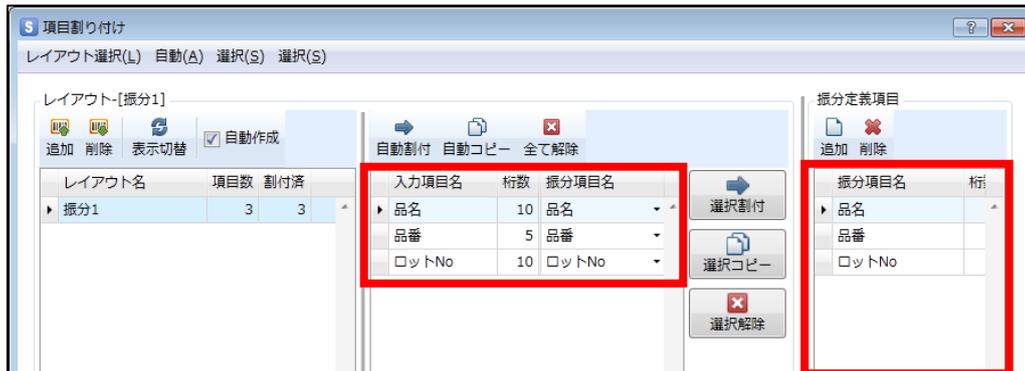
振分項目が追加され、入力定義画面にも項目が配置されます。



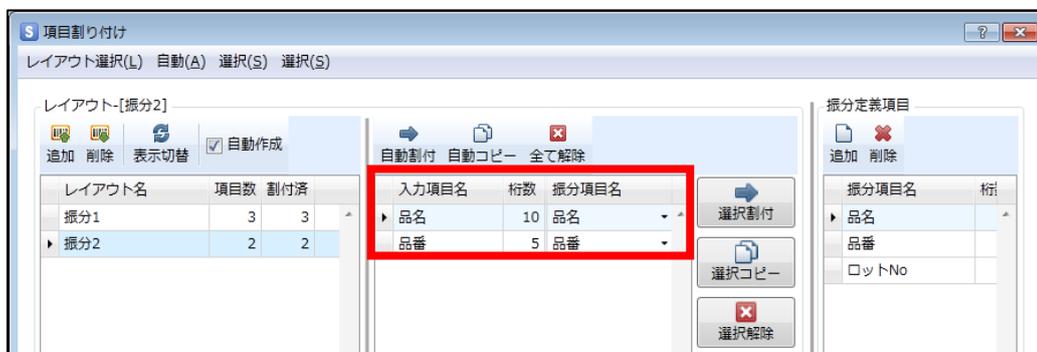
■自動作成を使った項目割付について

「自動作成」を有効にしてレイアウト追加を行うと、「振分定義項目」の項目追加や、各レイアウトの持つ項目と、振分定義項目との割付を自動で行えます。

今回の「振分1.mllayx」「振分2.mllayx」の場合、最初に「振分1」を追加した際に入力項目として設定してあった「品名」「品番」「ロットNo」が「振分定義項目」に追加され、各入力項目は、同じ名前の振分定義項目に割付られます。



その後「振分2」を追加した際には、入力項目として設定してあった「品名」「品番」は既に「振分定義項目」にあるため、割付のみされます。



「自動作成」を無効にしていた場合は、これらの設定を「選択コピー」や「選択割付」などのボタンを使って、手動で行う必要があります。

2. レイアウト判別

振分定義・入力割付の次には、レイアウト判別項目の設定を行います。

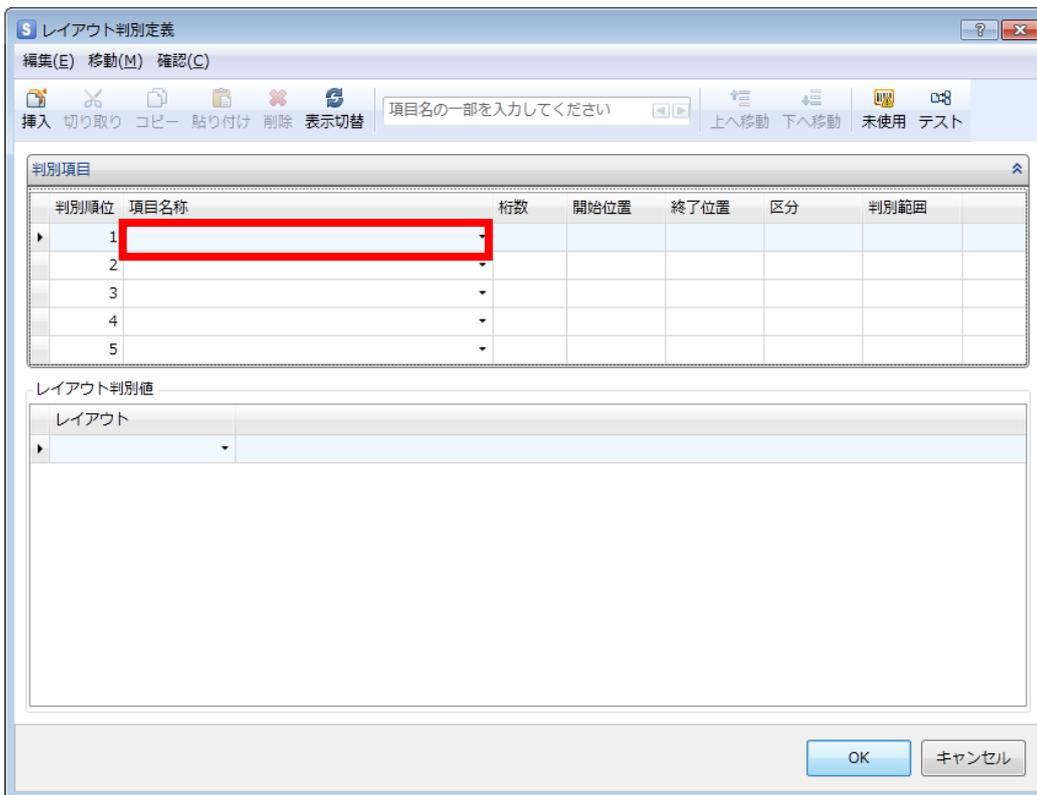
これは、レイアウトを振分る為のキーとなる項目を指定します。

練習では、入力された「品番」が00001なら「振分1.mllayx」、「品番」が00002なら「振分2.mllayx」を印字するように設定しましょう。

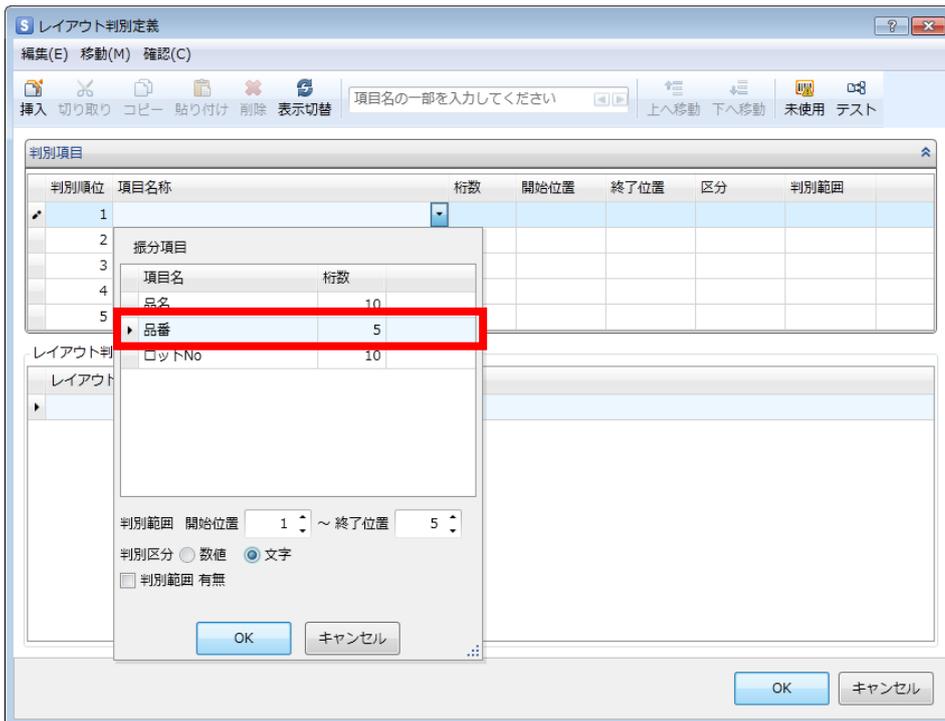
「判別定義」ボタンをクリックし、「レイアウト判別定義」画面を開きます。



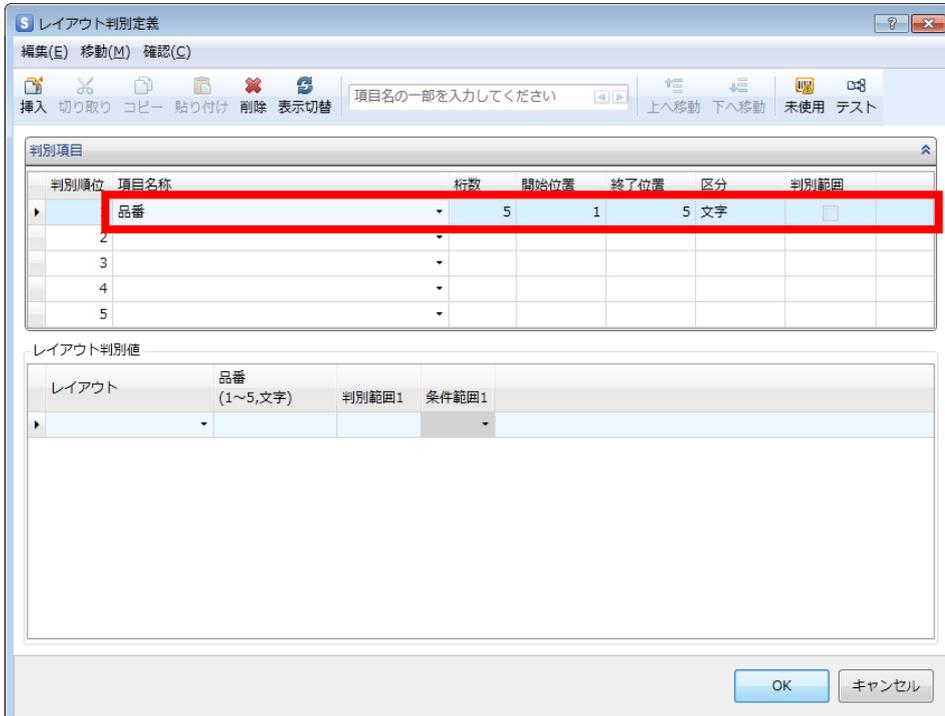
「レイアウト判別定義」画面が表示されるので、「項目名称」の入力欄をクリックします。



「振分項目」から、品番を選択し、「OK」をクリックします。

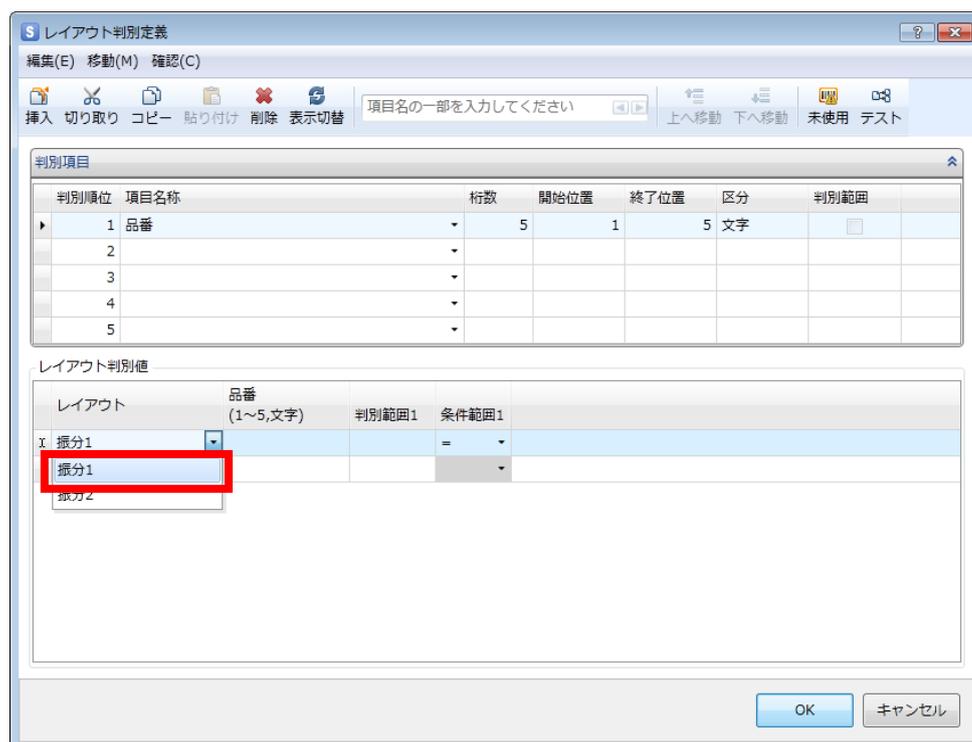


品番が判別項目に追加されます。

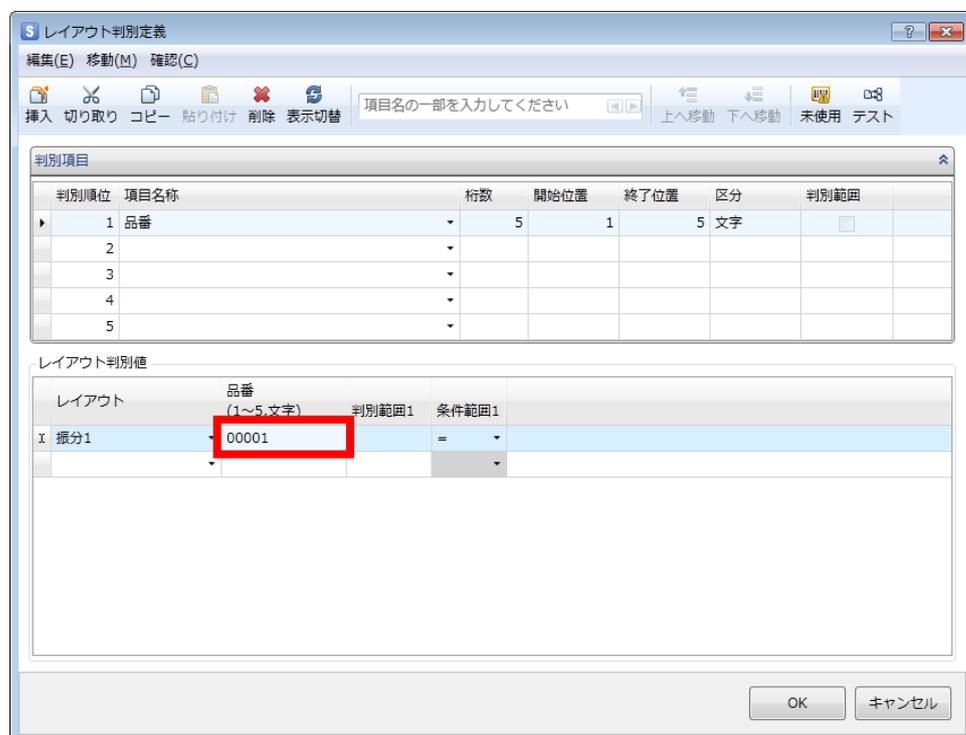


レイアウト（振分1）を選択します。

選択後、Enter キーを押すと、判定値の入力になります。



判定値で、「00001」と入力します。



レイアウト（振分2）を選択します。

選択後、Enter キーを押すと、判定値の入力になります。

レイアウト判別定義

編集(E) 移動(M) 確認(C)

挿入 切り取り コピー 貼り付け 削除 表示切替 項目名の一部を入力してください 上へ移動 下へ移動 未使用 テスト

判別順位	項目名称	桁数	開始位置	終了位置	区分	判別範囲
1	品番	5	1	5	文字	<input type="checkbox"/>
2						
3						
4						
5						

レイアウト判別値

レイアウト	品番 (1~5,文字)	判別範囲1	条件範囲1
振分1	00001	=	
振分2			

OK キャンセル

判定値で、「00002」と入力します。

レイアウト判別定義

編集(E) 移動(M) 確認(C)

挿入 切り取り コピー 貼り付け 削除 表示切替 項目名の一部を入力してください 上へ移動 下へ移動 未使用 テスト

判別順位	項目名称	桁数	開始位置	終了位置	区分	判別範囲
1	品番	5	1	5	文字	<input type="checkbox"/>
2						
3						
4						
5						

レイアウト判別値

レイアウト	品番 (1~5,文字)	判別範囲1	条件範囲1
振分1	00001	=	
振分2	00002	=	

OK キャンセル

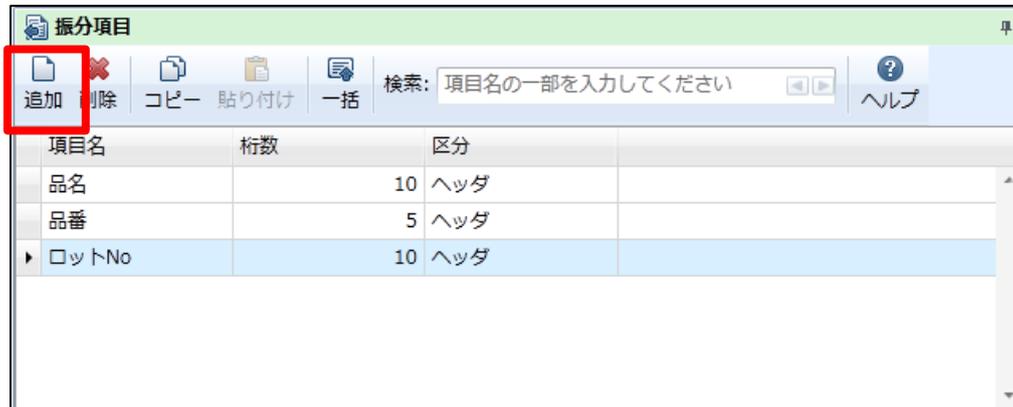
判定値の入力後、「OK」ボタンをクリックします。

3. 振分項目設定

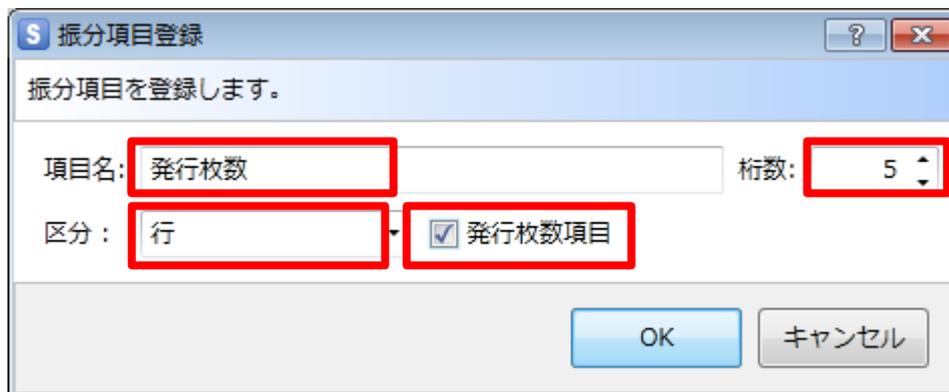
振分項目の設定を行います。

振分には、発行枚数項目が必要です。
ここで、発行枚数の項目を追加します。

「追加」ボタンをクリックします。



項目名称、発行枚数の桁数を入力し、追加する項目の配置場所（ヘッダまたは行）を指定し、発行枚数項目にチェックを入れます。



下のように設定できましたか？

発行枚数項目が赤く表示されているのを確認してください。

項目名	桁数	区分
品名	10	ヘッダ
品番	5	ヘッダ
ロットNo	10	ヘッダ
発行枚数	5	行 - (発行枚数項目)

項目が設定できたら、「保存」ボタンをクリックし、作成した振分ファイルを「振分練習」と名前をつけて保存します。

「終了」ボタンをクリックして、ML ソートを終了します。

振分練習(振分)* - SATO Multi LABELIST V5 Standard[MLソート]

ファイル ホーム 入力定義

発行動作 ファイル形式 入力定義 振分項目 プロパティ 項目割り付け 判別定義

設定 画面表示

オブジェクト

- 選択
- 振分項目
- 文字
- イメージ
- ボタン
- 直線
- 四角形

入力定義

品名 品番 ロットNo

XXXXXXXXXX XXXXX XXXXXXXXXXXX

No.	発行枚数
1	XXXXX
2	4

発行枚数 5桁 標準(100%) 100%

プロパティ

発行枚数

基本設定

項目名: 発行枚数

桁数: 5 区分: 行

発行枚数項目

発行枚数

項目名表示: 入力フィールドの上に...

テーブル表示: なし

編集表示: なし

入力チェック: なし

入力桁数制限: なし

枚数計算: なし

フォント

メイリオ

サイズ(pt): 9

B I U ABC A

色の設定

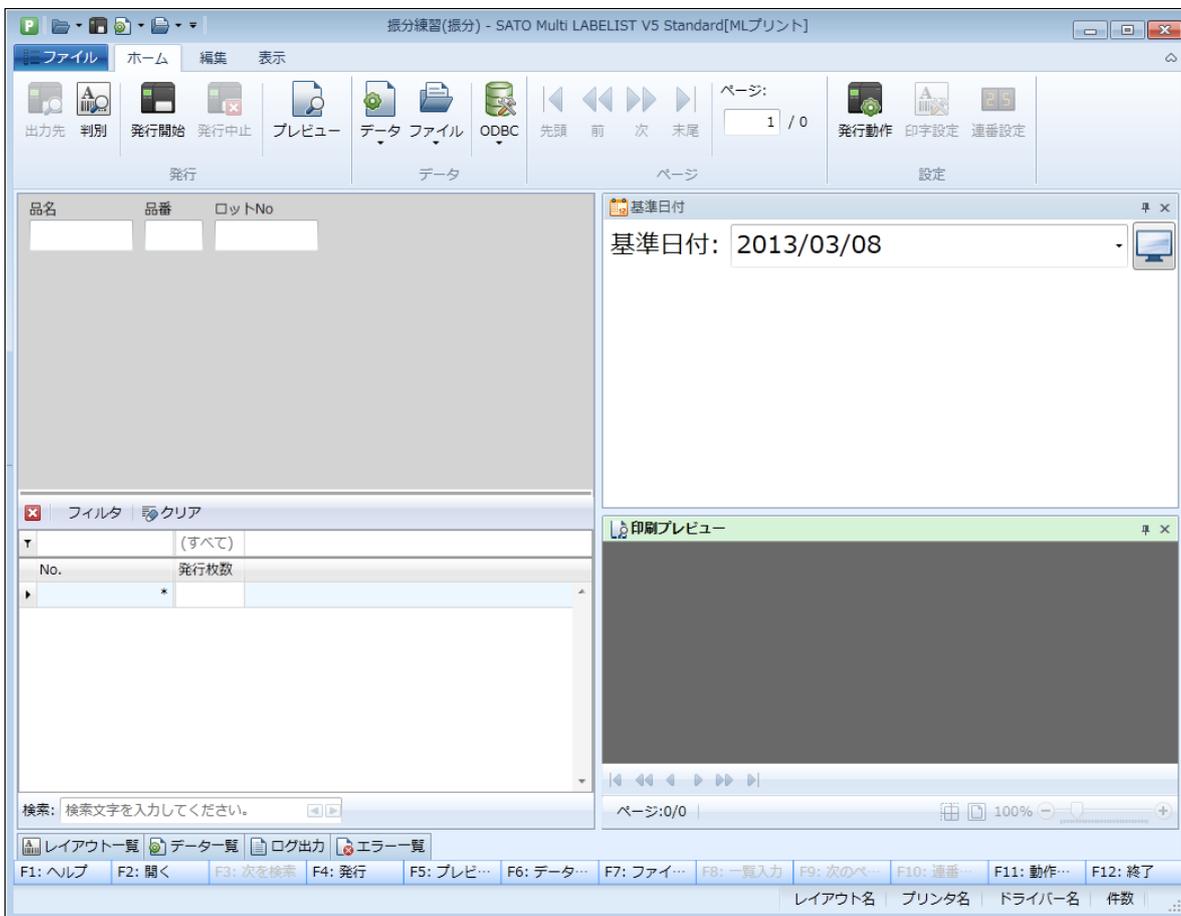
文字色: 黒

発行枚数

発行枚数を設定します。

4. 振分発行

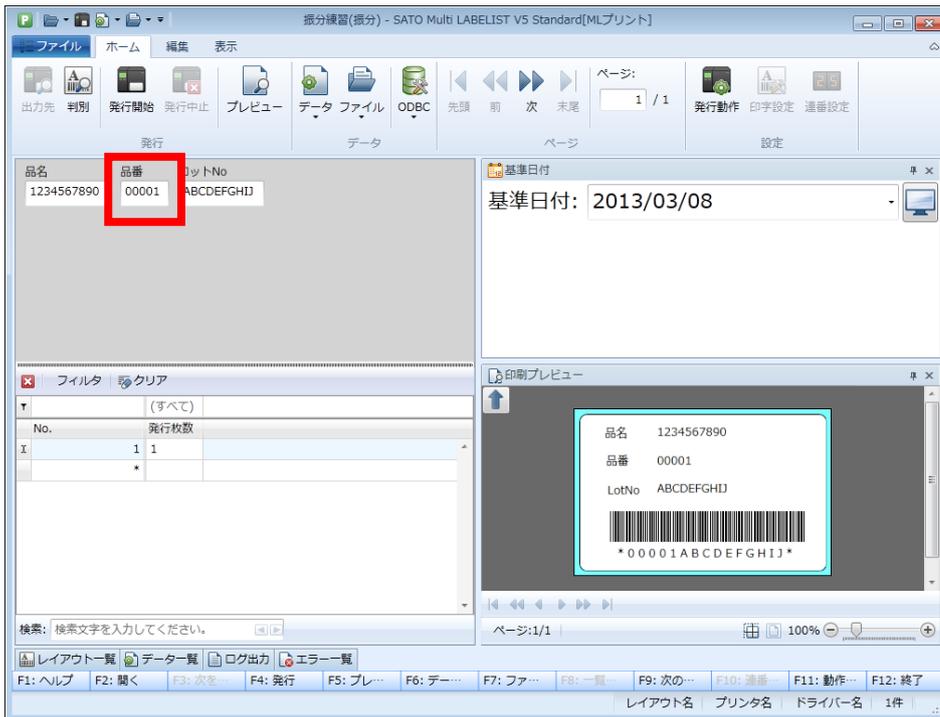
先ほど保存した「振分練習.mldex」ファイルをダブルクリックし、ML プリントを起動します。ML ソートで作成した振分ファイルを発行して、レイアウトが振り分けられて発行されているのを確認しましょう。



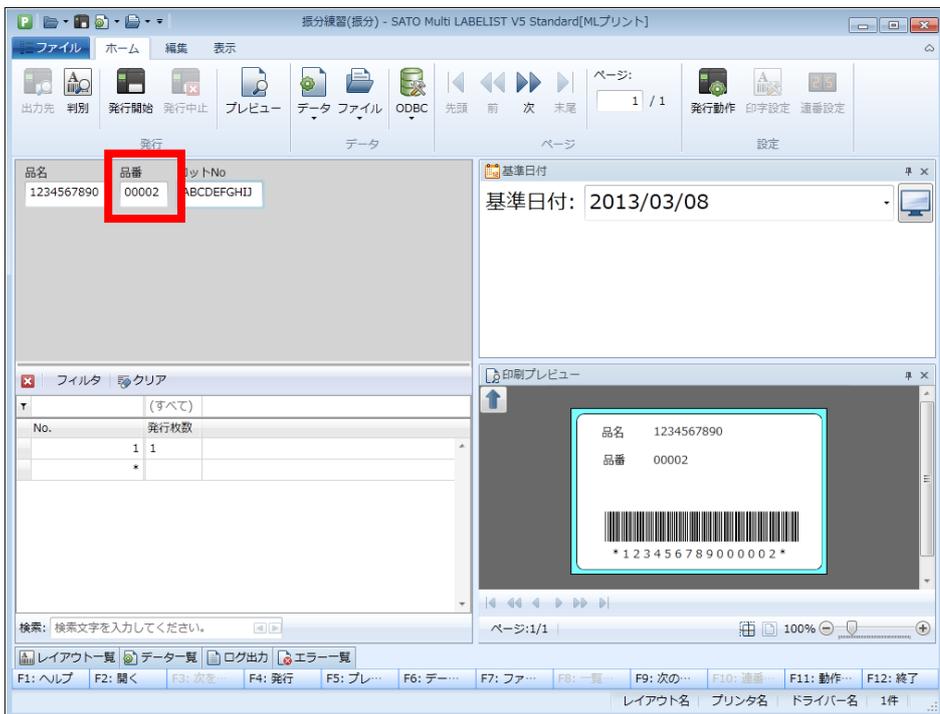
振分発行画面が表示されるので項目を入力してみましょう。

5. 発行結果の確認

品番に「00001」と入力して「レイアウト1」を発行しましょう。



品番に「00002」と入力して「レイアウト2」を発行しましょう。



正しく発行されましたか？

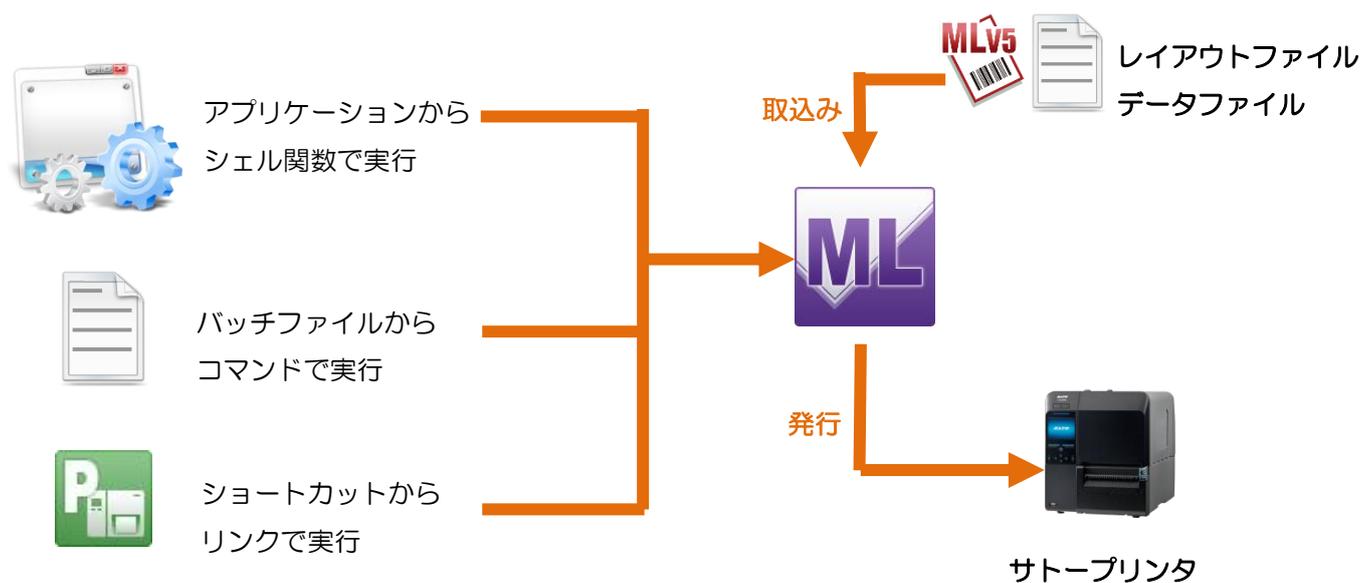
以上で「[2：振分発行](#)」は終了です。

3：自動発行

ここでは、サンプルレイアウトを使って自動発行に挑戦してみましょう。

1. 自動発行とは

ユーザプログラムや、Windows の[ファイル名を指定して実行]など外部のアプリケーションから Multi LABELIST V5 の発行プログラムを起動し、パラメータを与えることでそのパラメータに応じた動作を実装する事が出来る機能です。



■書式

“①実行プログラムパス”_“②ML ファイルパス”_パラメータ_“③パラメータ設定値”

※_（アンダーバー）は半角スペースを表します。

①実行プログラムパス

フルパスで指定してください。

インストール先ディレクトリを変更していない場合、下記のパスとなります。

32bitOS : C:¥Program Files¥SATO¥MLV5¥MLPrint.exe

64bitOS : C:¥Program Files (x86)¥SATO¥MLV5¥MLPrint.exe

②ML ファイルパス

レイアウトファイル(*.mllayx)または振分ファイル(*.mldenx)をフルパスで指定してください。

③パラメータ設定値

パラメータに従った設定値を指定してください。
設定値が必要ないパラメータもあります。

※Multi LABELIST V4 から移行のお客様

発行を行うために新たに発行開始パラメータ「/O」を追加してご利用ください。

```
"C:\Program Files\MLV4\MLPrint.exe" "C:\Layout.mlay" /g "C:\Sample.csv"
```

```
⇒"C:\Program Files\SATO\MLV5\MLPrint.exe" "C:\Layout.mlayx" /g "C:\Sample.csv" /o
```

出力先指定（/V、/D）の括り文字を[]から""に変更してください。

```
"C:\Program Files\MLV4\MLPrint.exe" "C:\Layout.mlay" /v[SATO CL4NX] /g "C:\Sample.csv"
```

```
⇒"C:\Program Files\SATO\MLV5\MLPrint.exe" "C:\Layout.mlayx" /v"SATO CL4NX" /g "C:\Sample.csv" /o
```

■パラメーター一覧

指定機能	パラメータ	動作内容
データ指定		
ファイル取込み	/G(g)	ML プリント画面を起動し、指定のファイルを読み込みます。
データ取込み	/I(i)	ML プリント画面を起動し、指定のデータを読み込みます。
動作指定		
発行画面表示	なし	動作指定パラメータがない場合は、発行画面を表示します。
発行開始	/O(o)	発行処理を行います。
印刷プレビュー	/P(p)	印刷プレビューを表示します。
出力先指定		
レイアウトファイルに従う	なし	出力先指定パラメータがない場合は、レイアウトファイルで指定されている出力先を利用します。
プリンタドライバ指定	/V(v)	指定されたプリンタドライバを利用します。
設定ファイル指定 ※振分ファイルのみ	/D(d)	設定ファイルを利用して、レイアウト毎にプリンタドライバを指定します。
オプション指定		
参照専用モード	/K(/k)	レイアウトを参照専用モードで開きます。
税率指定	/Z(/z)	発行時の税率を指定します。

以下に各パラメータの機能詳細を記載しております。

アルファベットの大文字で記載されていますが、小文字でも同様の指定が可能です。

全てのパラメータで、レイアウトまたは振分ファイルの指定が無い場合無効となります。

■データ指定

ファイル取込み：/G パラメータ

- 指定のファイルを読み込み、ML プリントを起動し、データと呼出します。
- /Iパラメータ（データ取込み）と併用した場合、本パラメータのみ処理し、/Iパラメータは無視します。
- 指定のファイルが存在しない場合、本パラメータは無視されます。

データ取込み：/Iパラメータ

- 指定のデータを読み込み、ML プリントを起動し、データと呼出します。
- /Gパラメータ（ファイル取込み）と併用した場合、本パラメータは無視し、/Gパラメータを処理します。
- 指定のデータが存在しない場合、本パラメータは無視されます。

■動作指定

発行開始：/O パラメータ

- 指定したレイアウトファイル(振分ファイル)でML プリントを起動し、発行を開始します。
- /G（外部ファイル指定）または/I（内部データ指定）パラメータと併用します。
- /P パラメータ（印刷プレビューコマンド）と併用した場合、本パラメータのみ処理し、/Pパラメータは無視します。

印刷プレビュー：/P パラメータ

- 印刷プレビューを表示します。
- /G（外部ファイル指定）または/I（内部データ指定）パラメータと併用します。
- /Oパラメータ（発行開始コマンド）と併用した場合、本パラメータは無視し、/Oパラメータを処理します。

■出力先指定

プリンタドライバ指定：/V パラメータ

- 出力するプリンタドライバの名称を指定します。
 - /G（ファイル指定）または/I（データ指定）パラメータと併用します。
 - /Oパラメータ（発行開始）と併用します。
 - /Dパラメータ（設定ファイル指定）と併用した場合、本パラメータのみ処理し、/Dパラメータは無視します。
 - 指定した出力先が存在しない場合、本パラメータは無視されます。
 - プリンタドライバのパラメータ指定例は下記の通りです。
- | | |
|--------------|--------------------|
| 振分ファイル | : C:¥ML¥Test.mldex |
| 外部ファイル | : C:¥ML¥Text.txt |
| プリンタドライバの出力先 | : SATO SG408 |

```
"C:¥Program Files¥MLV5¥MLPrint.exe" "C:¥ML¥Test.mldex" /G "C:¥ML¥Text.txt" /V "SATO SG408" /O
```

設定ファイル指定：/D パラメータ ※振分ファイルのみ

- ・ レイアウト毎の出力先が設定された設定ファイルのパスを指定します。※1
- ・ /G (ファイル指定) または /I (データ指定) パラメータと併用します。
- ・ /O パラメータ (発行開始) と併用します。
- ・ /V パラメータ (プリンタドライバ指定) と併用した場合、本パラメータは無視し、/V パラメータのみ処理します。
- ・ 指定のファイルが存在しない場合、本パラメータは無視します。
- ・ 出力先ファイルのパラメータ指定例は以下の通りです。

振分ファイル : C:¥ML¥Test.mldenx

外部ファイル : C:¥ML¥Text.txt

出力先ファイル : C:¥ML¥Out.txt

```
"C:¥Program Files¥MLV5¥MLPrint.exe" "C:¥ML¥Test.mldenx" /G "C:¥ML¥Text.txt" /D "C:¥ML¥Out.txt" /O
```

※1 設定ファイルフォーマット (タブ区切りテキスト)

- ・ 該当するレイアウトファイルまたはドライバ名称が存在しない場合、レイアウトファイルのデフォルト出力先から出力します。
- ・ 1レコード毎に、レイアウト名とドライバ名称を指定します。

レイアウト名 (フルパス・拡張子付き)	タブ (09h)	ドライバ名称	CR/LF (0Dh/0Ah)

■オプション指定**参照専用モード：/K パラメータ**

- ・ レイアウトファイルを参照専用モードで開きます。
- ・ /O パラメータ (発行開始) と併用します。
- ・ 参照専用モードは 1 つのレイアウトファイルを複数同時に使用できますが、発行時に変更される情報 (連番設定、ローカル変数の保存連番値、出力先設定、ファイル形式設定、発行時動作設定、印字設定) が保存されませんのでご注意ください。特に、連番値の保存を使用している場合は、参照専用モードは使用しないでください。

税率指定：/Z パラメータ

- ・ 発行時の税率を 0.0~100.0 で指定します。
- ・ /O パラメータ (発行開始) と併用します。
- ・ 本パラメータで税率を指定した場合、税編集で設定した税率 (ユーザ税率や固定値) は使用されません。

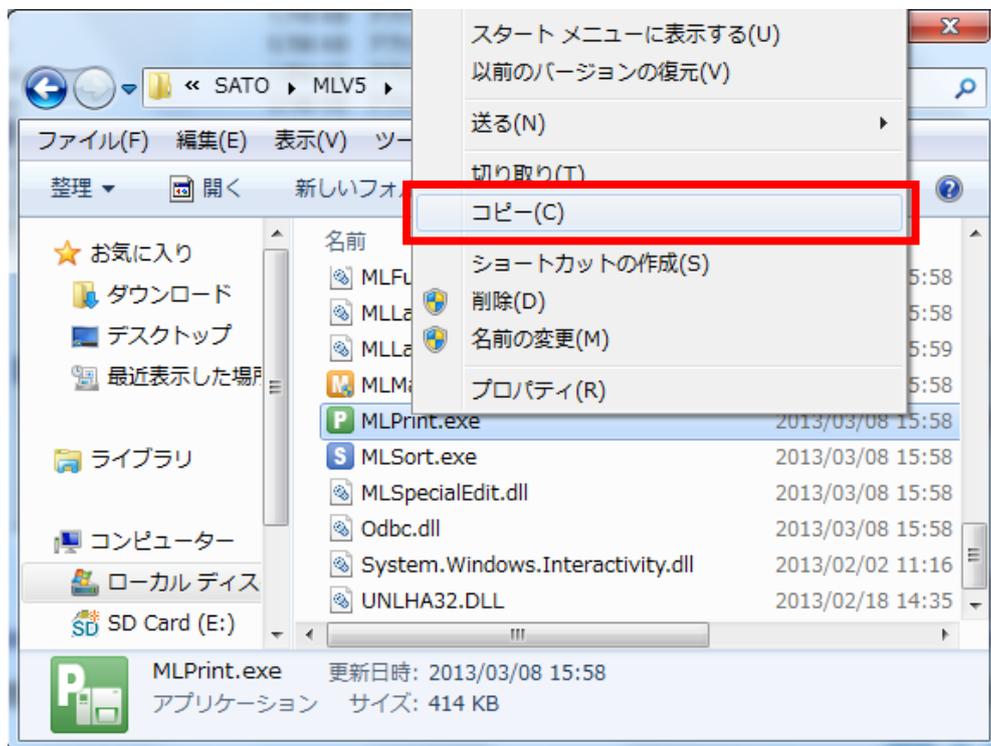
2. ショートカットの作成

以下より、「Layout.mllayx」というレイアウトファイルに「Sample.csv」という外部データを呼び出して自動発行させるショートカットアイコンの作成方法を例として説明します。

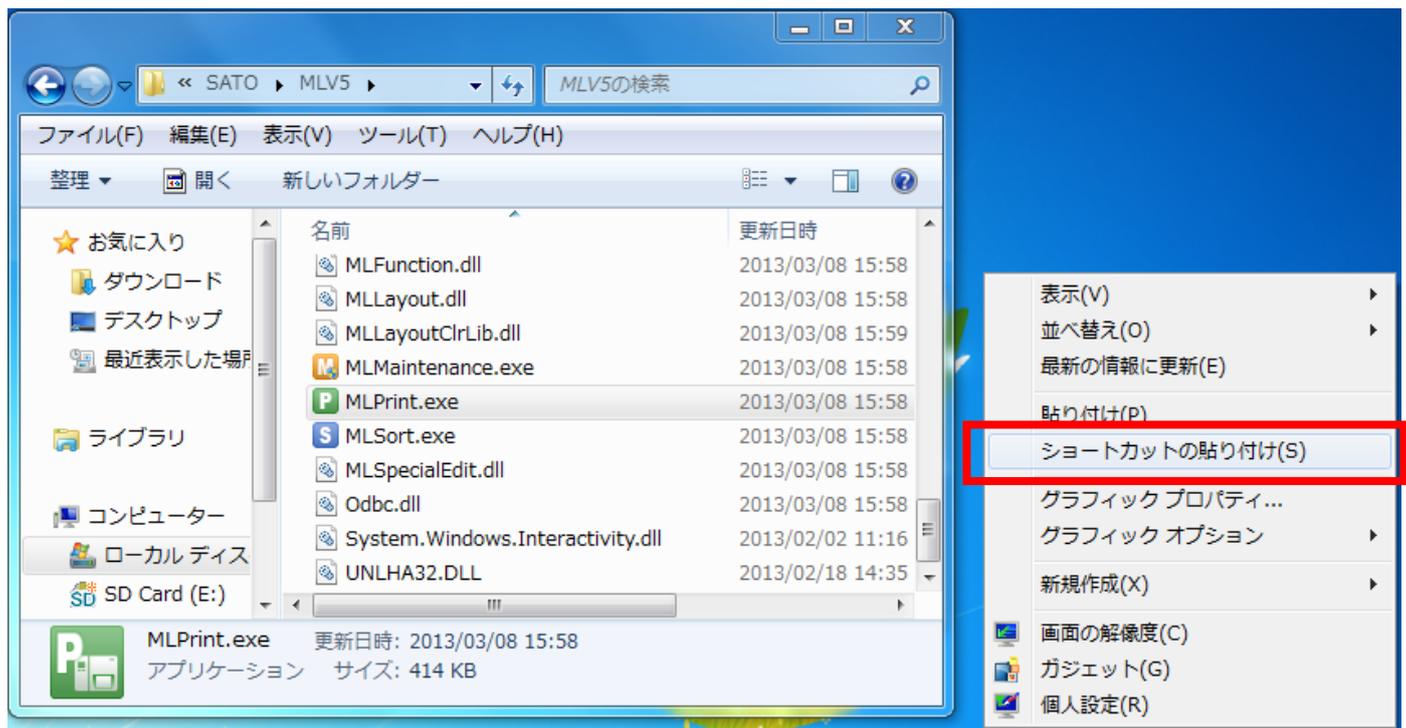
- この2つのファイルは C:\TEST に保存されていると仮定します。
- 呼び出すデータの形式に応じてあらかじめ外部ファイル形式の設定を行う必要があります。
(設定方法は「[1：ファイル発行-2.ファイル形式の設定](#)」をご参照ください)

まず最初に発行プログラムのショートカットを作成します。

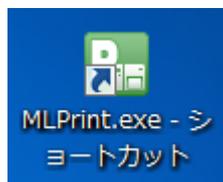
「C:\Program Files\SATO\MLV5」のフォルダの中の「MLPrint.exe」を選択します。右クリックのメニューから「コピー」を選択します。



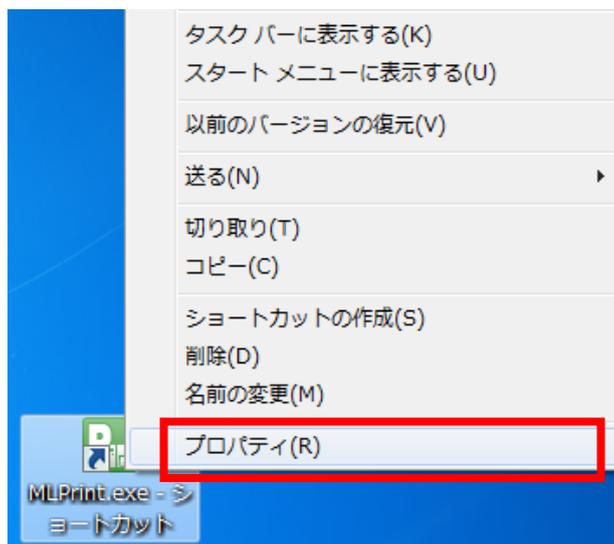
次にマウスをデスクトップに移動させて右クリックのメニューから「ショートカットの貼り付け」を選択します。



するとデスクトップ上に「MLPrint.exe」へのショートカットが作成されます。

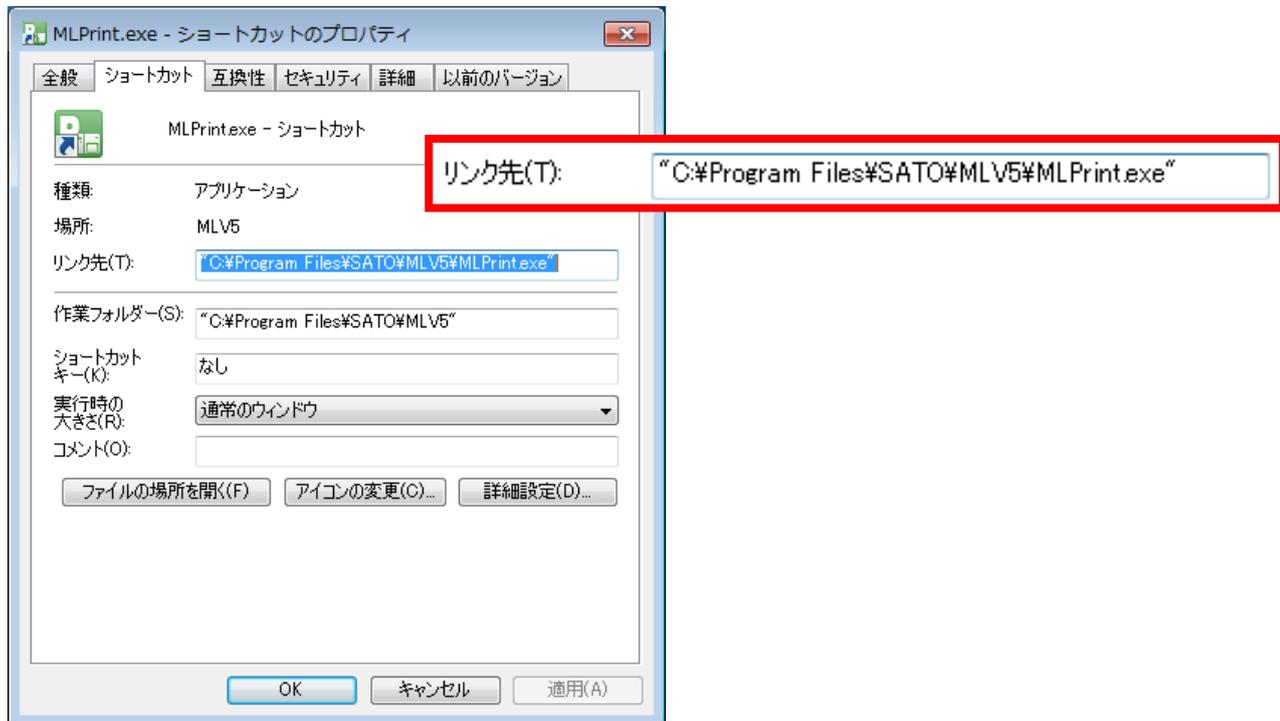


作成したショートカットを選択して右クリックのメニューから、プロパティを開きます。



「MLPrint.exe」のショートカットのプロパティ画面が表示されます。

リンク先に発行プログラムまでのフルパスが表示されています。



「C:\Program Files\SATO\MLV5\MLPrint.exe」の後に「レイアウトファイル名」、「パラメータ」、「外部ファイル名」を付け加えます。

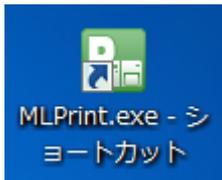
すると、最終的には次のようになるので「OK」ボタンをクリックします。

```
"C:\Program Files\SATO\MLV5\MLPrint.exe" "_C:\TEST\Layout.mllayx" /g "_C:\TEST\Sample.csv" /o
```

※_（アンダーバー）は半角スペースを表しています。

3. 使用方法

作成したショートカットをダブルクリックすれば、指定したパラメータ通りに自動発行されます。



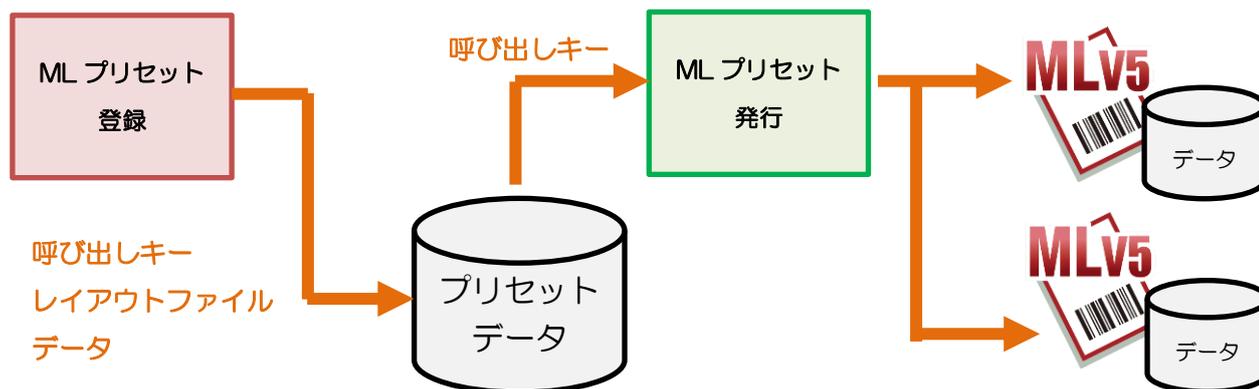
正しく発行されましたか？

以上で「[3：自動発行](#)」は終了です。

4：プリセット発行

1. プリセット発行とは

発行時にデータ入力を行うのではなく予め印字内容を登録しておき、発行時に呼び出しキーによってデータを呼び出し発行する機能です。呼び出したデータを溜めて、まとめて発行する事もできます。



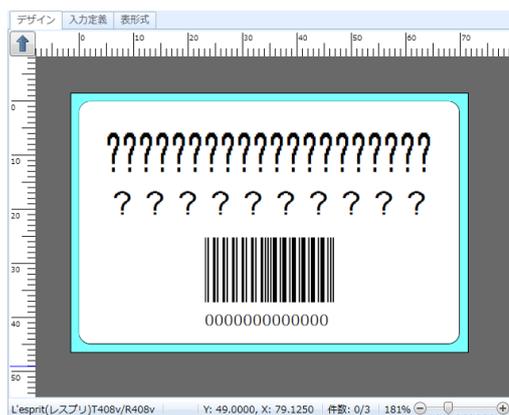
■準備

これまでの練習を思い出して下のようなレイアウトを作成しましょう。

プリンタ： レスプリ T408v/R408v

用紙： 縦45mm×横70mm

レイアウト名： プリセット.mllayx



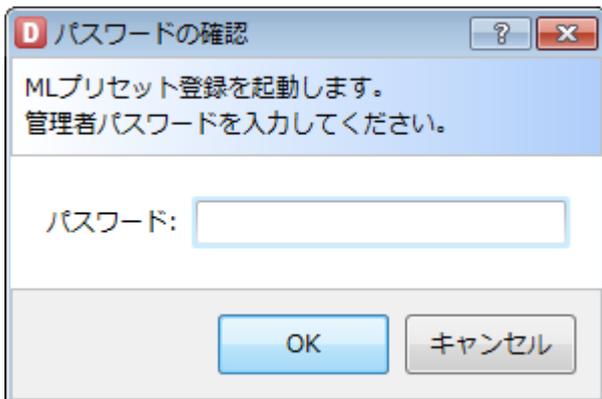
変数名	区分	桁数	詳細
品名	入力	20	入力種類:文字
品番	入力	10	入力種類:文字
バーコードデータ	入力	12	入力種類:文字

2. プリセットデータ登録

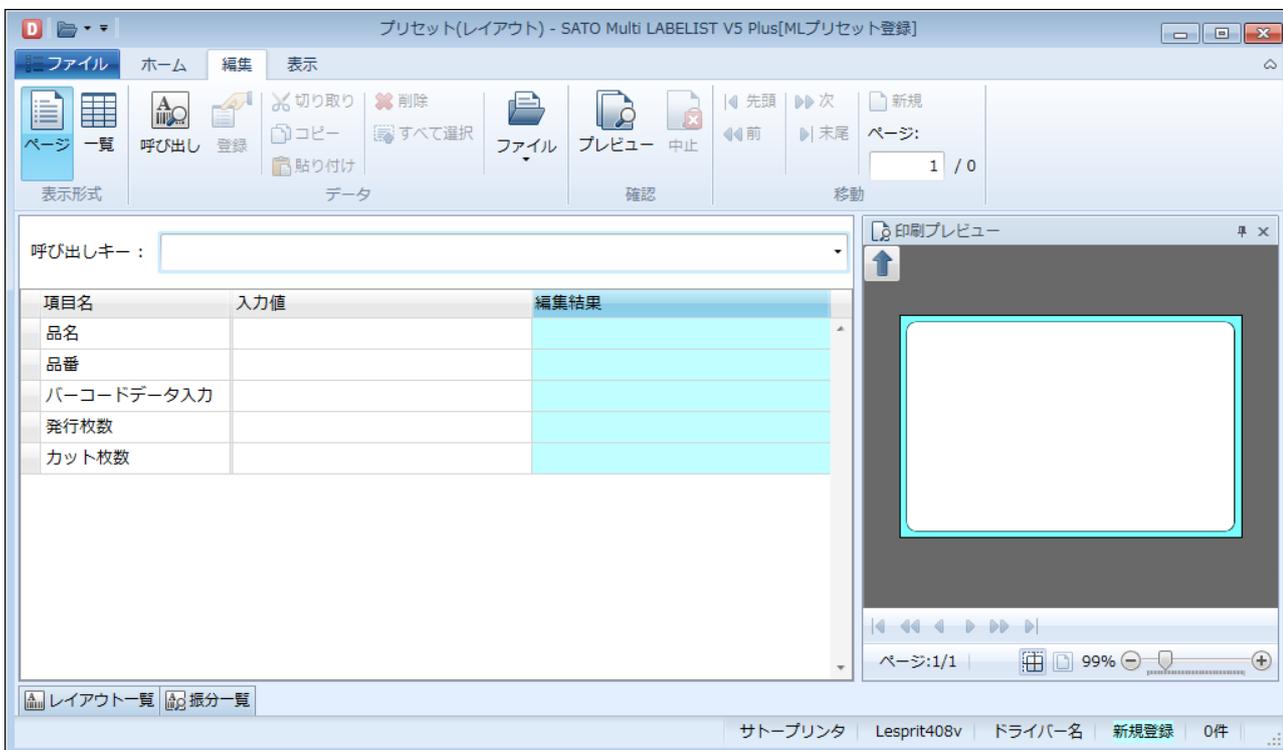
まずはじめに発行するデータの登録をおこなひましょう。

Windows スタートメニュー>すべてのプログラム>Multi LABELIST V5>ML プリセットの **D MLプリセット登録** を選択します。

パスワード入力後、発行データを登録するレイアウトを選択します。
今回は「プリセット.mllay」を選択してください。

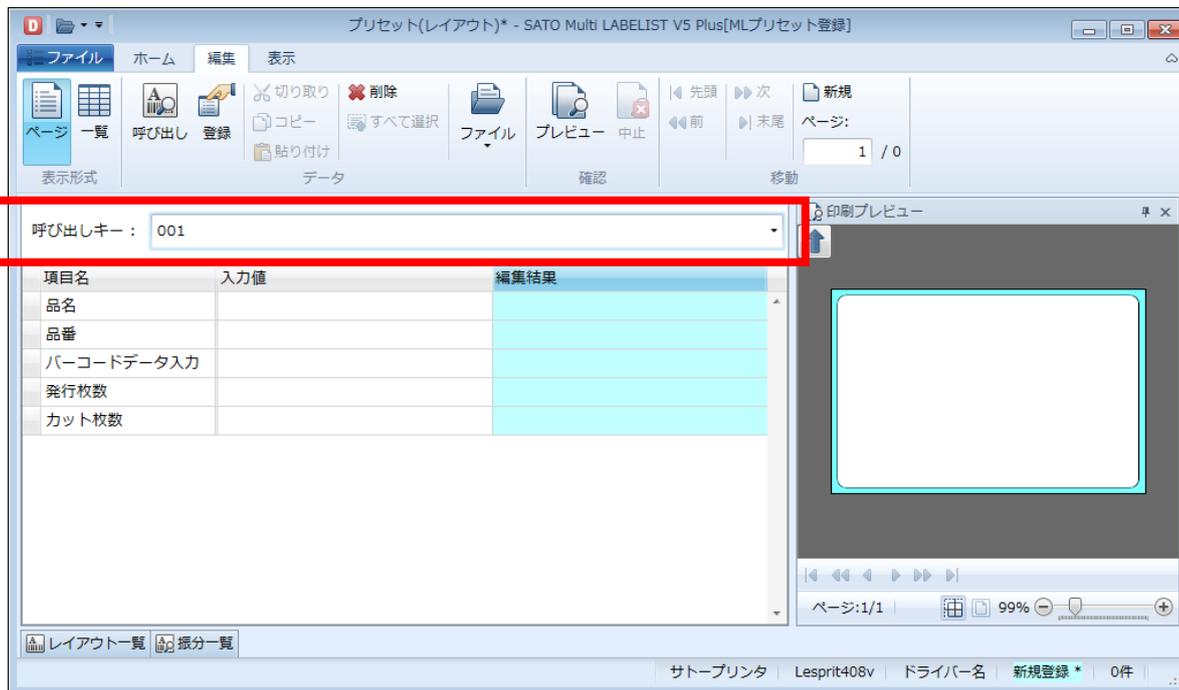


プリセット登録画面となります。



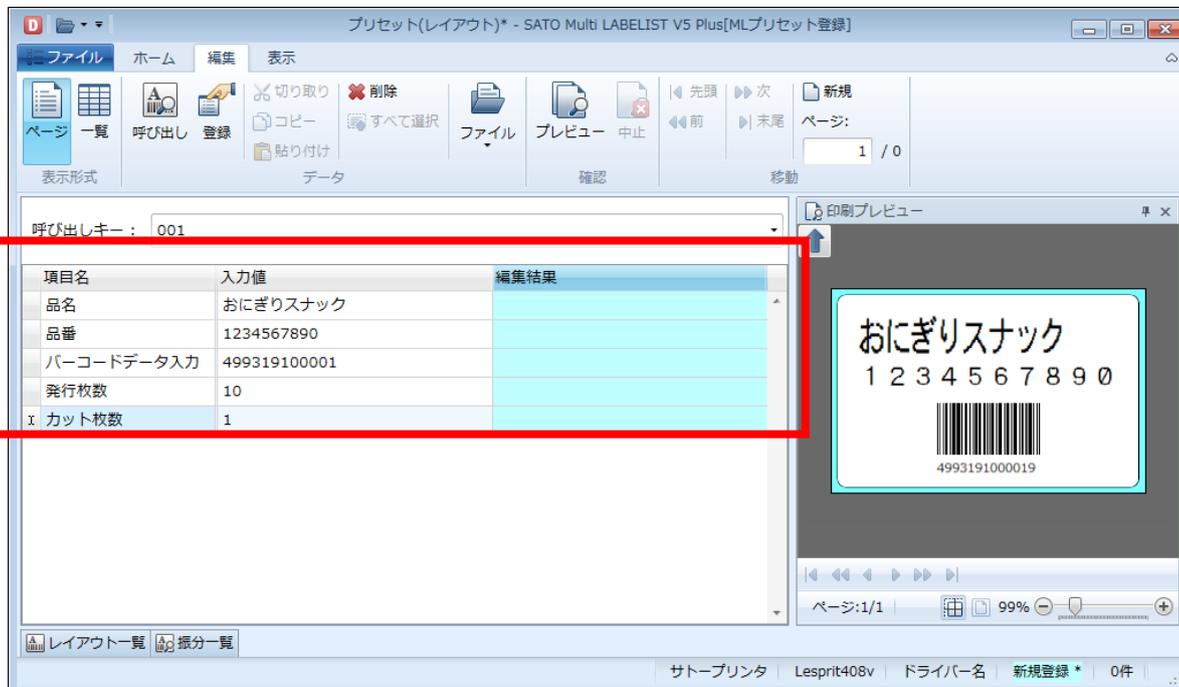
では実際に、発行データの登録を行ってみましょう。

まず呼び出しキーを入力します。呼び出しキーは発行する時にキーとなる項目です。

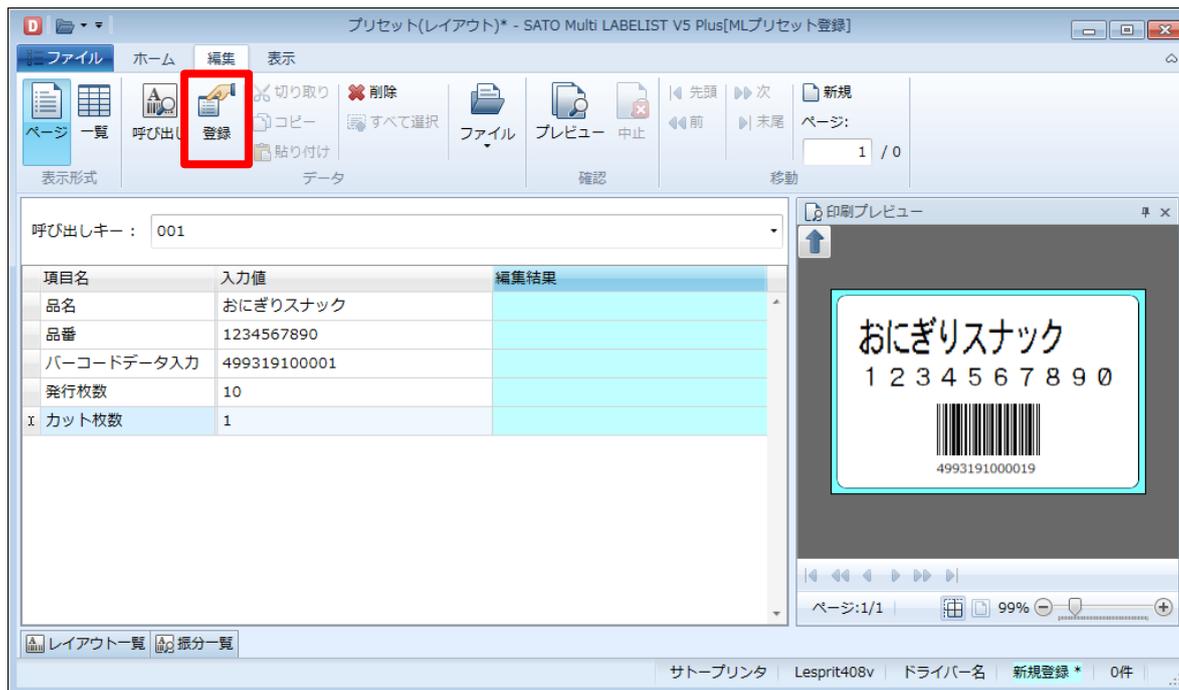


各入力項目に発行データを入力します。

画面右の「印刷プレビュー」ウィンドウで印字イメージが確認できます。



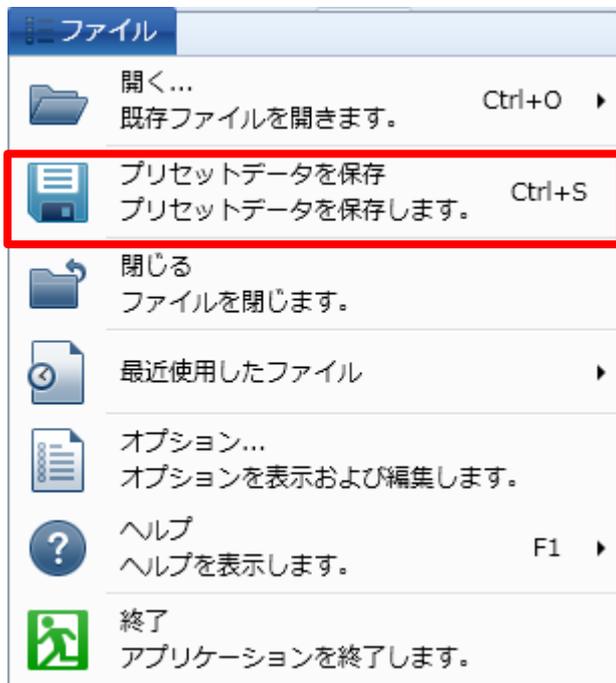
登録ボタンにてデータの登録を行います。



それでは、以上の要領でいくつかデータを登録してみましよう。

登録が終わったらプリセットデータを保存しましょう。

ファイルメニューの中から「プリセットデータを保存」を選択します。



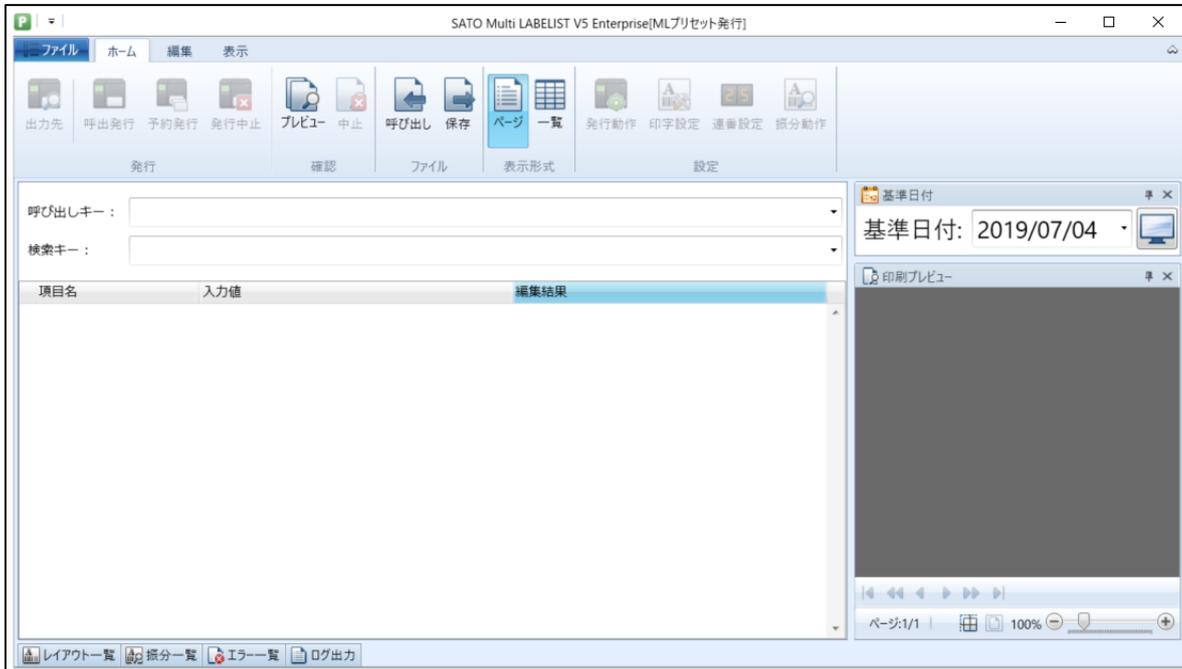
ファイルメニューの中から、終了を選択しMLプリセット登録を終了させてください。

それでは、MLプリセット発行で、登録したデータを呼び出して発行してみましよう。

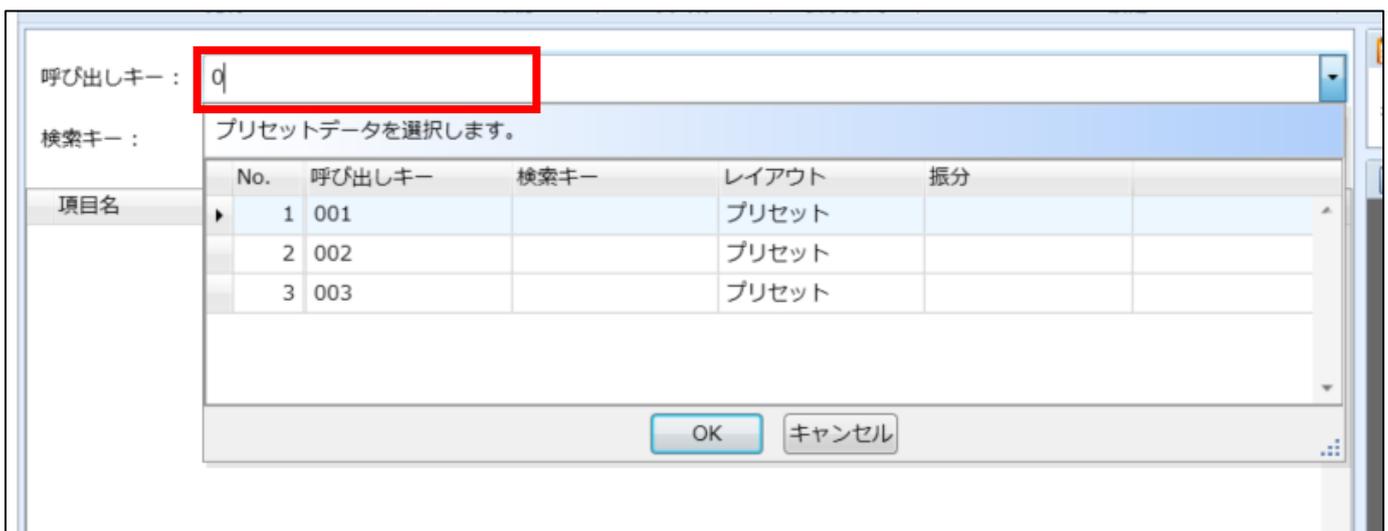
3. プリセット発行

Windows スタートメニュー>すべてのプログラム>Multi LABELIST V5>ML プリセットの **P MLプリセット発行** を選択します。

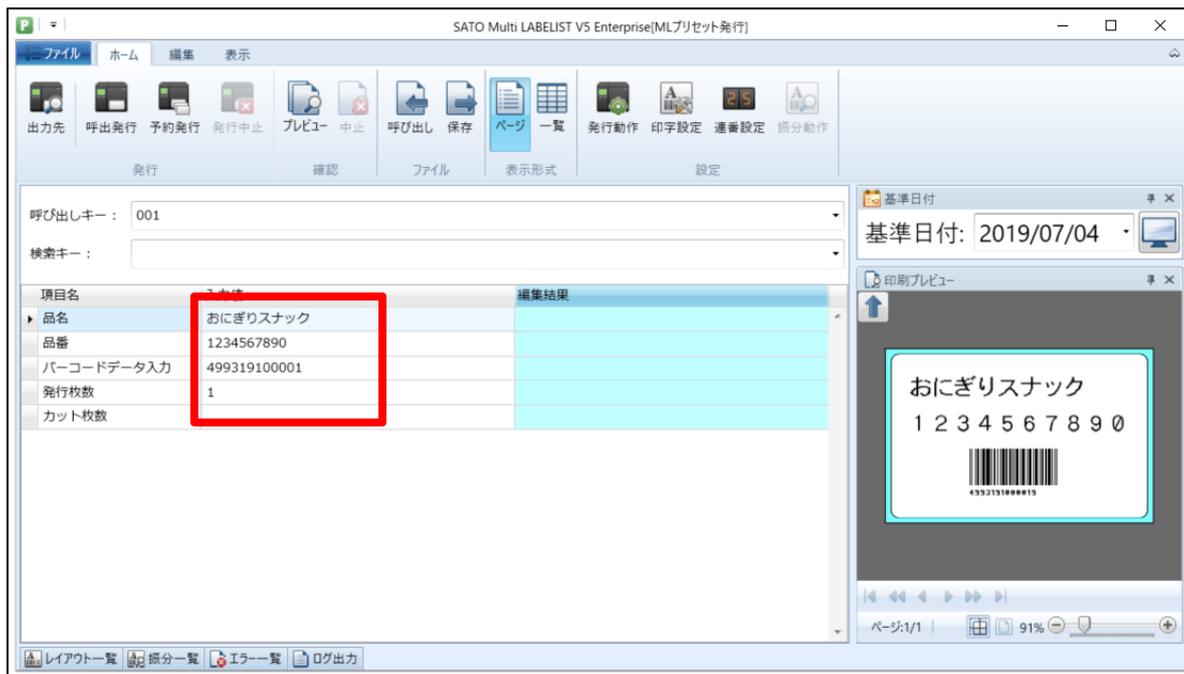
ML プリセット発行画面となります。



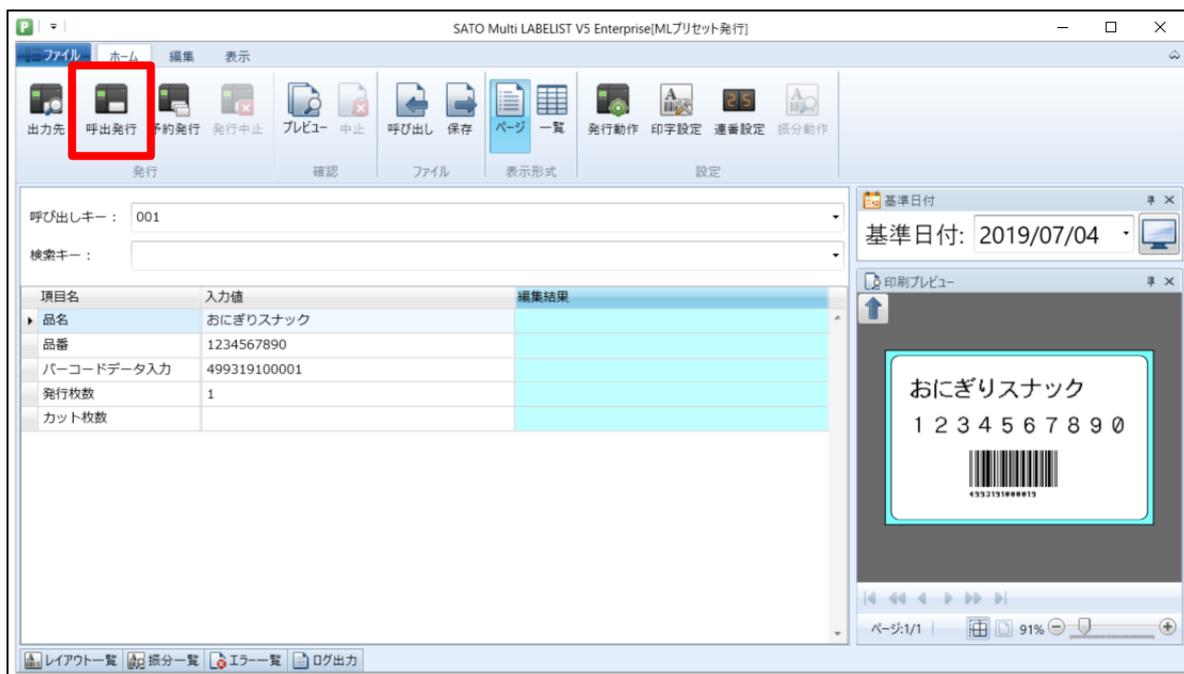
「呼び出しキー」を入力すると、入力したキーで絞り込まれたデータが一覧に表示されます。また「プルダウン」ボタンにて一覧を表示させ、選択することも出来ます。OKボタンで呼び出すデータを確定してください。



該当するデータが呼び出され、表示されます。



「呼出發行」ボタンにて発行を行います。



以上がプリセット発行の基本操作です。

次ページからは、発行データを予め予約しておき発行する練習を行いましょう。

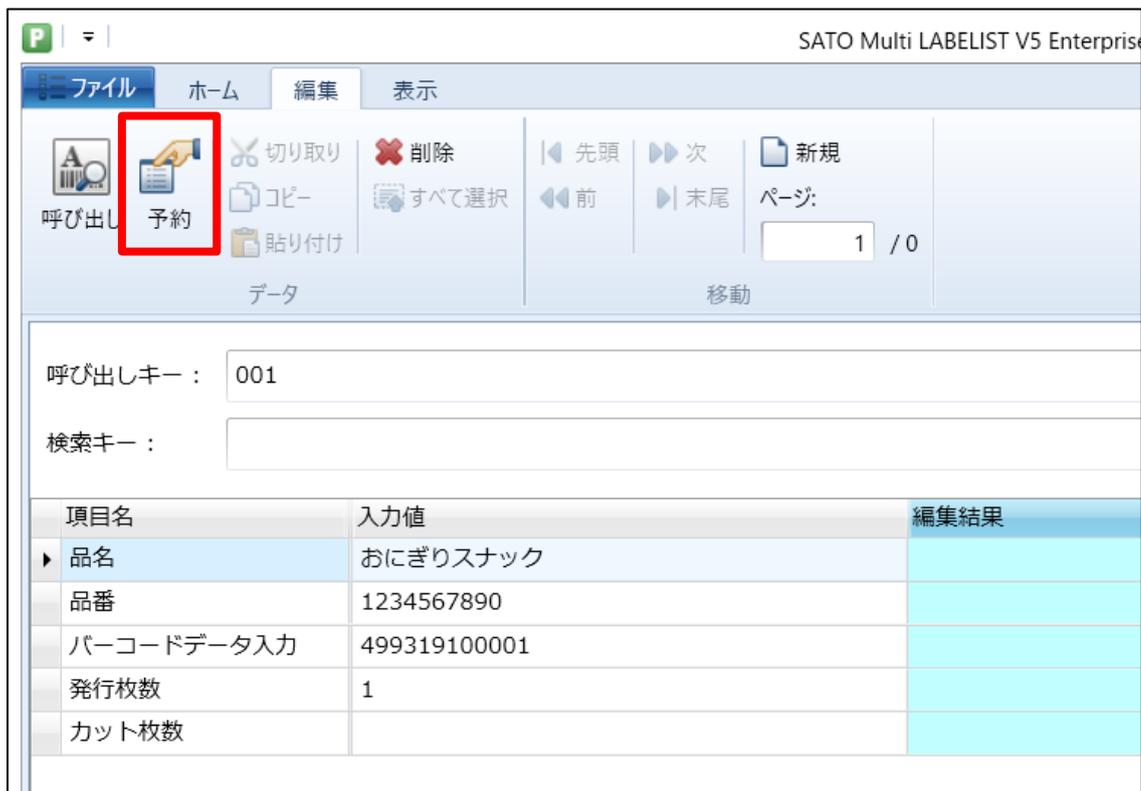
4. プリセット予約発行

発行データを複数呼び出して予約しておき、そのデータをまとめて発行を行います。

「編集」タブをクリックしリボン表示を切り替えます。



呼び出しキーを入力し発行データを呼び出し、「予約」ボタンをクリックします。この操作を繰り返して予約データを登録します。実際に、いくつか登録してみましょう。



リボンの「ホーム」タブに表示を切り替えて、「一覧」ボタンを押すと一覧画面に切り替わります。予約したデータの確認が行えます。一覧画面で予約データを登録することも可能です。



予約が終わったら「予約発行」ボタンにて発行を行います。



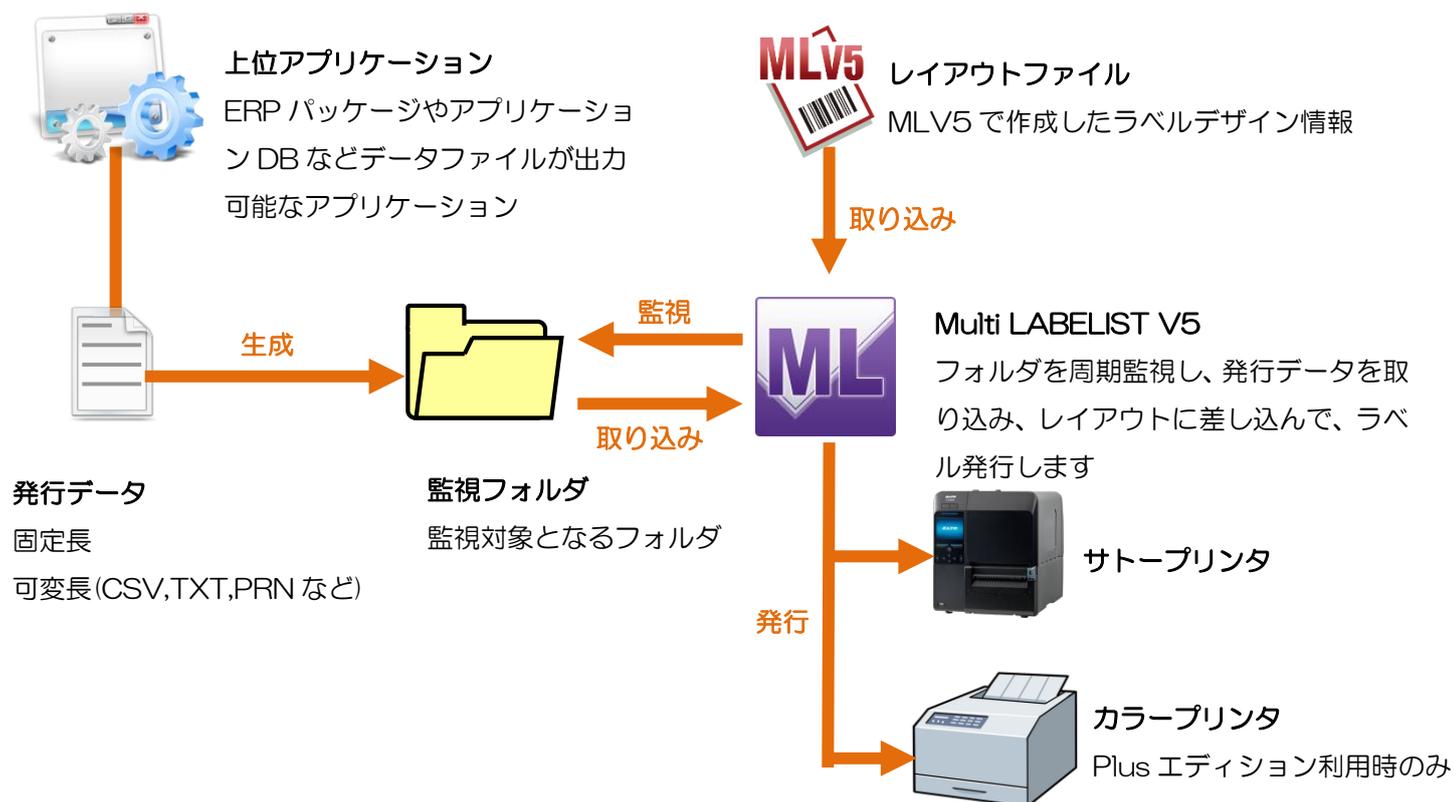
正しく発行されましたか？

以上で「[4：プリセット発行](#)」は終了です。

5：フォルダ監視発行

1. フォルダ監視発行とは

MLV5 が周期監視しているフォルダに、発行したいデータファイルを配置するだけで発行できる機能です。ファイル形式は固定長と可変長（区切り文字は任意に設定可能）に対応しています



■準備

これまでの練習を思い出して下のようなレイアウトを2つ作成しましょう。

プリンタ： レスプリ T408v/R408v

用紙： 縦45mm×横70mm

レイアウト名： 監視 1.mllayx

デザイン画面

品名 ??????????

品番 ?????

LotNo ??????????

* 0000000000000000 *

変数画面

変数名	区分	桁数	詳細
品名	入力	10	入力種類:文字
品番	入力	5	入力種類:文字
ロットNo	入力	10	入力種類:文字
バーコード	結合	15	指定文字削除:な...
品番	入力	5	入力種類:文字
ロットNo	入力	10	入力種類:文字

ファイル形式 (ファイル発行参照)

ファイル形式設定

ファイルの形式を設定します。

ファイル名:

種類: 可変長 自動で設定する(A)

ファイルフォーマットイメージ:

[ヘッダ]エリア	[行]エリア1行目	[行]エリア2行目	...	[行]エリアn行目	CR/LF
3個	1個				

ファイル形式

ファイル形式: カンマ区切り(*.csv)

ファイルの1行目のデータを取り込まない(L)

括り文字

括り文字: 削除する(E)

詳細設定

[ヘッダ]エリアの項目数: 個 自動設定値: 3 個

[行]エリアの1行あたりの項目数: 個 自動設定値: 1 個

[行]エリアの行数: 行 自動設定値: 1 行

末尾まで取り込む(Q)

フィールド定義(D)...

⚠ 詳細設定を変更する場合は、ファイルフォーマットと入力項目の整合性にご注意ください。

OK キャンセル

プリンタ： レスプリ T408v/R408v
 用紙： 縦45mm×横70mm
 レイアウト名： 監視2.mllayx

デザイン画面



変数画面

変数名	区分	桁数	詳細
品名	入力	10	入力種類:文字
品番	入力	5	入力種類:文字
バーコード	結合	15	指定文字削除:な...
品名	入力	10	入力種類:文字
品番	入力	5	入力種類:文字

ファイル形式 (ファイル発行参照)

ファイル形式設定

ファイルの形式を設定します。

ファイル名: _____

種類: 可変長 自動で設定する(A)

ファイルフォーマットイメージ:

[ヘッダ]エリア	[行]エリア1行目	[行]エリア2行目	...	[行]エリアn行目	CR/LF
2個	1個				

ファイル形式

ファイル形式: カンマ区切り(*.csv)

ファイルの1行目のデータを取り込まない(L)

括り文字

括り文字: 削除する(E)

詳細設定

[ヘッダ]エリアの項目数: 2 個 自動設定値: 2 個

[行]エリアの1行あたりの項目数: 1 個 自動設定値: 1 個

[行]エリアの行数: 1 行 自動設定値: 1 行

末尾まで取り込む(Q)

フィールド定義(D)...

⚠ 詳細設定を変更する場合は、ファイルフォーマットと入力項目の整合性にご注意ください。

OK キャンセル

作成出来ましたか？

それでは、フォルダ監視を設定しましょう。

2. フォルダ監視の設定

フォルダ監視発行の基本操作として、下記の条件で監視設定と発行を行ってみましょう。

監視フォルダ : C:\sato\watch
レイアウト : 監視 1 .mllayx
データファイル : data1.csv
出力先 : SATO Lesprit408v

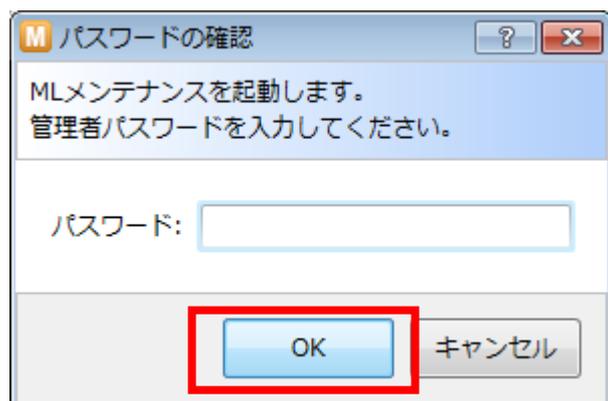
Windows スタートメニュー>すべてのプログラム>Multi LABELIST V5 の

 MLメンテナンス を選択します。

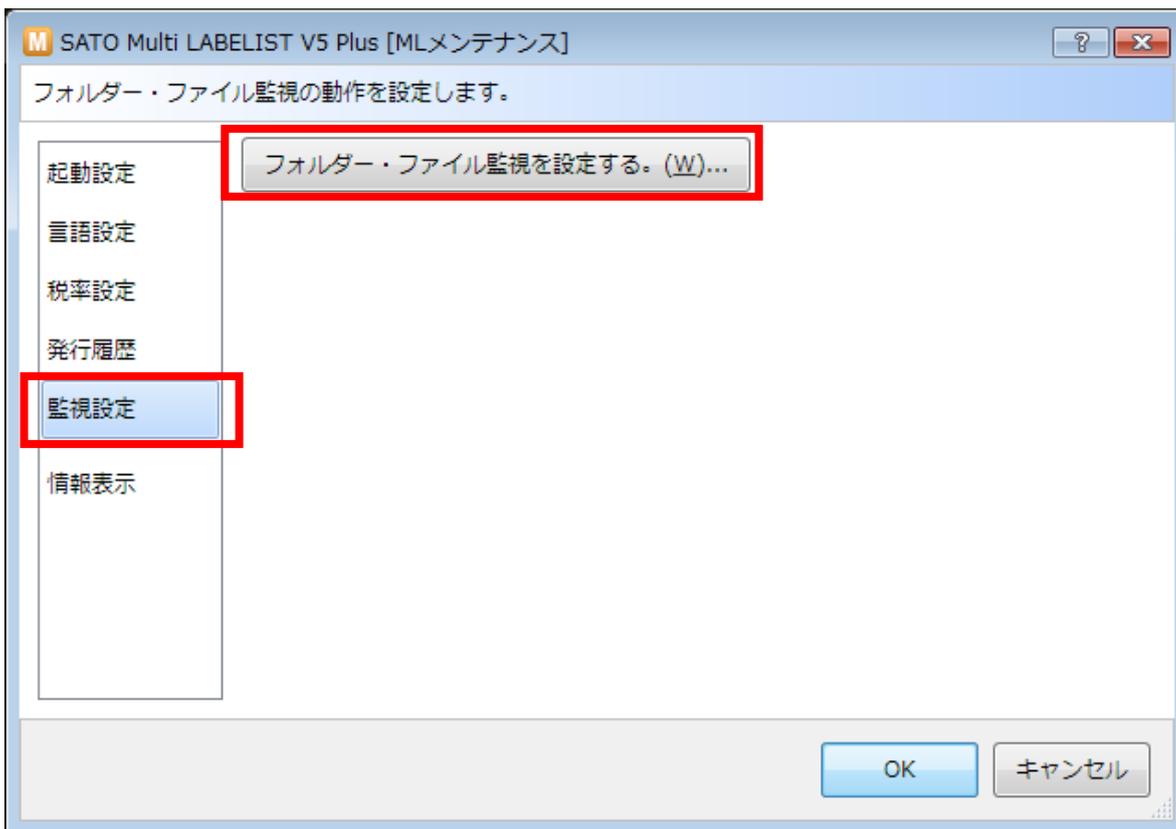
ユーザーアカウント制御は「はい」ボタンをクリックします。



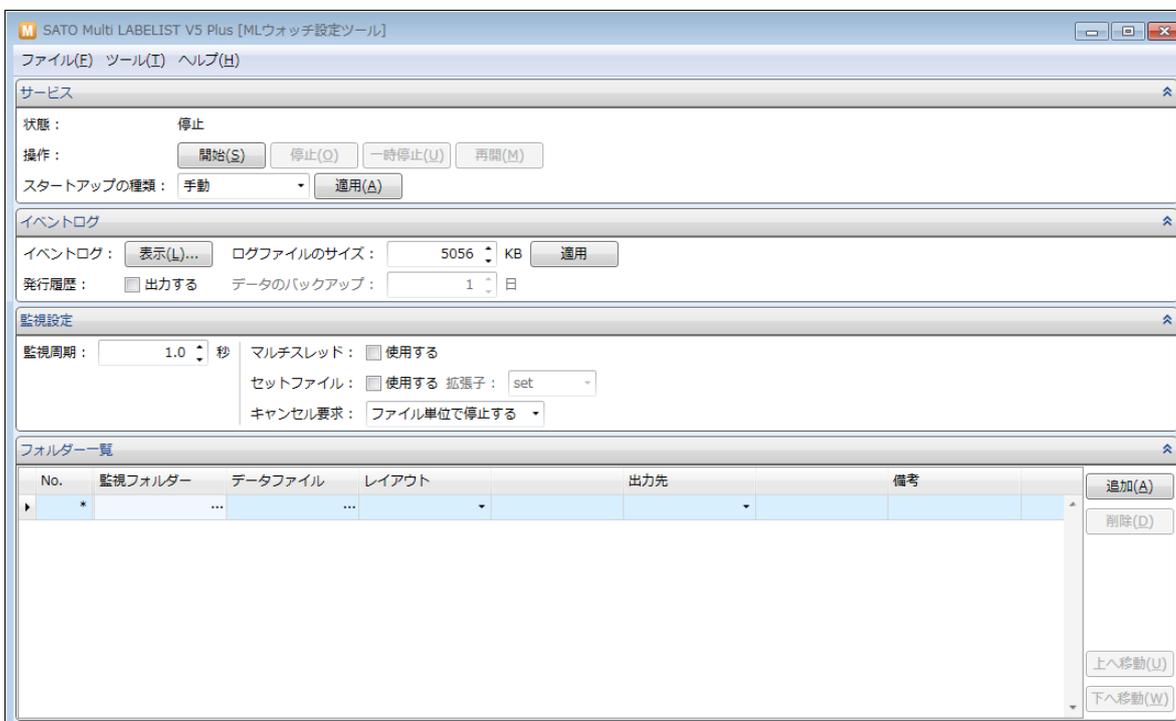
パスワードを入力します。



左のメニューから「監視設定」を選択し、「フォルダー・ファイル監視を設定する。」をクリックします。



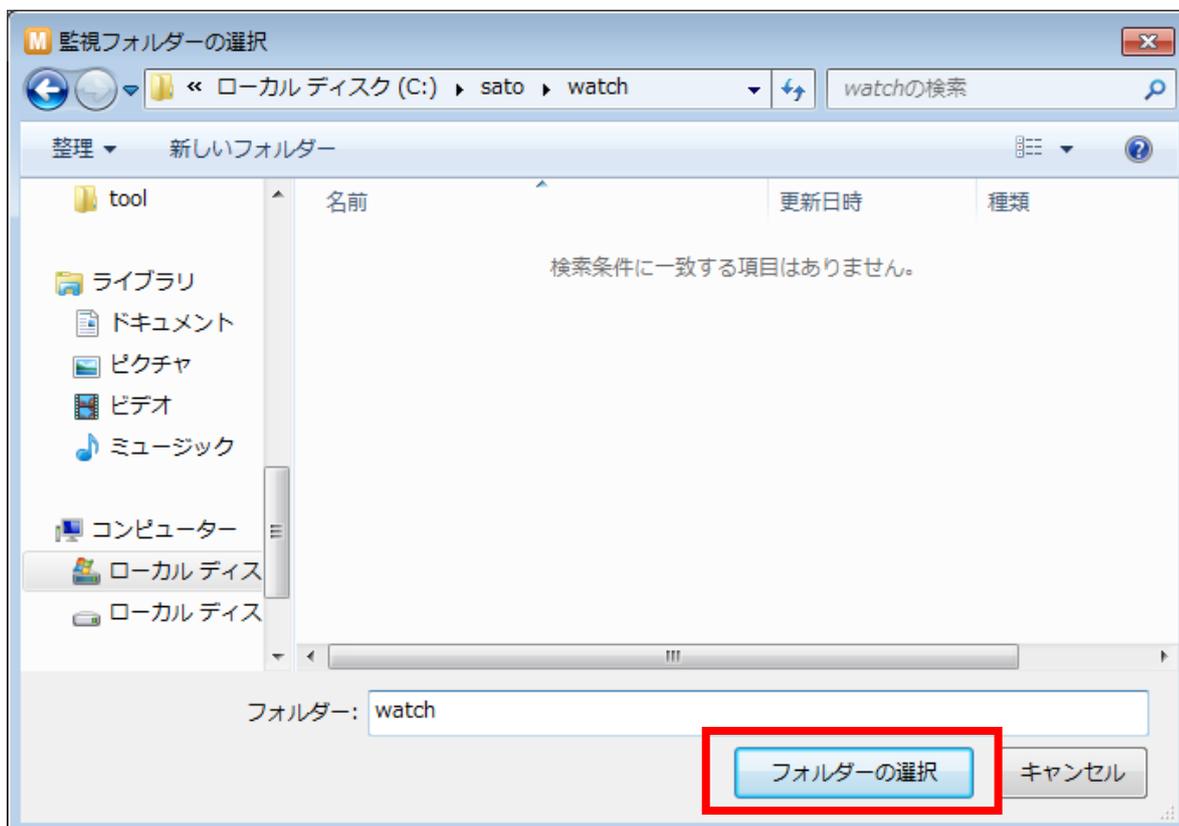
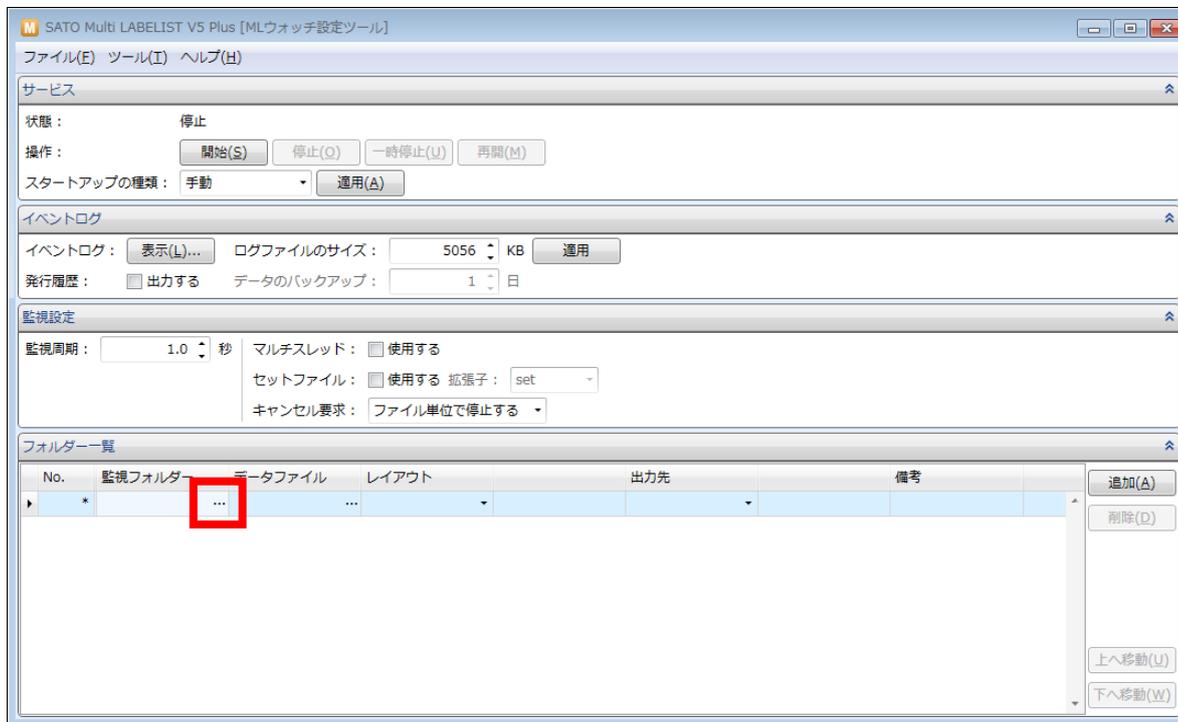
監視設定（ML ウォッチ設定ツール）が起動します



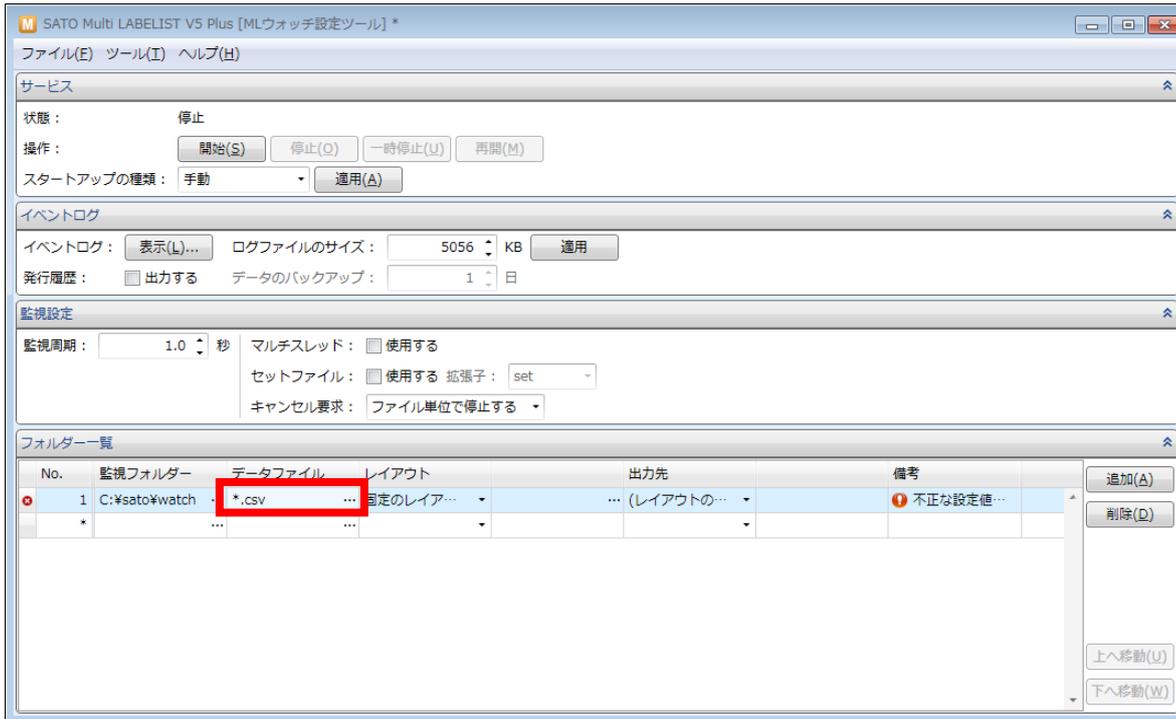
では実際に、フォルダー監視設定を行ってみましょう。

まず監視フォルダを選択します。

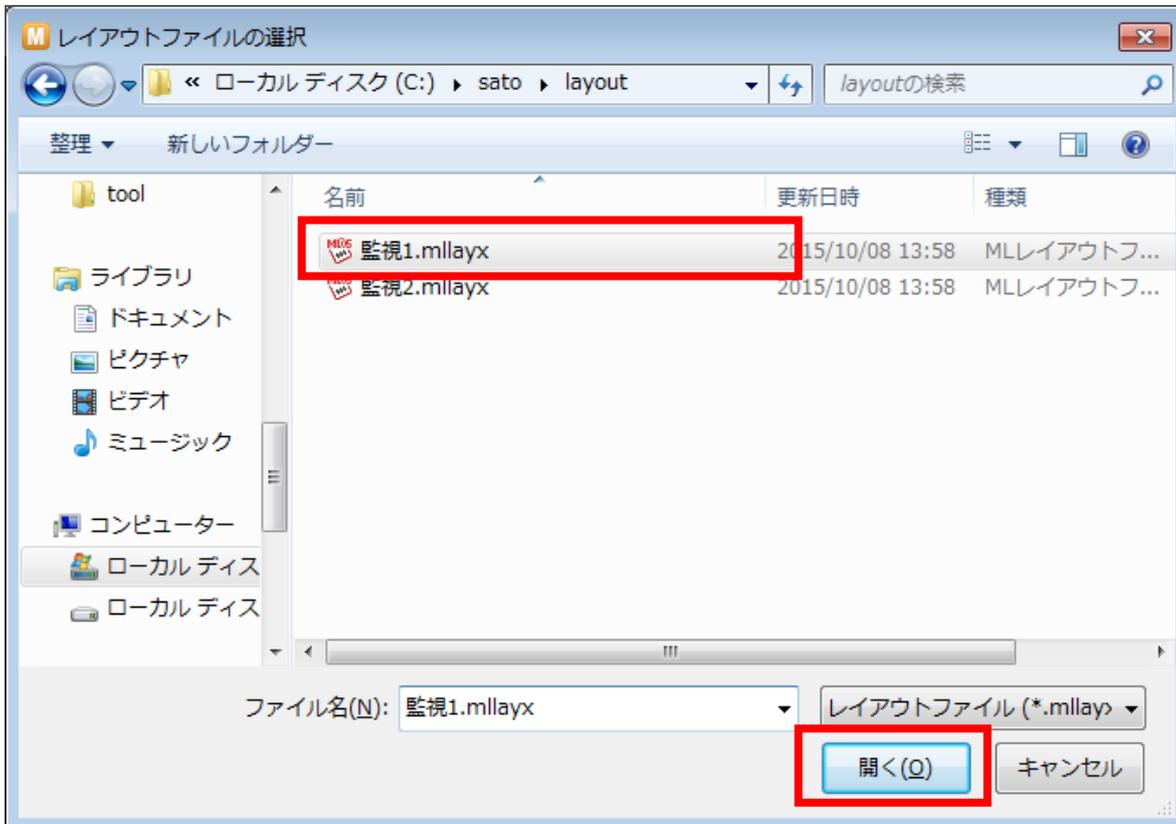
※ ネットワーク上のフォルダ（¥¥で始まる共有フォルダや割当てられたネットワークドライブなど）は監視フォルダに設定しないでください。フォルダ監視やラベル発行で予期せぬトラブルが発生する可能性があります。

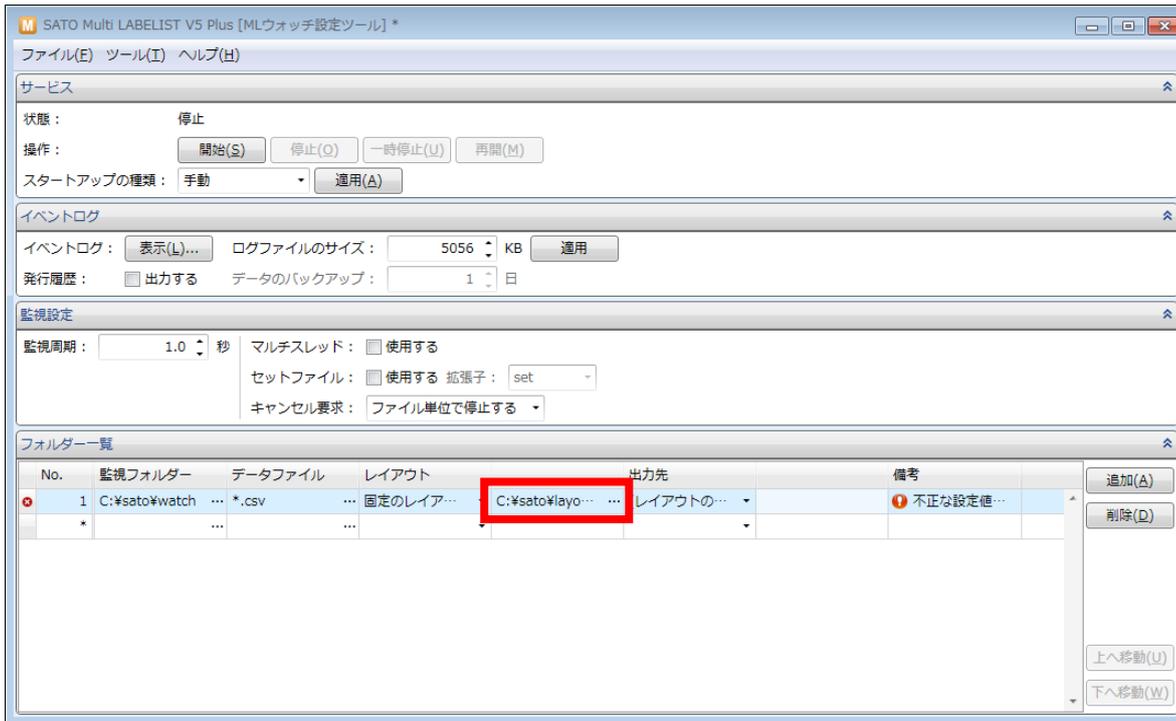


監視対象のデータファイル名に「*.csv」を入力します。

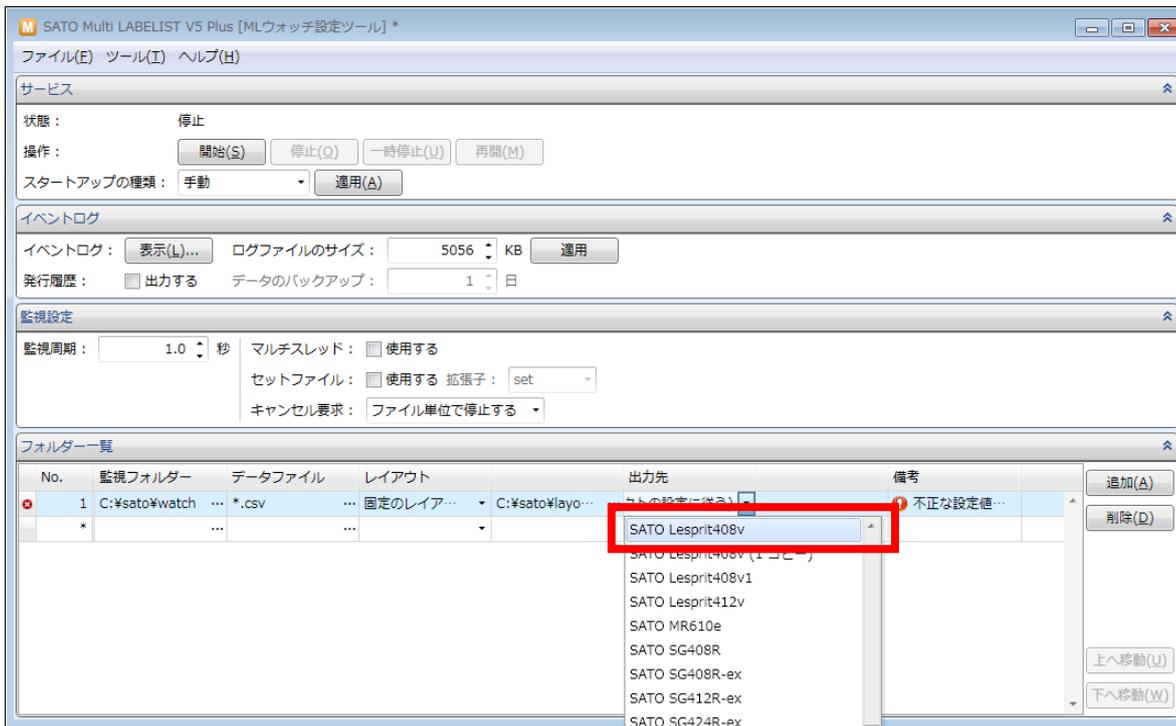


レイアウトを選択します。

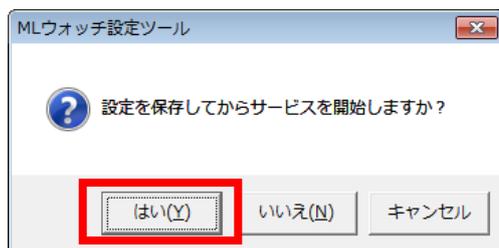
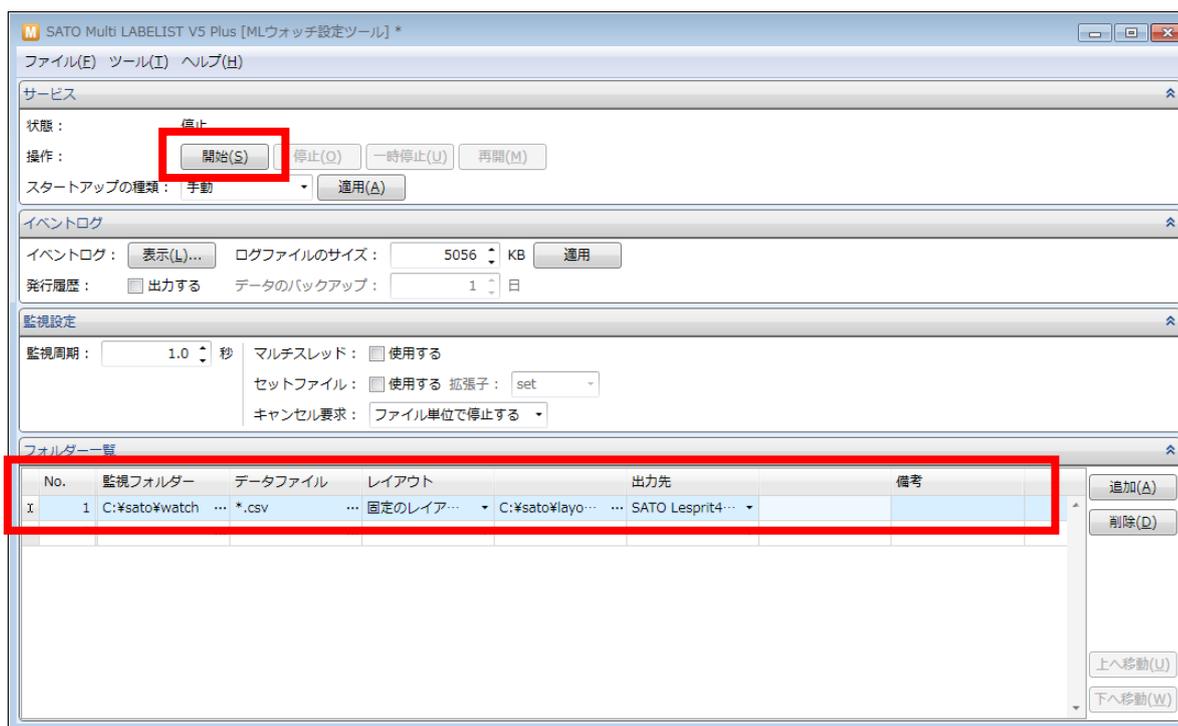




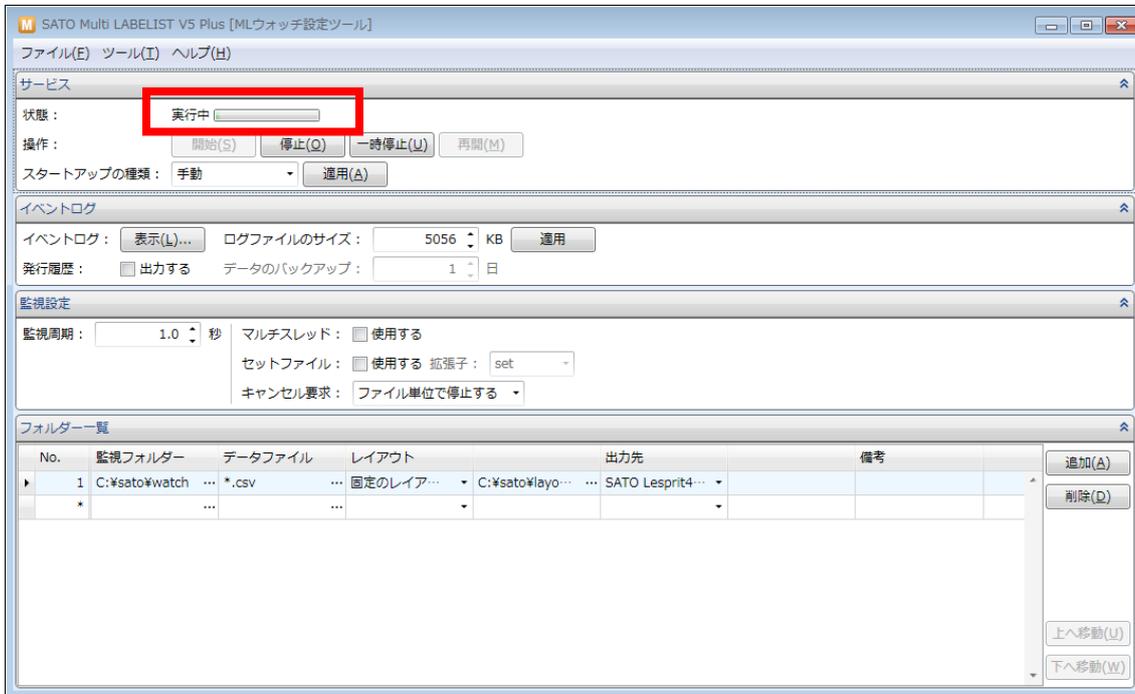
出力先を選択します。



フォルダー一覧にエラーが表示されていないことを確認し、サービスの「開始」ボタンをクリックします。



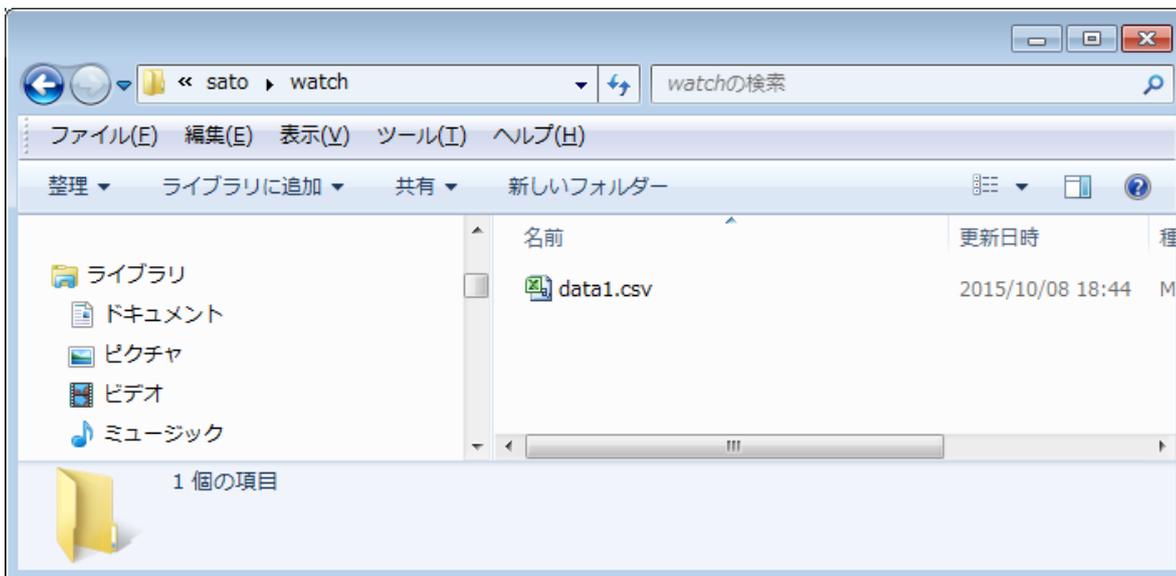
実行中となれば、フォルダ監視が正常に動作しています。



データファイルを監視フォルダに配置して発行を行います。

データファイル：data1.csv

```
1234567890,00001,AAAAAAAAAAA,1
1234567890,00001,BBBBBBBBBBB,1
1234567890,00001,CCCCCCCCCCC,1
```



以上がフォルダ監視発行の基本操作です。

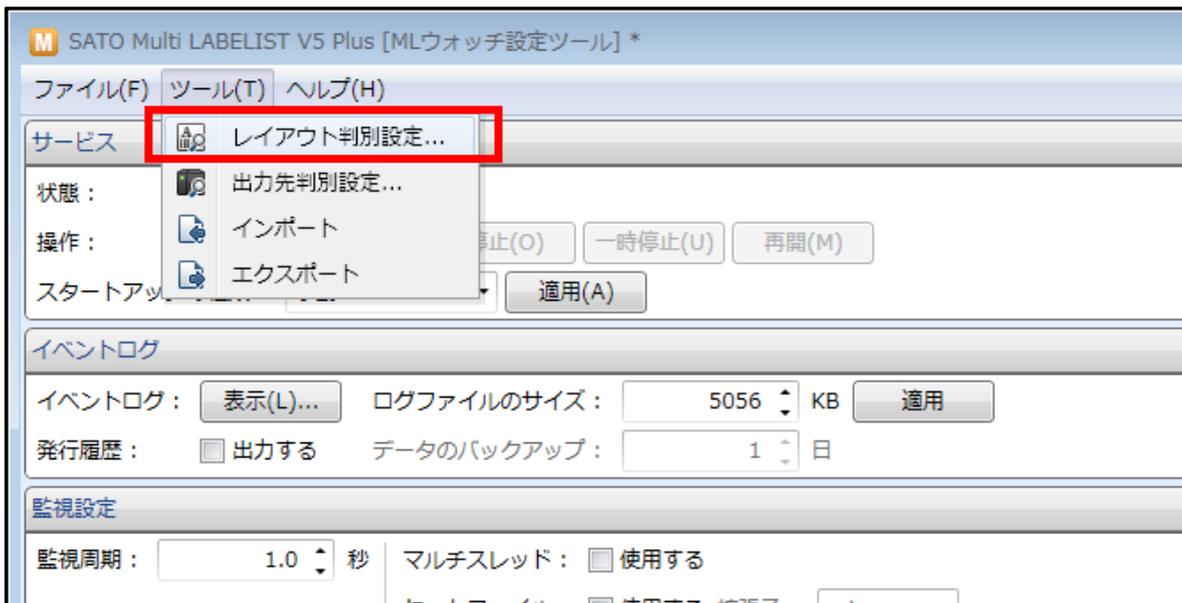
次ページからは、レイアウトや出力先をデータで指定する方法の練習を行いましょう。

3. レイアウトのデータ指定

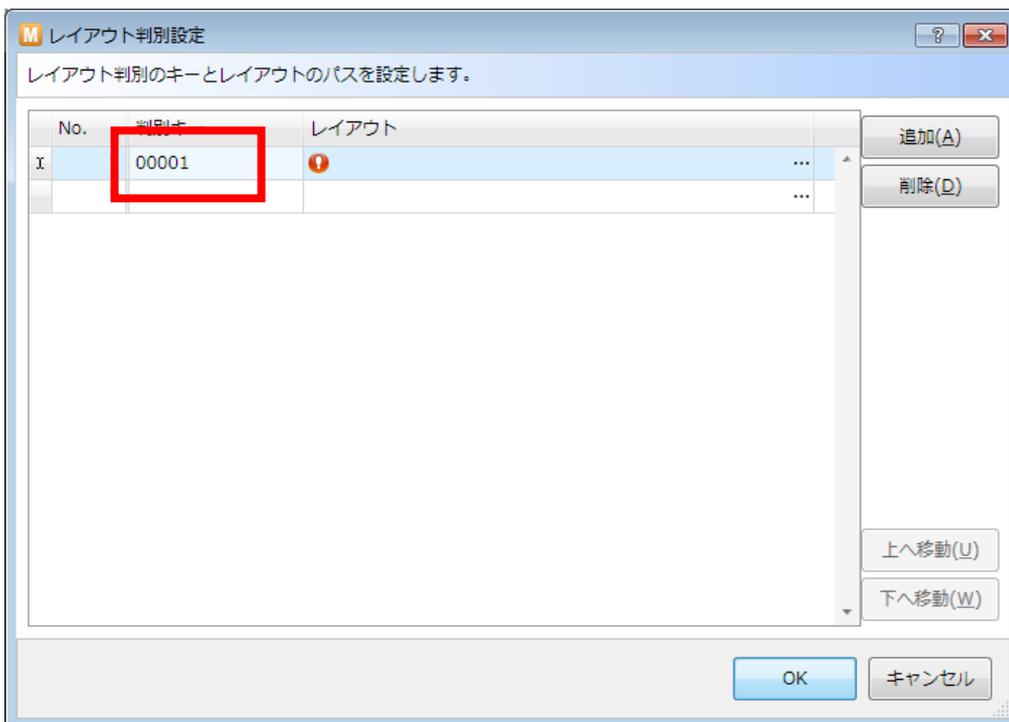
発行するレイアウトを固定のレイアウトからデータファイルで指定する方法へ変更します。
例として、データファイルの「品番」が「00001」なら「監視1.mllayx」を、「00002」なら「監視2.mllayx」で発行する方法を設定します。

まず使用するレイアウトと紐付けるデータ（判別キー）を設定します。

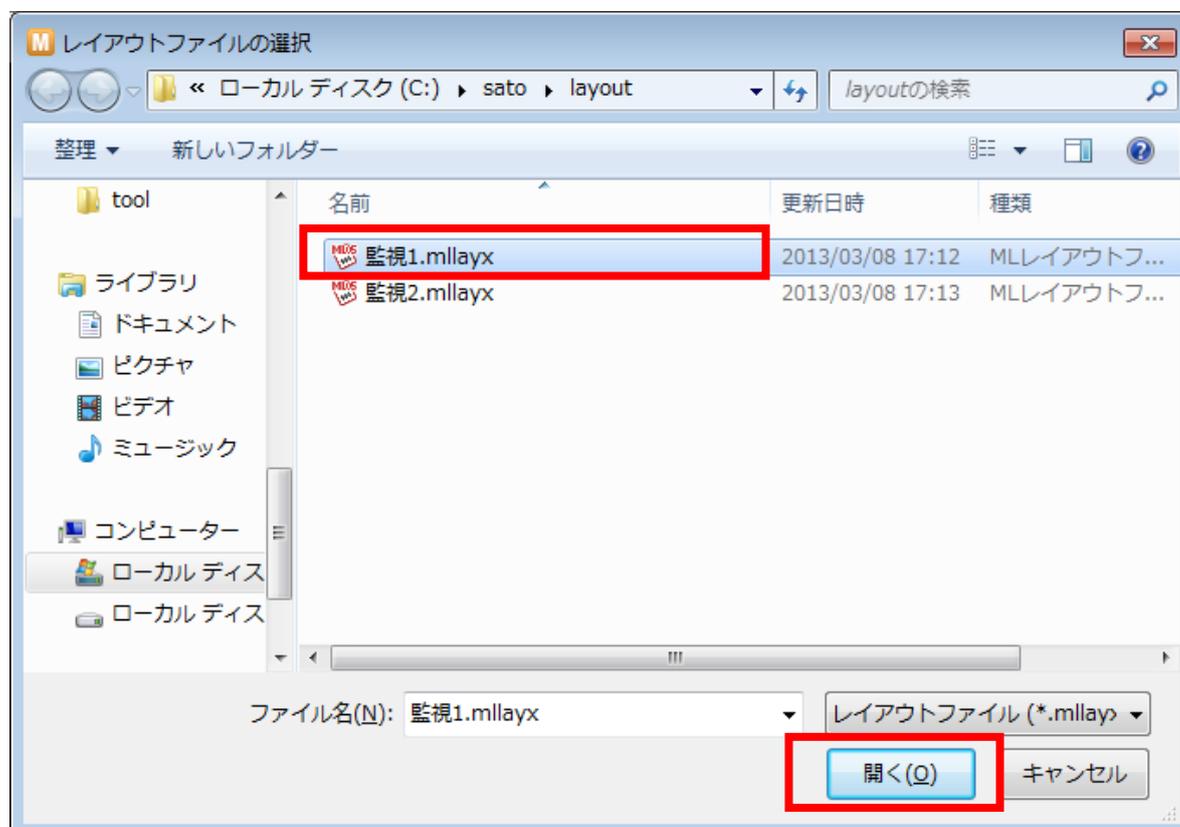
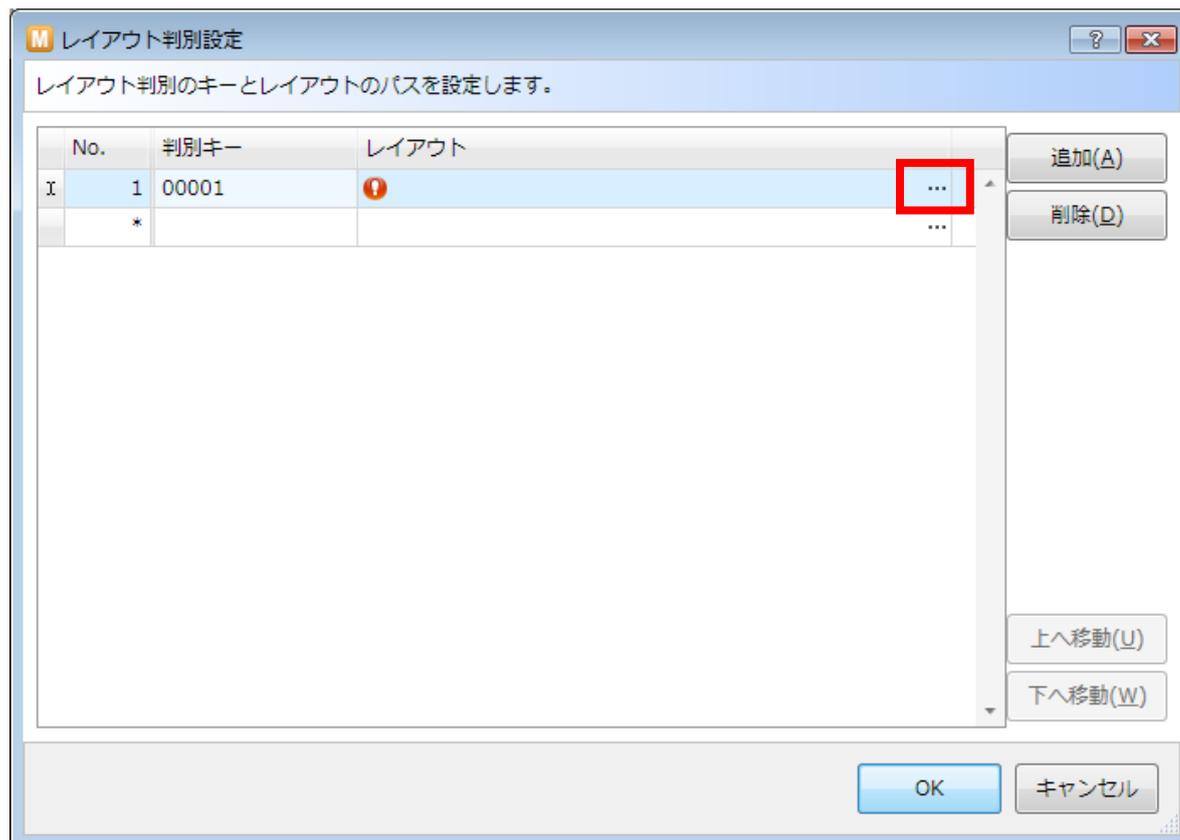
ツールメニューの「レイアウト判別設定」を選択します。



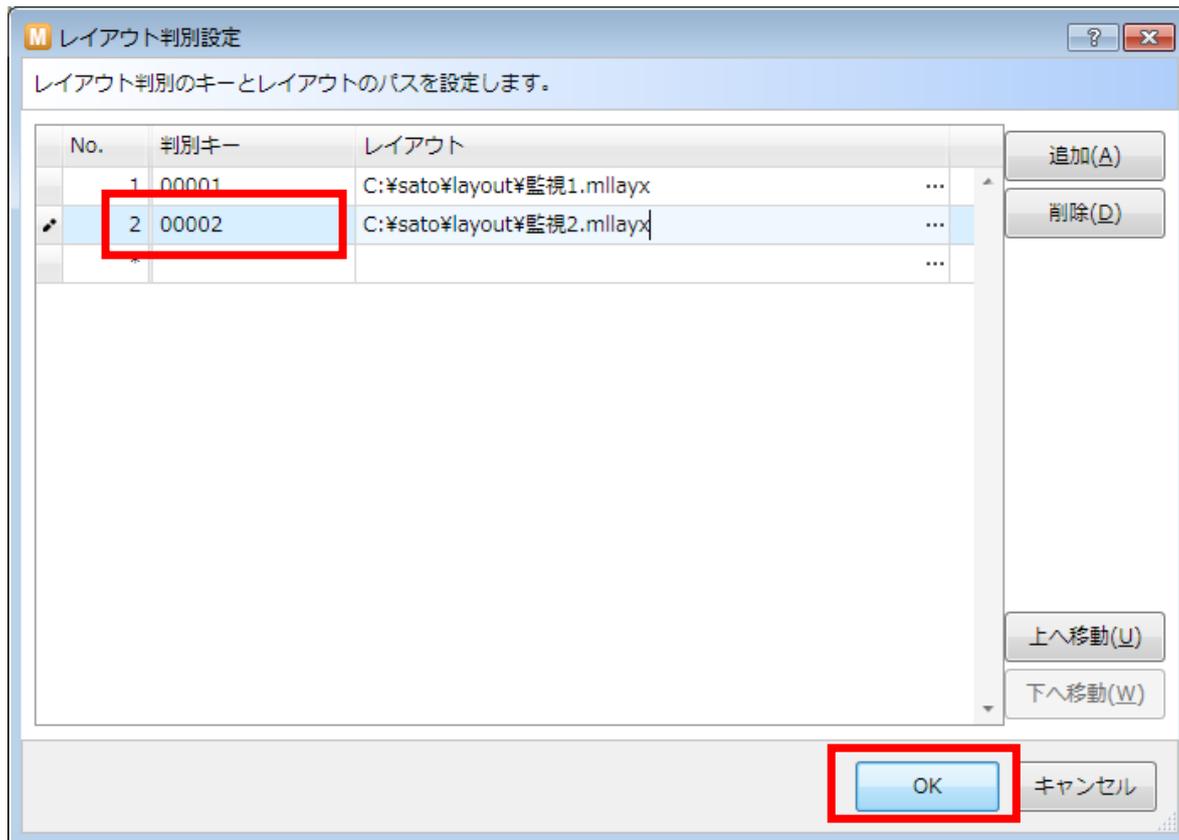
判別キーに「00001」と入力します。



レイアウト「監視 1.mllayx」を選択します。

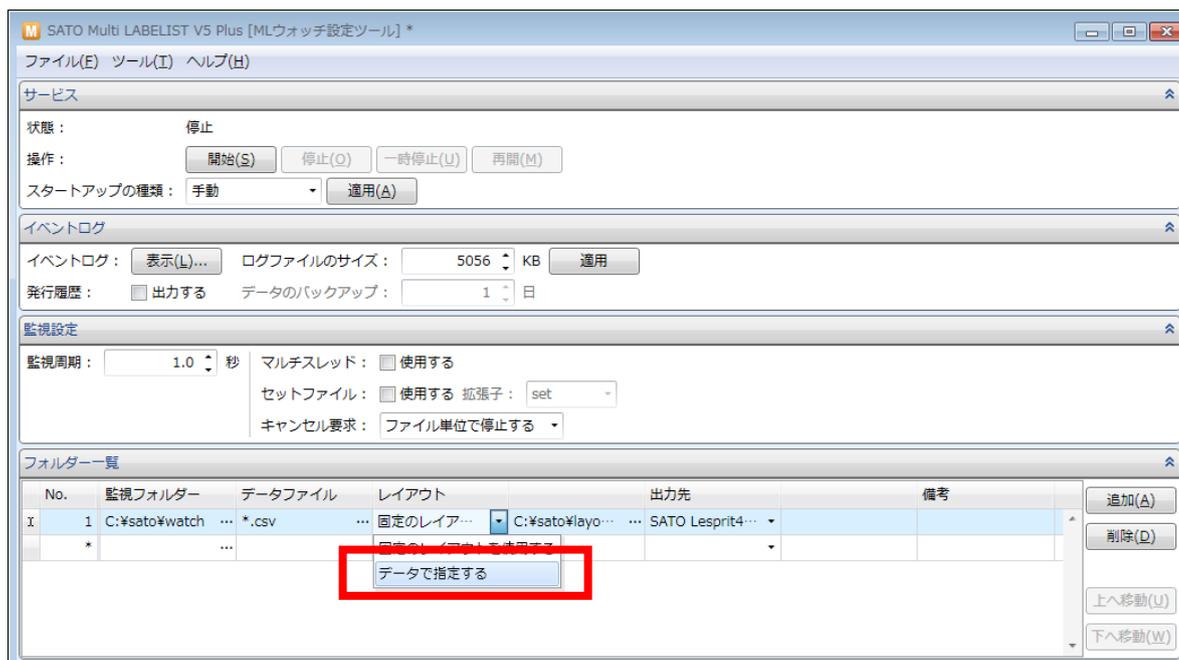


同様に、判別キー「00002」とレイアウト「監視 2.mllayx」を設定し、「OK」ボタンをクリックします。

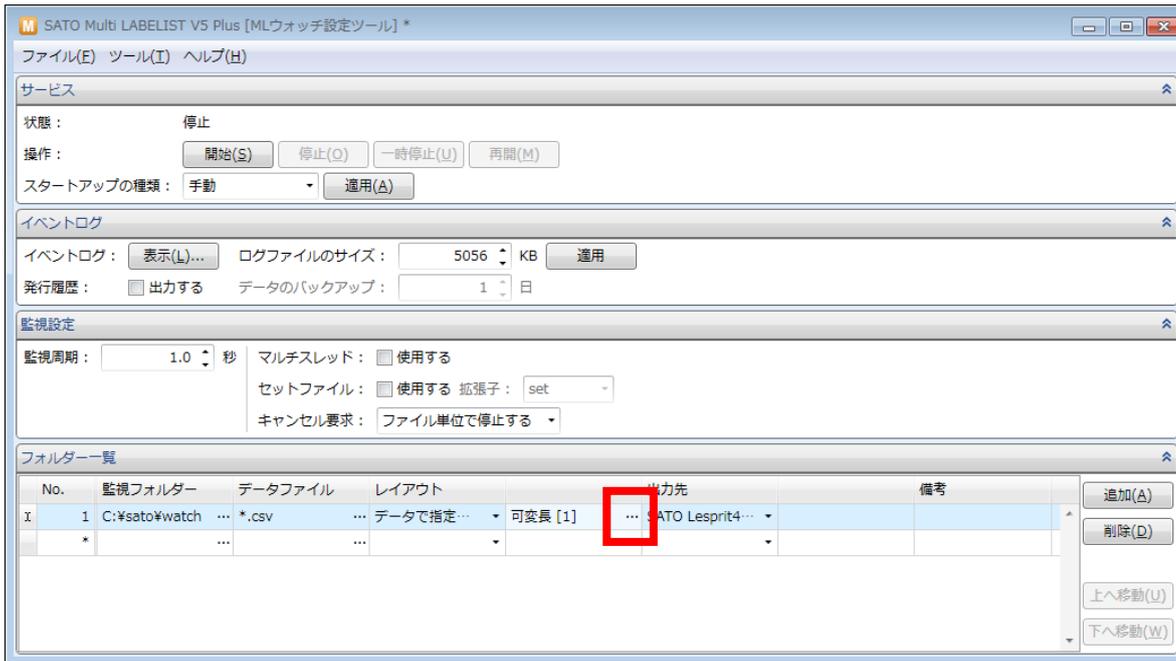


続いて、監視方法を設定します。

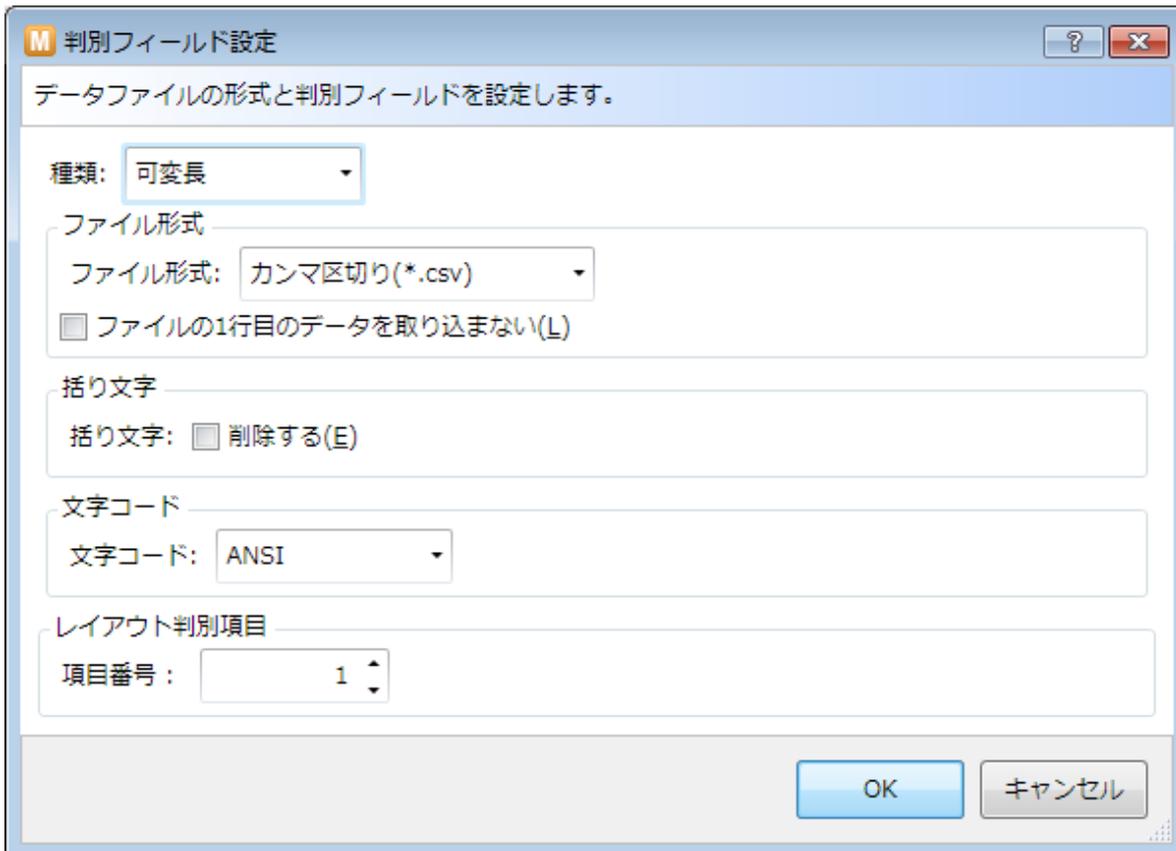
レイアウトで「データで指定する」を選択します。



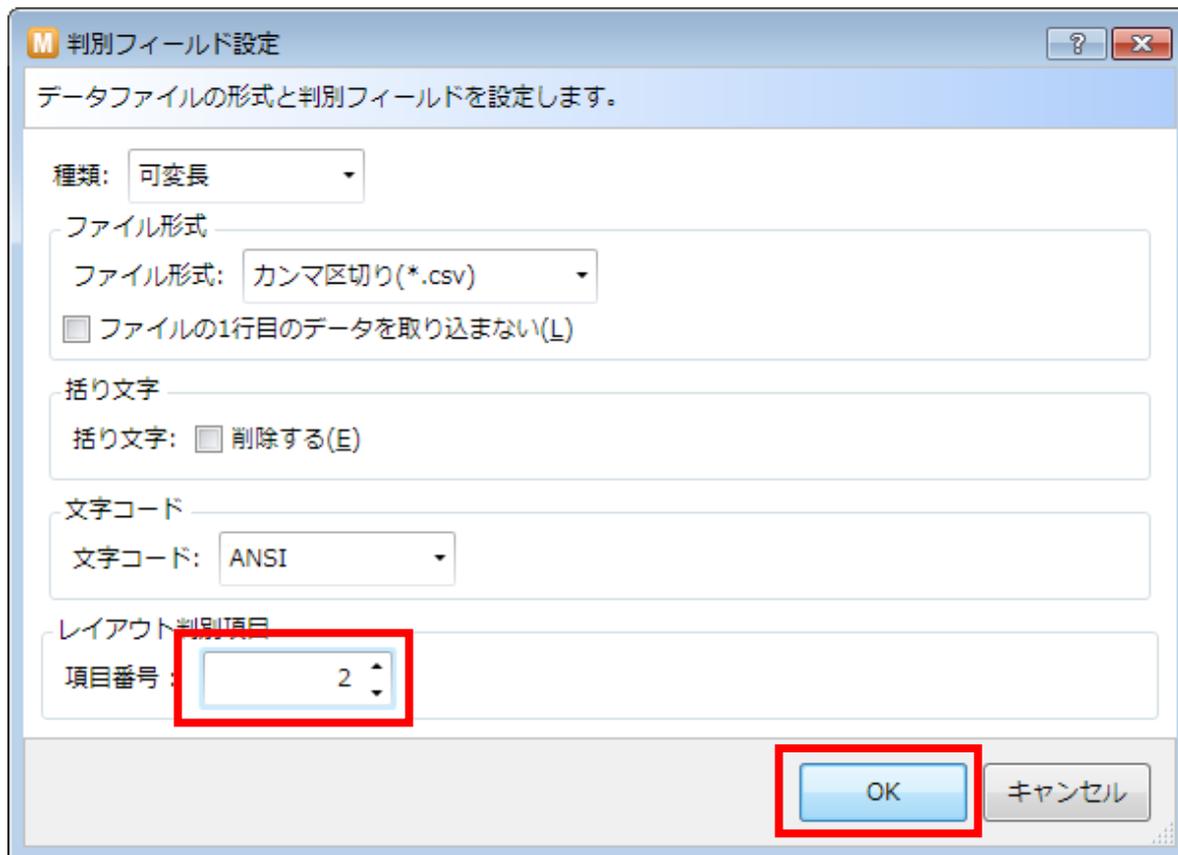
「…」をクリックします。



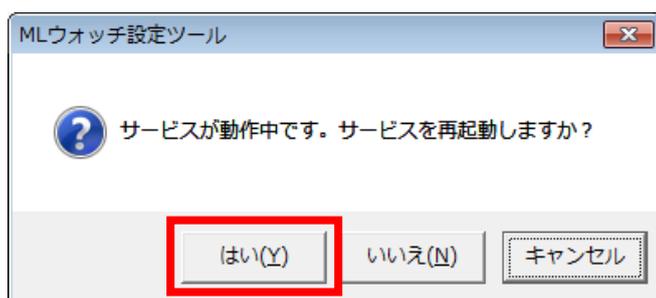
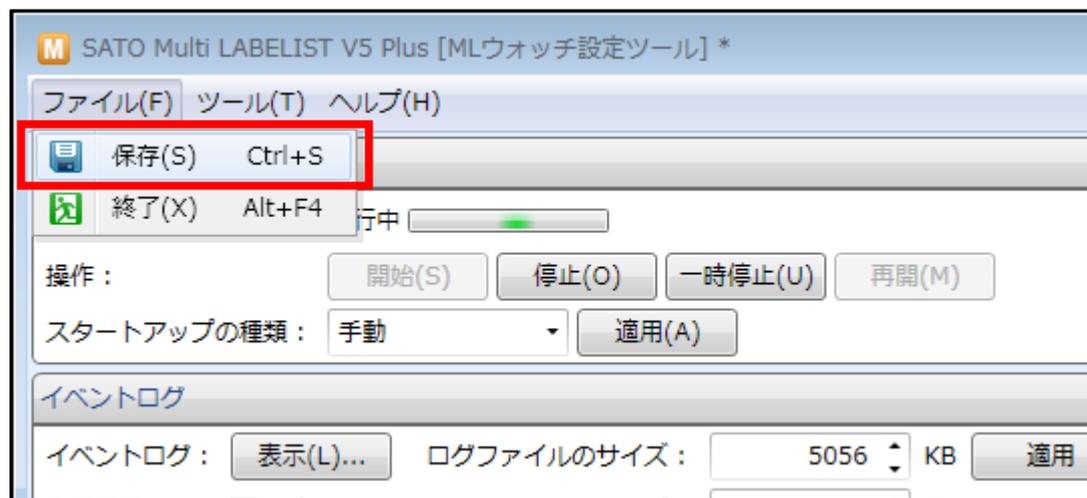
判別フィールド設定が表示されます。



レイアウト判別項目を「2」を設定し、「OK」ボタンをクリックします。
 (データファイルの2番目の項目で、レイアウトを判別します。)



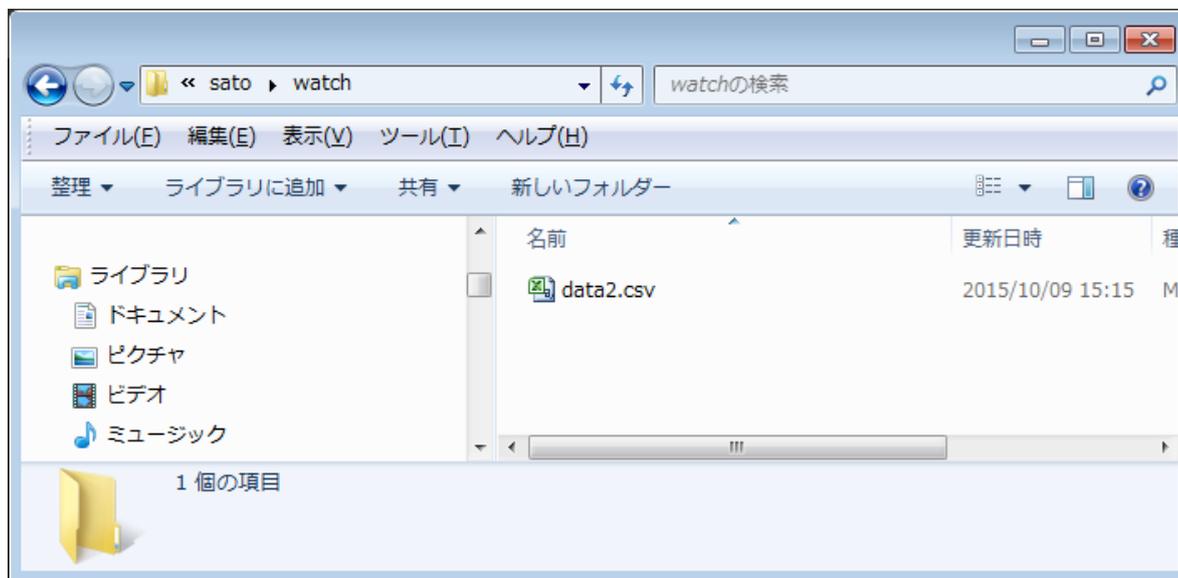
ファイルメニューの「保存」を選択し、サービスを再起動します。



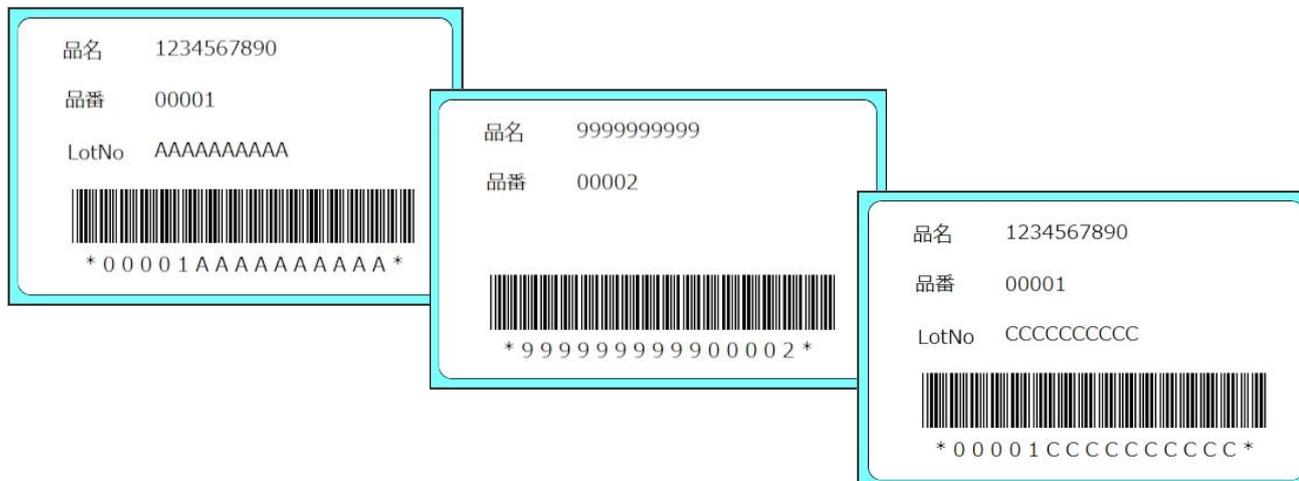
データファイルを監視フォルダに配置して発行を行います。

データファイル：data2.csv

```
1234567890,00001,AAAAAAAAAAA,1
9999999999,00002,1
1234567890,00001,CCCCCCCCCCC,1
```



レイアウト「監視 1.mllayx」と「監視 2.mllayx」が発行されれば完了です。



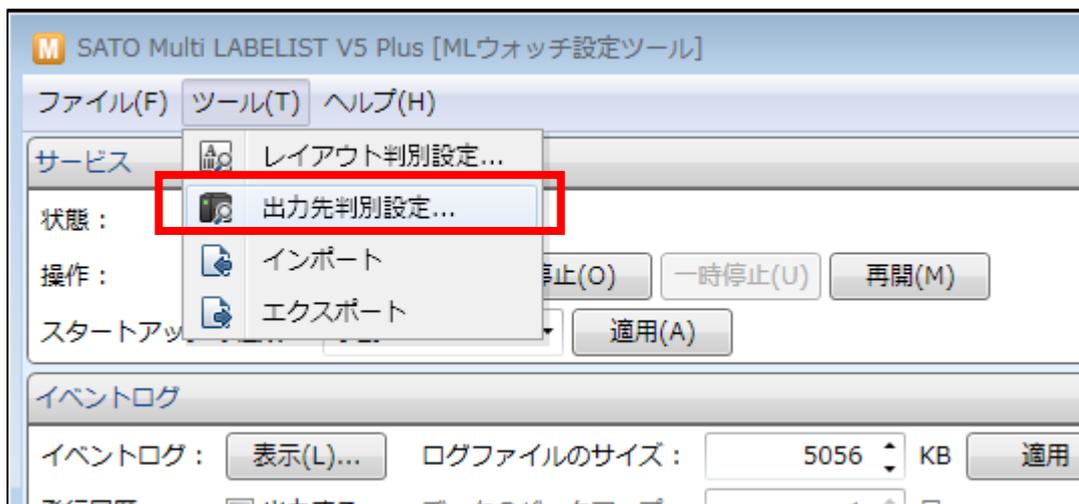
4. 出力先のデータ指定

出力先を固定のプリンタドライバからデータファイルで指定する方法へ変更します。

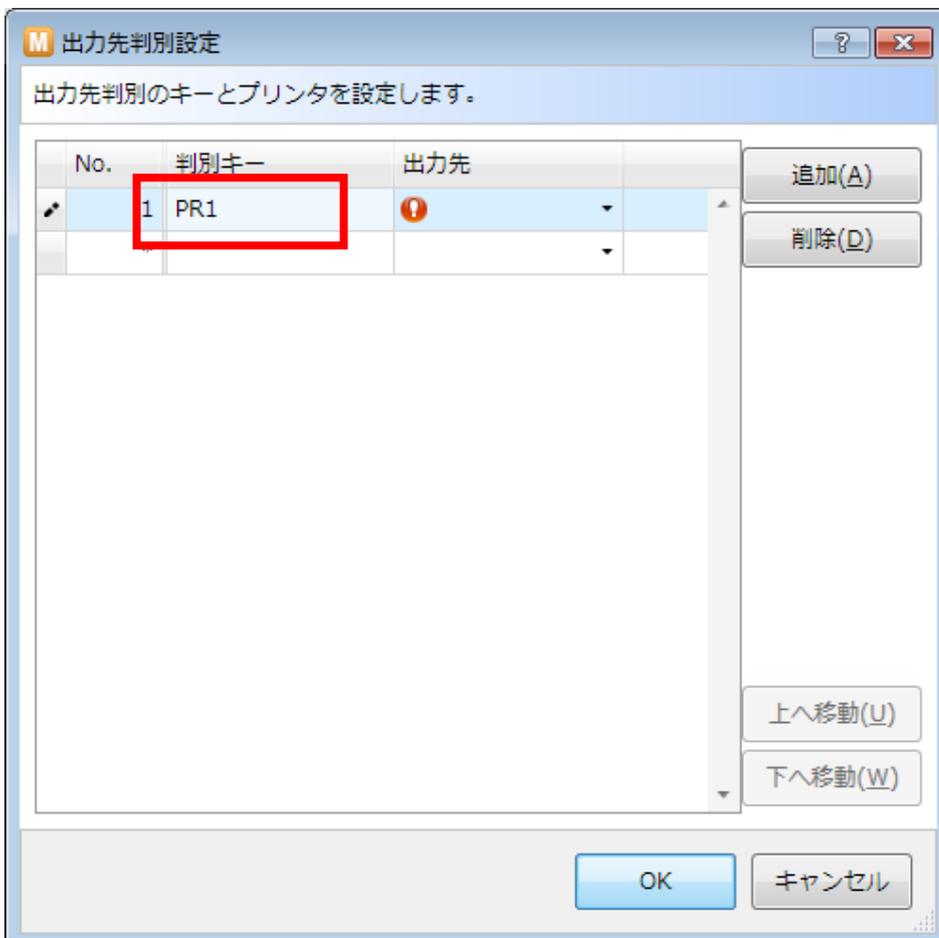
例として、データファイルの項目に新たに「プリンタ判別番号」を設け、「PR1」なら「SATO Lesprit408v」、「PR2」なら「SATO Lesprit408v (1 コピー)」で発行する方法を設定します。

まず使用する出力先のプリンタドライバと紐付けるデータ（判別キー）を設定します。

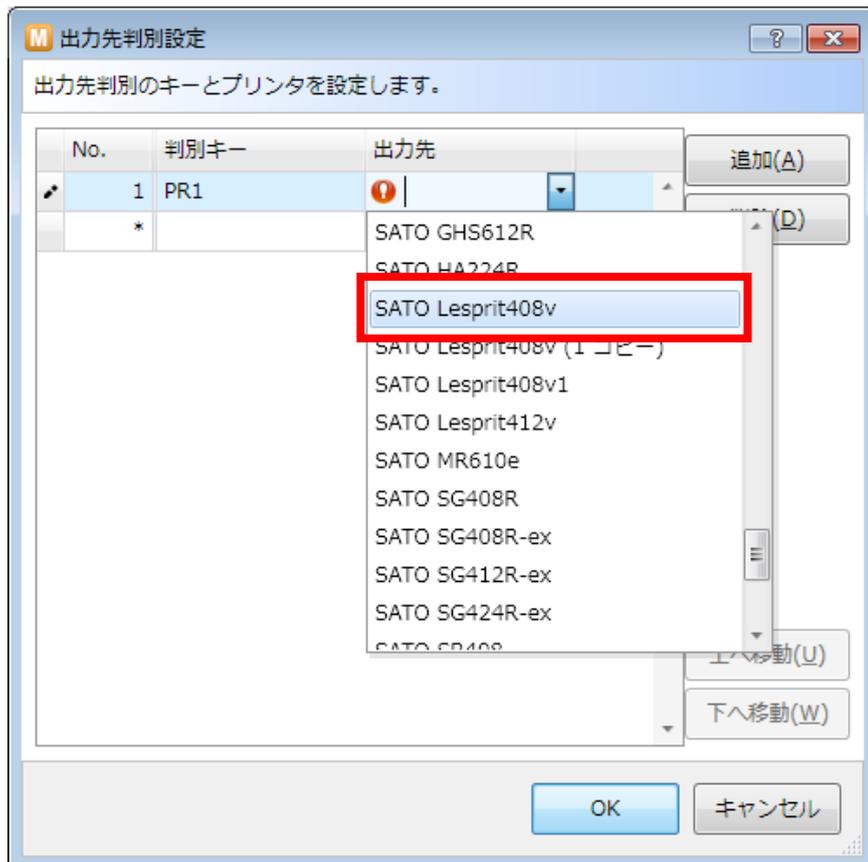
ツールメニューの「出力先判別設定」を選択します。



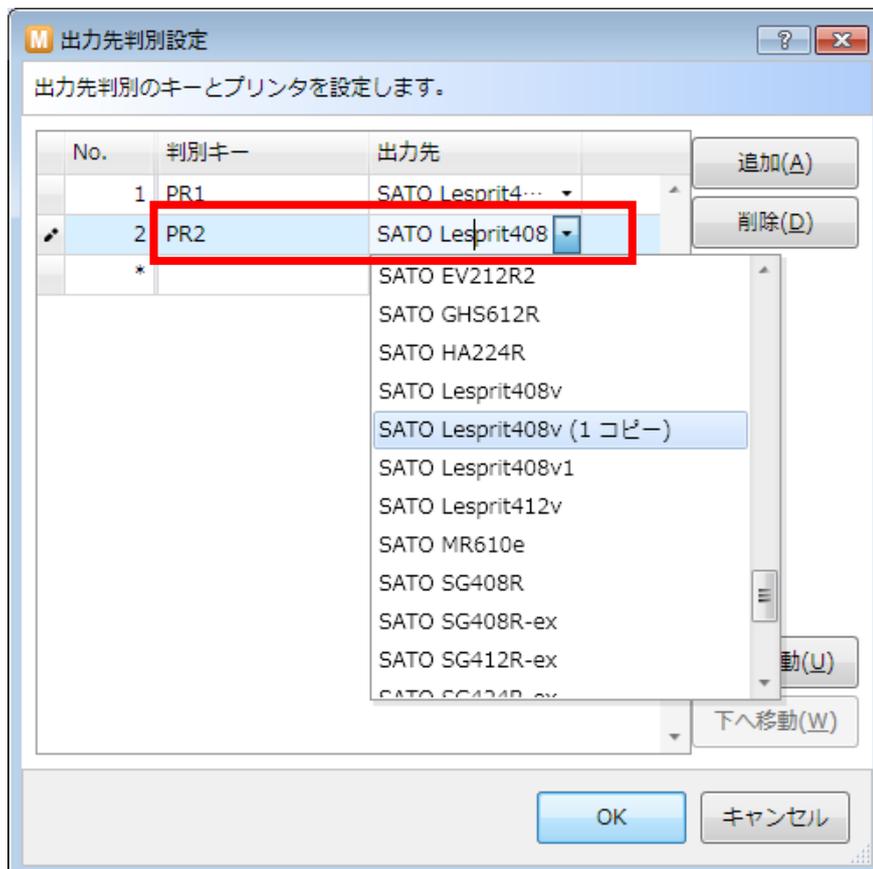
判別キーに「PR1」を入力します。



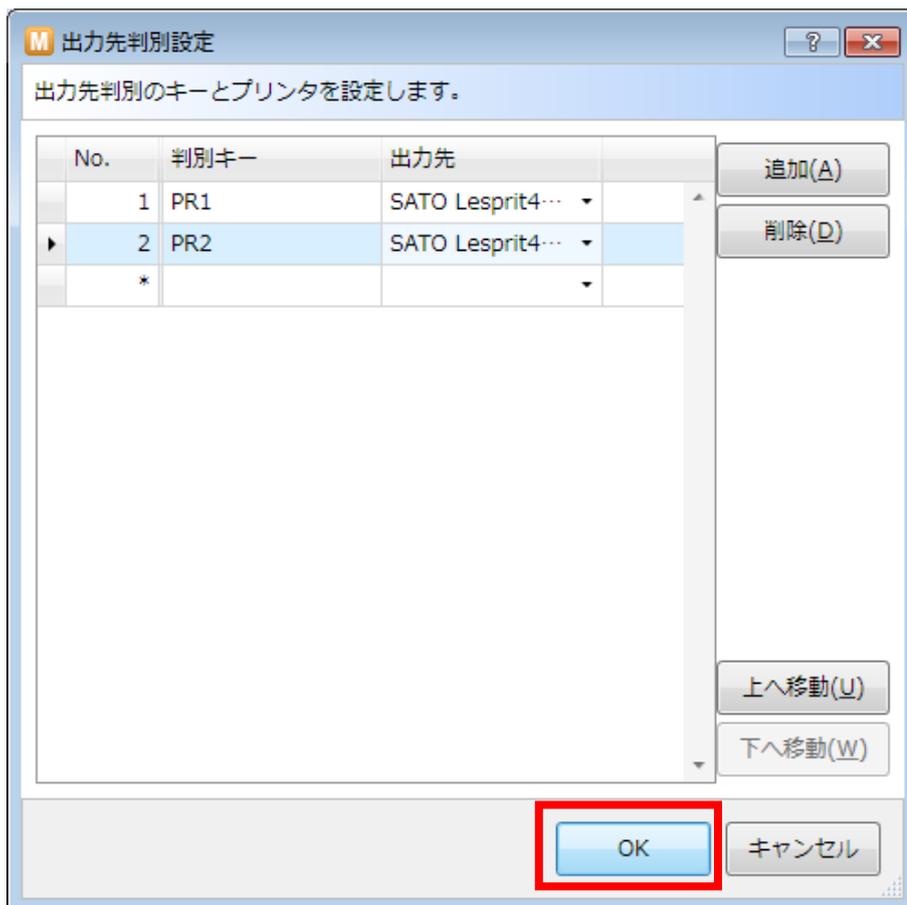
出力先を選択します。



同様に、判別キー「PR2」と出力先も設定します。

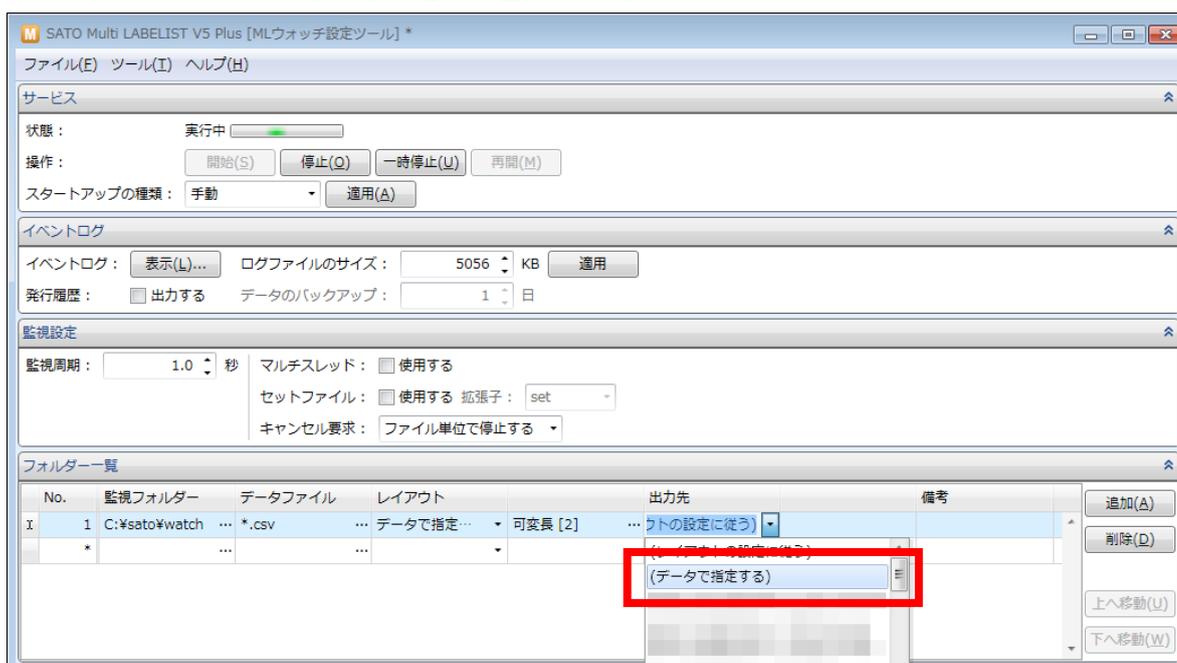


「OK」ボタンをクリックします。

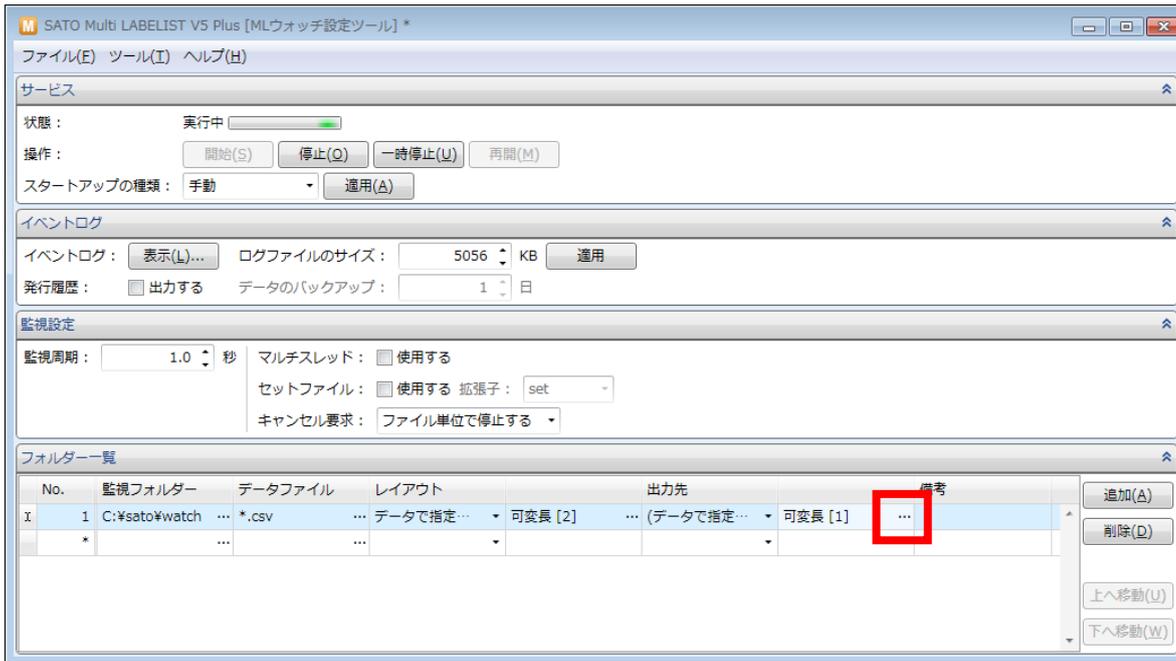


続いて、監視方法を設定します。

出力先で「データで指定する」を選択します。

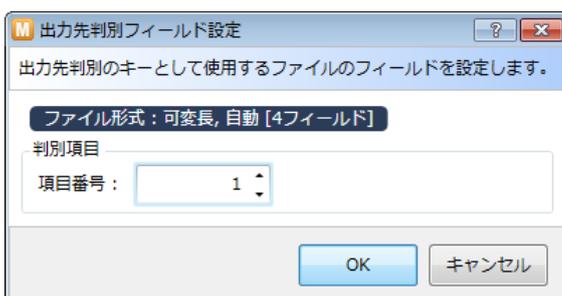
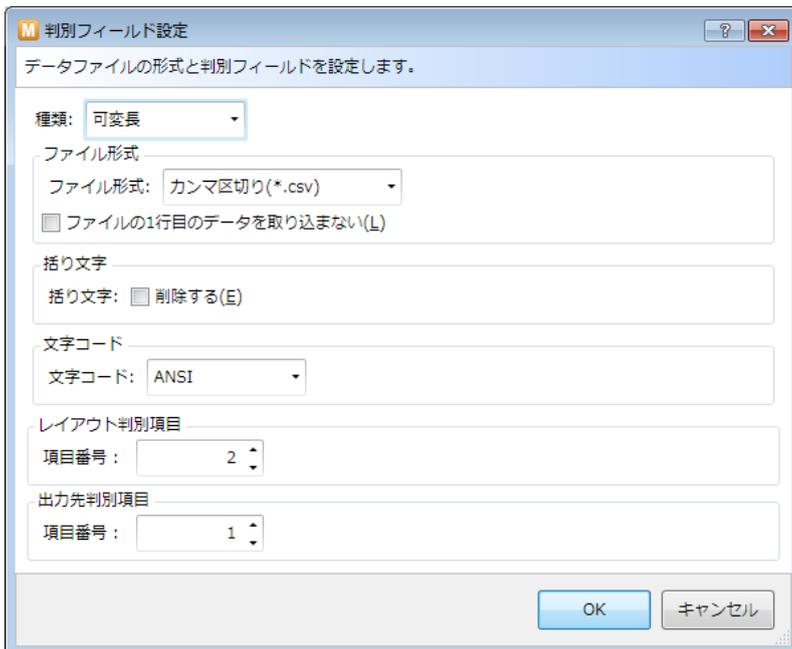


「…」をクリックします。

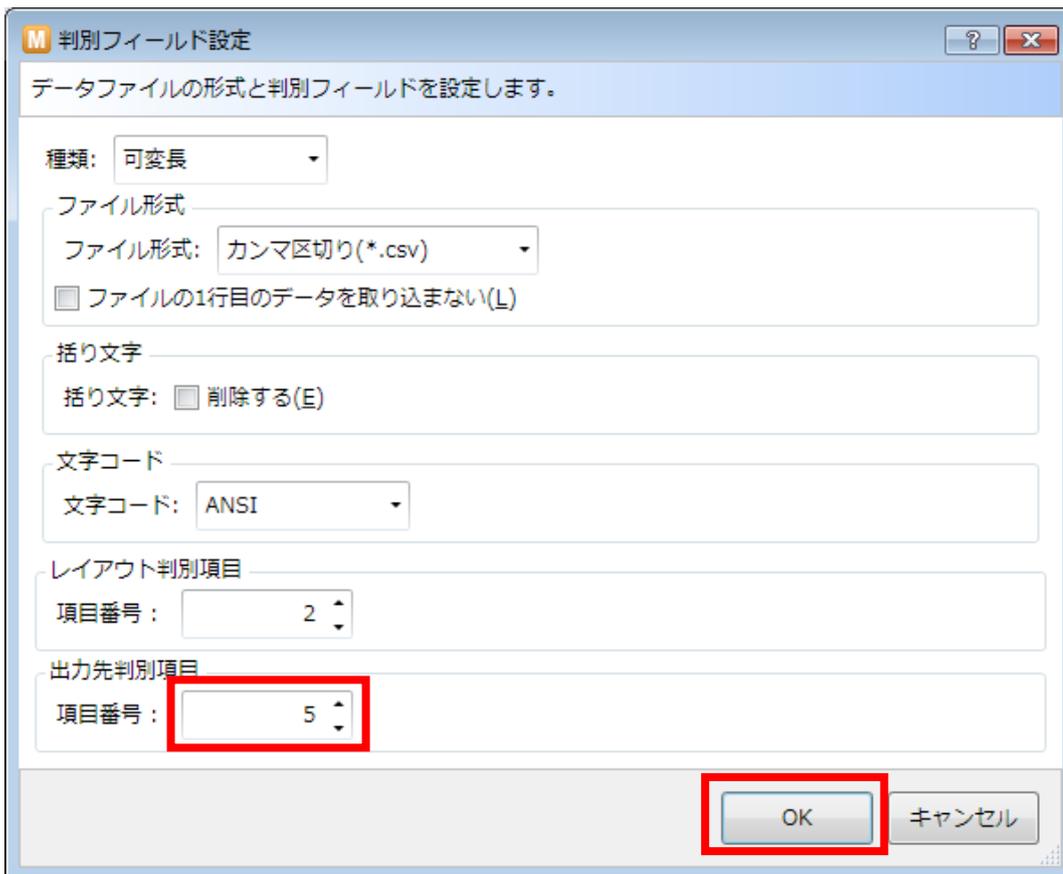


「判別フィールド設定」が表示されます。

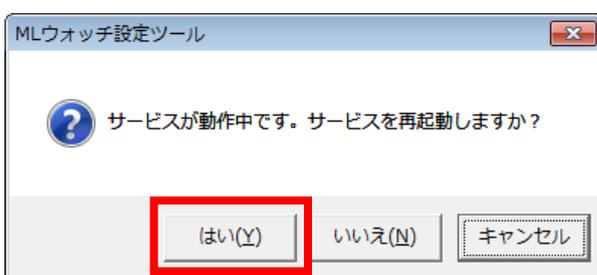
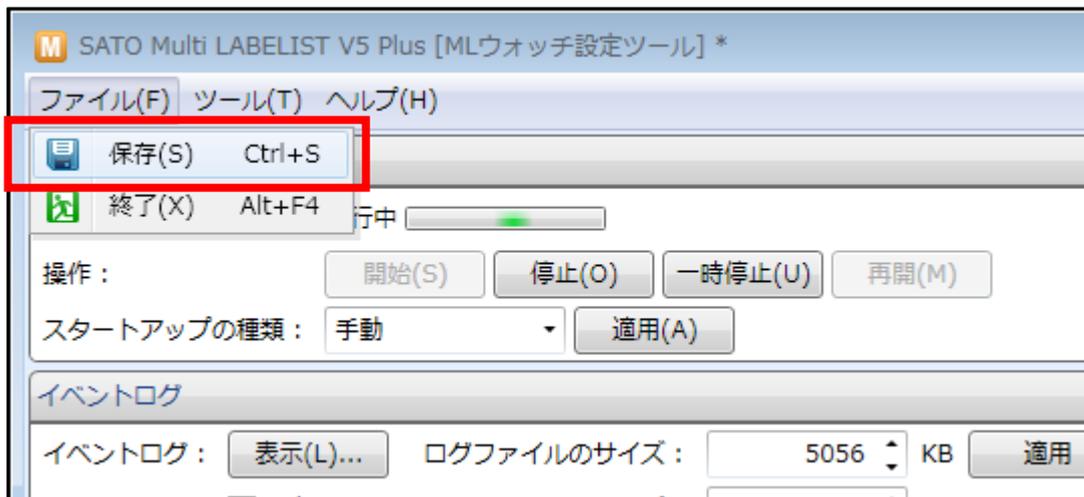
(レイアウトが「固定のレイアウトを使用する」の場合は、「出力判別フィールド設定」が表示されます。)



「出力先判別項目」で「5」を設定し、「OK」ボタンをクリックします。
 (データファイルの5番目の項目で、出力先を判別します。)



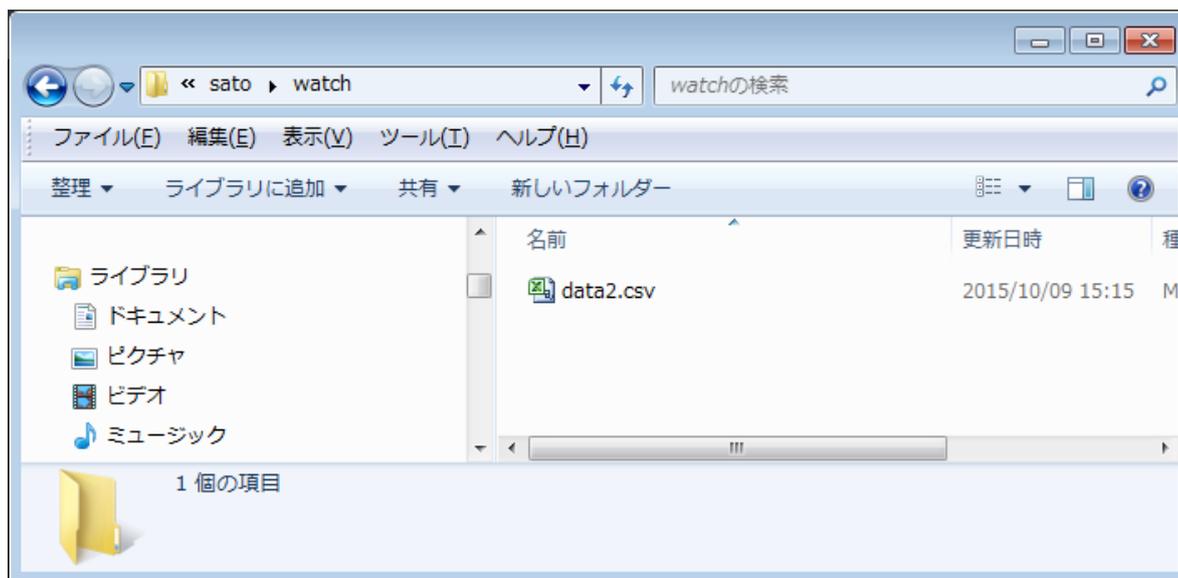
ファイルメニューの「保存」を選択し、サービスを再起動します。



データファイルを監視フォルダに配置して発行を行います。

データファイル：data3.csv

```
1234567890,00001,AAAAAAAAAAAA,1,PR1
9999999999,00002,1,,PR2
1234567890,00001,CCCCCCCCCCC,1,PR2
5555555555,00002,1,,PR1
```

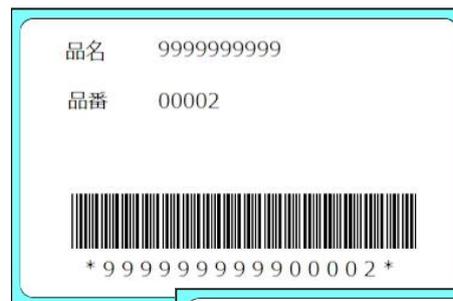


2つの出力先に発行されれば完了です。

「PR1」の設定プリンタ



「PR2」の設定プリンタ



以上で「5：フォルダ監視発行」は終了です。

知っておくと便利な機能

1. データファイル名のワイルドカード指定

フォルダ監視の設定で、データファイル名を指定する際に、ワイルドカードが利用できます。

“*” : 1文字以上の任意の文字列

“?” : 任意の1文字

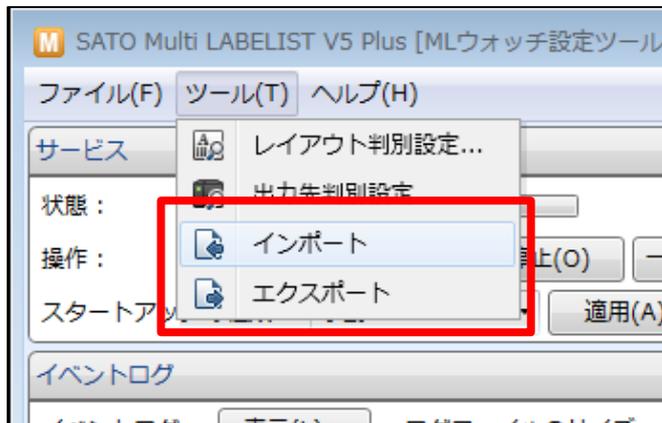


■使用例

設定例	説明	該当するファイル名
*.csv	拡張子が.csv のファイルすべて	data1.csv、test1.csv など
a-*.txt	ファイル名の先頭が“a-”であり、拡張子が.txt のファイル	a-test.txt、a-001.txt など
data-???.dat	ファイル名が“data-”+任意の3文字であり、拡張子が.dat のファイル	data-001.dat、 data-m83.dat など
out?????*	ファイル名が“out”+任意の4文字であるファイルすべて	out0001.txt、out-abc.csv など

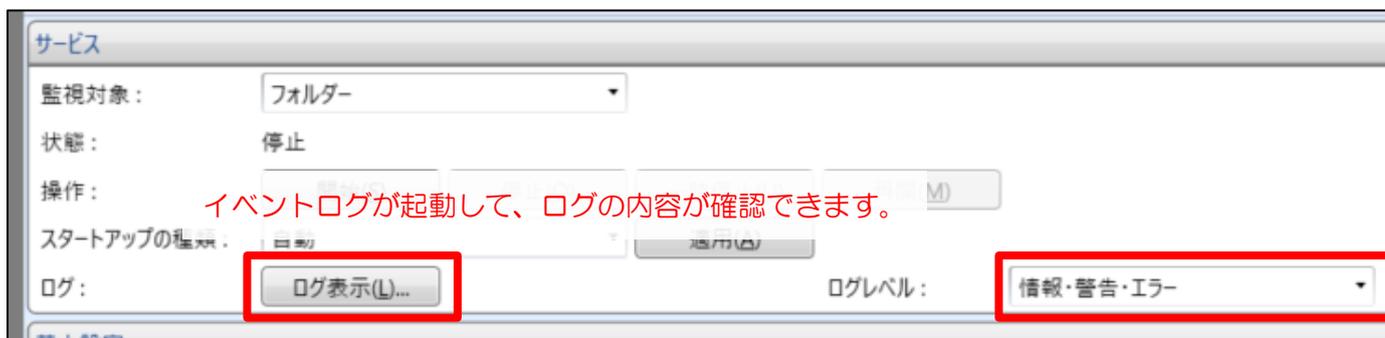
2. 設定値のインポート・エクスポート

監視設定（ML ウォッチ設定ツール）で設定した値を、ファイルから読込（インポート）・ファイルへ保存（エクスポート）することができます。パソコンの入替えや複数のパソコンで同じ設定値を利用する場合に活用できます。



3. ログの確認とログレベル

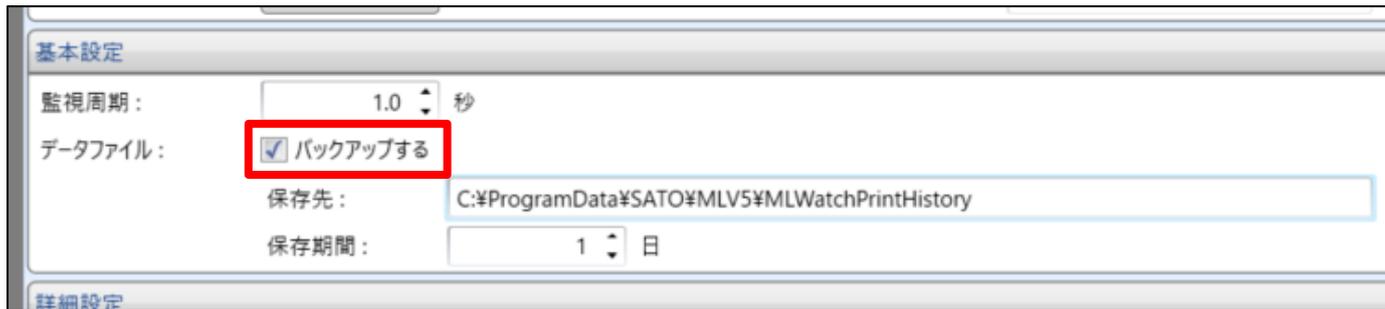
フォルダ監視発行で、ファイルの解析エラーなど監視中に発生した障害の情報は、常にイベントログに出力されます。正常に処理できた情報は「ログレベル」を「情報・警告・エラー」に変更することで出力されます。



ログの出力内容は、ML メンテナンスのヘルプをご確認ください。

4. データのバックアップ

フォルダ監視発行で使したデータファイルをバックアップすることができます。



データファイルのバックアップは、監視設定の行毎にフォルダが分かれて保存されます。
 (CommonAppData)¥SATO¥MLV5¥MLWatchPrintHistory¥Folder[フォルダ情報一覧の行番号]
 例：C:\ProgramData\SATO\MLV5\MLWatchPrintHistory¥Folder5

ファイル名は「データファイルの解析日時」「データファイル名」から自動的に設定されます。
 指定され保存期間が過ぎると自動で削除されます。

5. カットのタイミングを指定する

フォルダ監視発行では、カット動作は1レコード毎にレイアウトの設定に従って行われます。
 複数レコードを発行した後にカットする場合は、カット専用のデータ「EjectCut」を指定するか、
 ファイル単位カットを指定します。

・1レコード毎のカット動作

レイアウトファイルの発行時動作設定で、排出カットとカット動作のタイミングで設定します。

#	レイアウトファイル	カット動作
発行時動作設定 - その他「排出カットを使用する」		
1	有効 (チェックあり)	レコード単位にカットします。任意のタイミングでカットする場合は、「EjectCut」を利用してください。
2	無効 (チェックなし)	下記の発行動作の設定に従います。
発行時動作設定 - 発行動作「仕分けマークの印字、またはカット動作のタイミング」		
3	なし	プリンタの動作モードが連続発行の場合はカットしません。カットの場合は1枚ごとにカットします。
4	行わない	カットしません。
5	行ごとに行う	レコード単位にカットします。
6	ページごとに行う	レコード単位にカットします。任意のタイミングでカットする場合は、「EjectCut」を利用してください。
7	該当する項目の値が変わるごとに行う	
8	発行指示単位ごとに行う	
9	指定した枚数ごとに行う	指定した枚数単位にカットし、端数の最後もカットします。

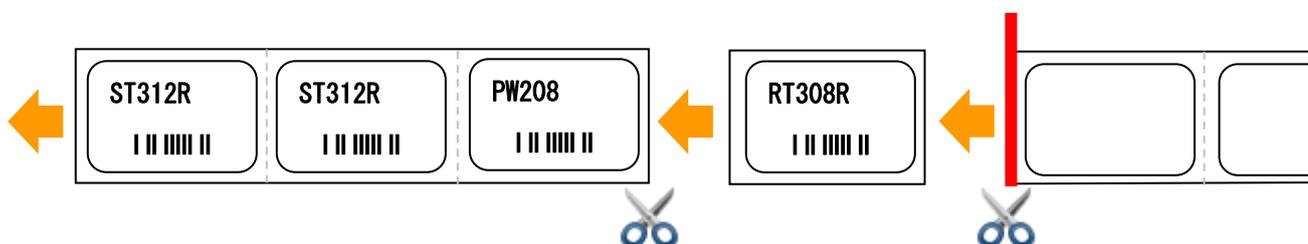
• EjectCut レコードの使用

データファイル内に「EjectCut」だけのレコードを作成すると任意にカットできます。

「EjectCut」を利用する場合は、レイアウトファイルの排出カットを無効(#2)にし、カット動作を行わない(#4)に設定してください。

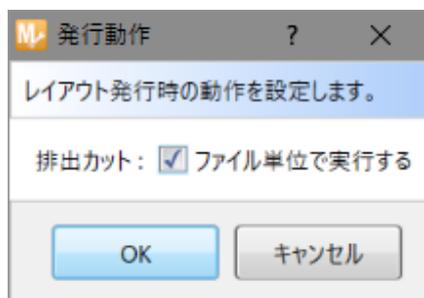
データファイルが固定長の場合、「EjectCut」を指定するレコードもレコード桁数までスペースを補填してください。桁数に満たない場合、桁ずれが発生して以降のデータがエラーになります。

```
"ST312R","19000","490310041310","目黒本店","2"
"PW208","15000","490310841310","目黒本店","1"
EjectCut
"RT308R","9500","490310413108","目黒本店","1"
EjectCut
```



• ファイル単位にカットする

監視設定の発行動作設定で排出カットを「ファイル単位で実行する」を有効にすることでデータファイルの末尾でカットすることができます。



ファイル単位のカットを利用する場合は、レイアウトファイルの排出カットを無効(#2)にし、カット動作を行わない(#4)に設定してください。

出力先を「データで指定する」に設定している場合は、データファイルの末尾のレコードで指定された出力先にのみカットを行います。末尾のレコード以外の出力先にはカットを行いません。

6. 複数のプリンタへ出力する

フォルダ監視発行は複数のプリンタに対して出力する場合、発行データでレコード単位に指定するか、監視条件（ファイル名またはフォルダ）でファイル単位に指定することが可能です。

・1 ファイルに複数の出力先を指定する

出力先をデータファイルのレコード単位に自由に指定できるため、複数のプリンタを順番に指定して、プリンタに効率よく出力することができます。設定方法は「[出力先のデータ指定](#)」をご参照ください。

・1 ファイルで1つの出力先を指定する

データファイルのレコード内に出力先を判別するデータを指定できない場合に、監視設定でデータファイルのファイル名やフォルダを出力先ごとに設定することで、複数のプリンタに出力できます。

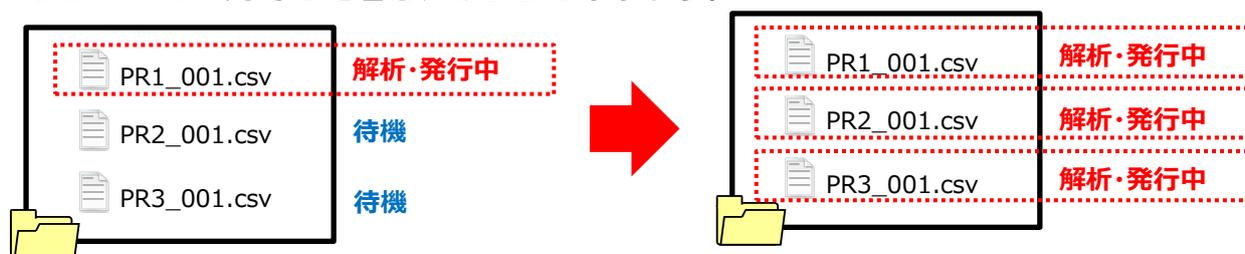
ファイル名で出力先を分ける

No.	監視フォルダー	データファイル	レイアウト	出力先
1	C:%sato%watch	PR1*.csv	固定のレイア...	C:%sato%layo... SATO CL4NX 203dpi
2	C:%sato%watch	PR2*.csv	固定のレイア...	C:%sato%layo... SATO ST312R

フォルダで出力先を分ける

No.	監視フォルダー	データファイル	レイアウト	出力先
1	C:%sato%watch%PR1	*.csv	固定のレイア...	C:%sato%layo... SATO CL4NX 203dpi
2	C:%sato%watch%PR2	*.csv	固定のレイア...	C:%sato%layo... SATO ST312R

発行枚数や発行頻度が高い場合、1つのデータファイルが処理されている間は、他のプリンタは待機状態になります。速度が求められる場合は「マルチスレッド：使用する」を有効にすると、複数のデータファイルが同時に処理されるようになります。



・設定可能なプリンタ台数

1PC に対する推奨プリンタ数は、Plus・Standard・Lite が最大 30 台、Enterprise が最大 50 台です。推奨プリンタ数を超える場合は、処理速度に影響を与える場合がありますのでご注意ください。

データファイル	指定方法	設定可能台数	
		Plus・Standard・Lite / Enterprise	
		シングルスレッド	マルチスレッド
1 ファイルに複数の出力先を指定する	レコード	30 / 50 (拡張時) 100/500	-
1 ファイルで 1 つの出力先を指定する	ファイル	100 / 500	10 / 50
	フォルダ	100 / 500	10 / 50

7. フォルダ監視の起動方法を変更する

フォルダ監視発行は Windows サービスとして常駐します。

スタートアップの種類を変更することで、フォルダ監視の起動方法を設定できます。



スタートアップの種類	設定時の動作
自動	OS 起動時にフォルダ監視機能を開始します。
手動	「開始」ボタンを押した時のみ起動します。自動的に開始されません。
無効	フォルダ監視発行機能を利用しません。「開始」ボタンを押しても起動ができなくなります。

※OS 起動時に自動的に開始されない場合

Windows Server 2008 R2 で「自動」に設定しても、OS の起動タイミングによって、フォルダ監視が開始されないことが確認されています。「自動」で起動に失敗する場合は、コントロールパネルから管理ツールサービスを選択し、「SATO MLV5 MLWatch」のプロパティにて、スタートアップの種類を「自動（遅延開始）」に変更してください。

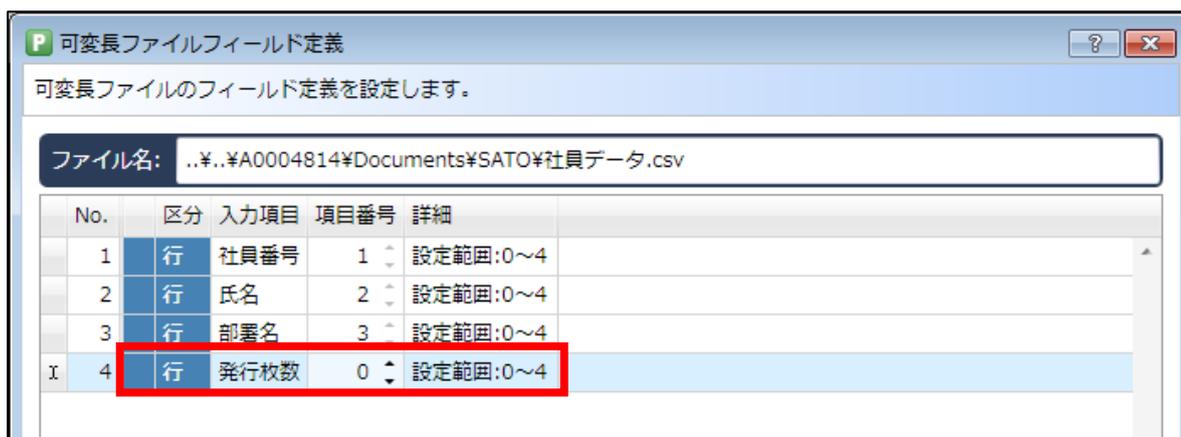


8. 発行枚数が未指定のデータを発行する

上位のアプリケーションでデータ内に発行枚数を出力できない場合に、1 レコード毎に 1 枚発行する機能が利用できます。

• 1 レコード 1 枚固定で発行する

レイアウトファイルを ML プリントまたは ML デザインで開き、ファイル形式設定—フィールド定義で入力項目「発行枚数」の設定を変更します。可変長ファイルの場合は項目番号を「0」、固定長ファイルの場合は開始位置と終了位置を「0」に設定します。



6：ODBC データ取込み

1. ODBC データ取込みとは

ODBC データ取込みとは、データベースに ODBC 接続し、発行に必要な情報を取得する機能です。既存のデータベースを利用する場合や、データファイルの一部を加工して取り込む場合に有効活用できます。

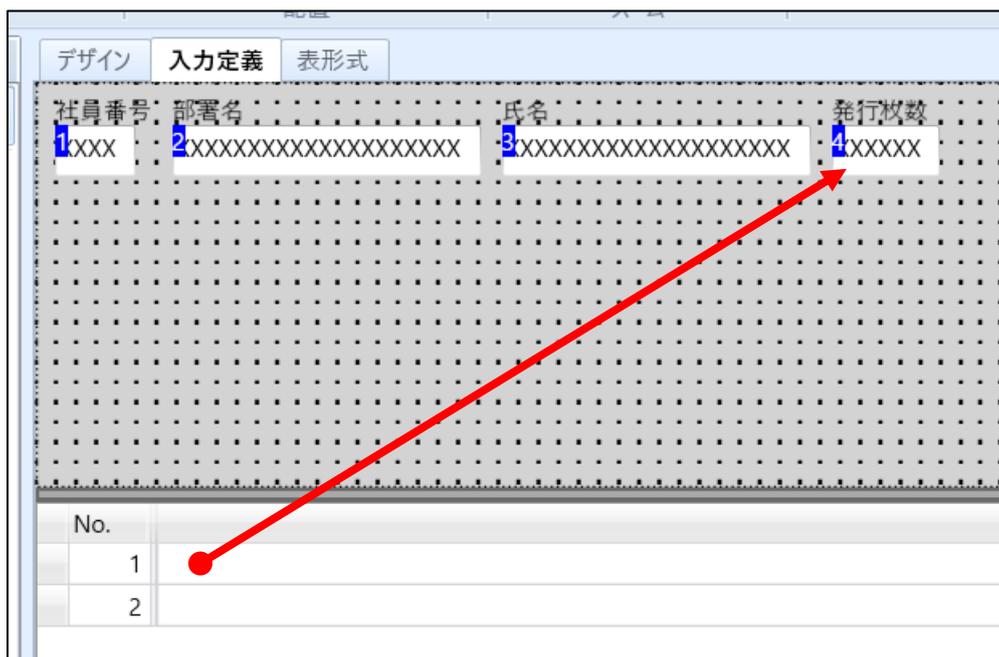
■準備

予め以下のレイアウトを作成しましょう。

????	社員番号
????????????????????????????????????	部署名
????????????????????????????????????	氏名

プリンタ : レスプリ T408v/R408v
 用紙サイズ : 縦45mm×横70mm
 入力変数 : 「社員番号」4桁
 「部署名」20桁
 「氏名」20桁
 リア外名 : ODBC 練習.mllayx

「入力定義」画面に切り替え、行部からヘッダ一部に発行枚数を移動します。



2. ODBC ドライバの設定

ODBC 接続で利用するデータファイルと ODBC ドライバを作成しましょう。

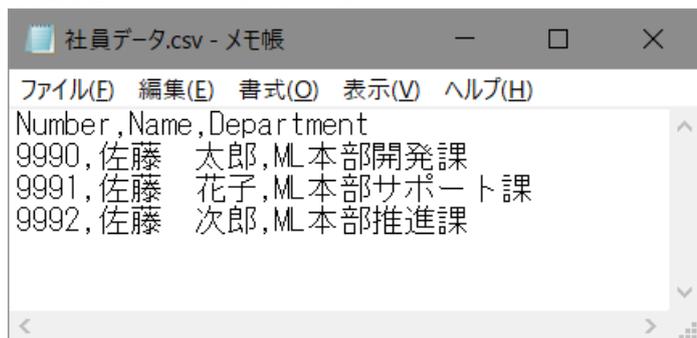
ここでは下記の CSV 形式のファイルを例に説明します。

先頭にタイトル行を設けています。

ODBC 接続で項目設定を行う際に利用します。

ファイル名 : 社員データ.csv

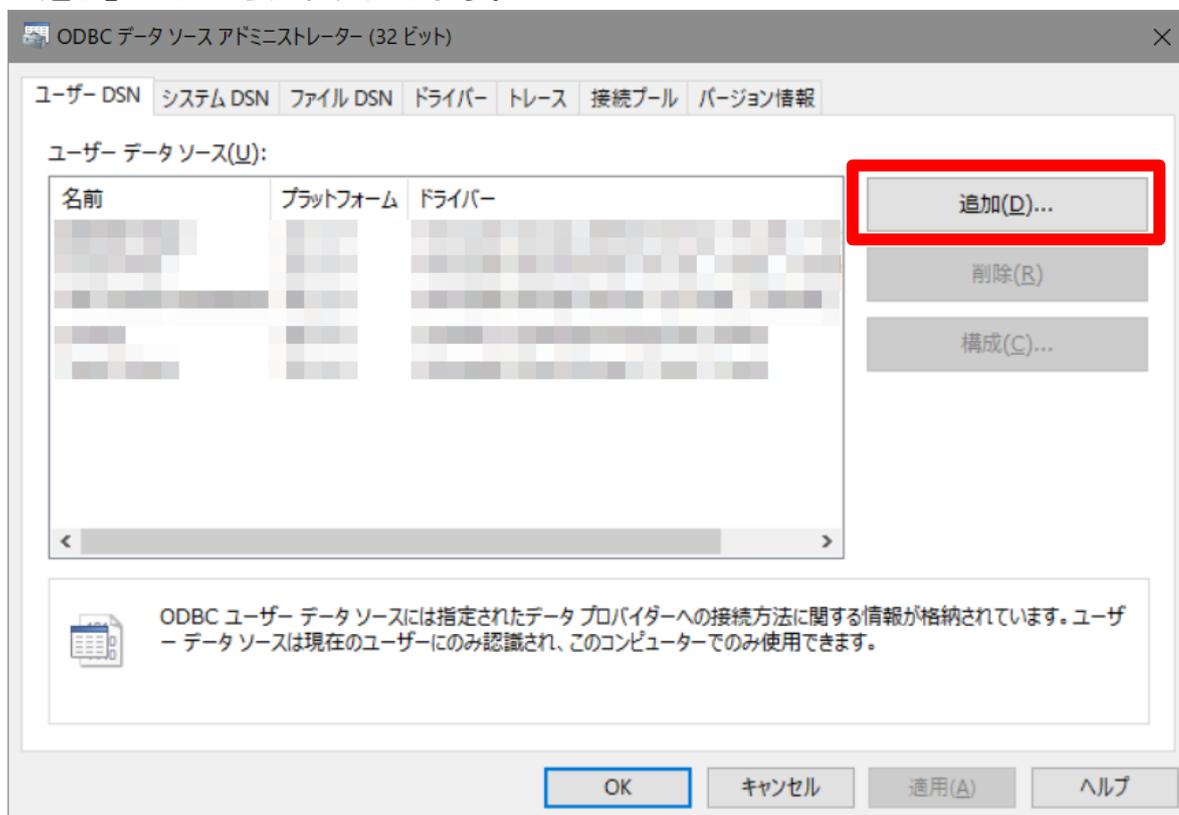
保存先 : C:\sato



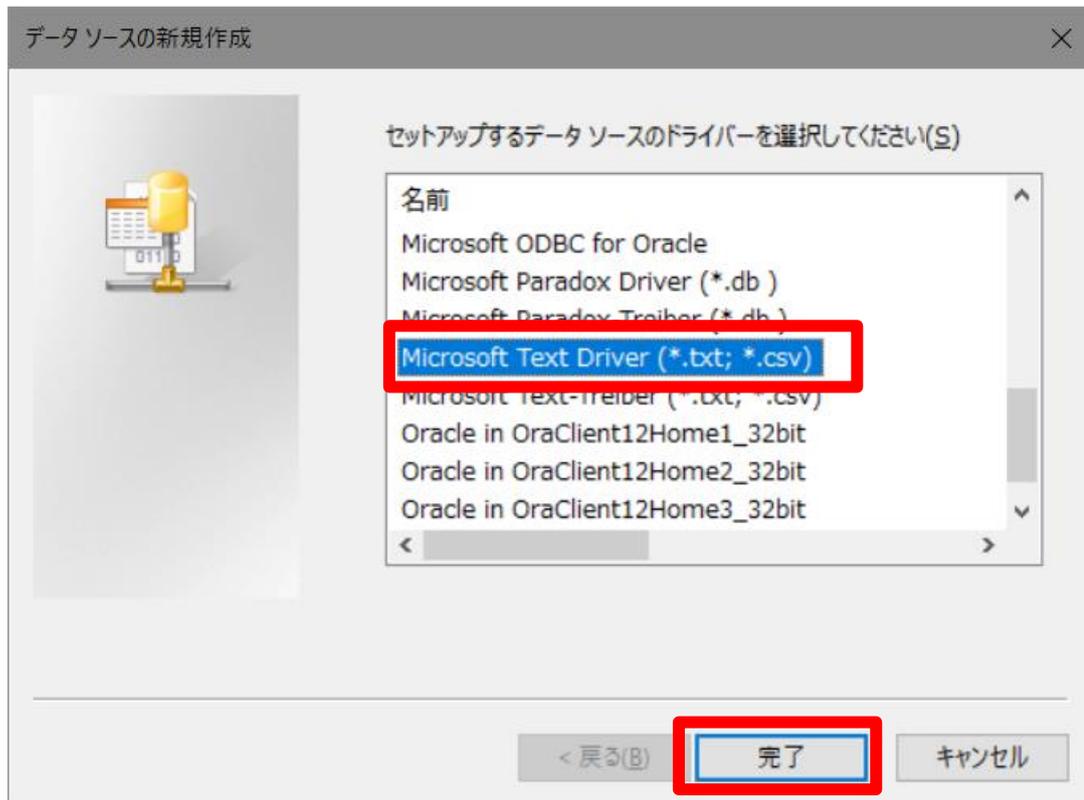
ODBC ドライバを作成します。

コントロールパネルから「管理ツール」 「ODBC データ ソース」を選択します。
(64bitOS の場合は「ODBC データ ソース (32 ビット)」となります。)

「追加」ボタンをクリックします。



「Microsoft Text Driver (*.txt; *.csv)」を選択し、「完了」ボタンをクリックします。



※ODBC ドライバ(Excel、Access)が存在しない場合

Microsoft の公式サイトからダウンロードしてインストールしてください。

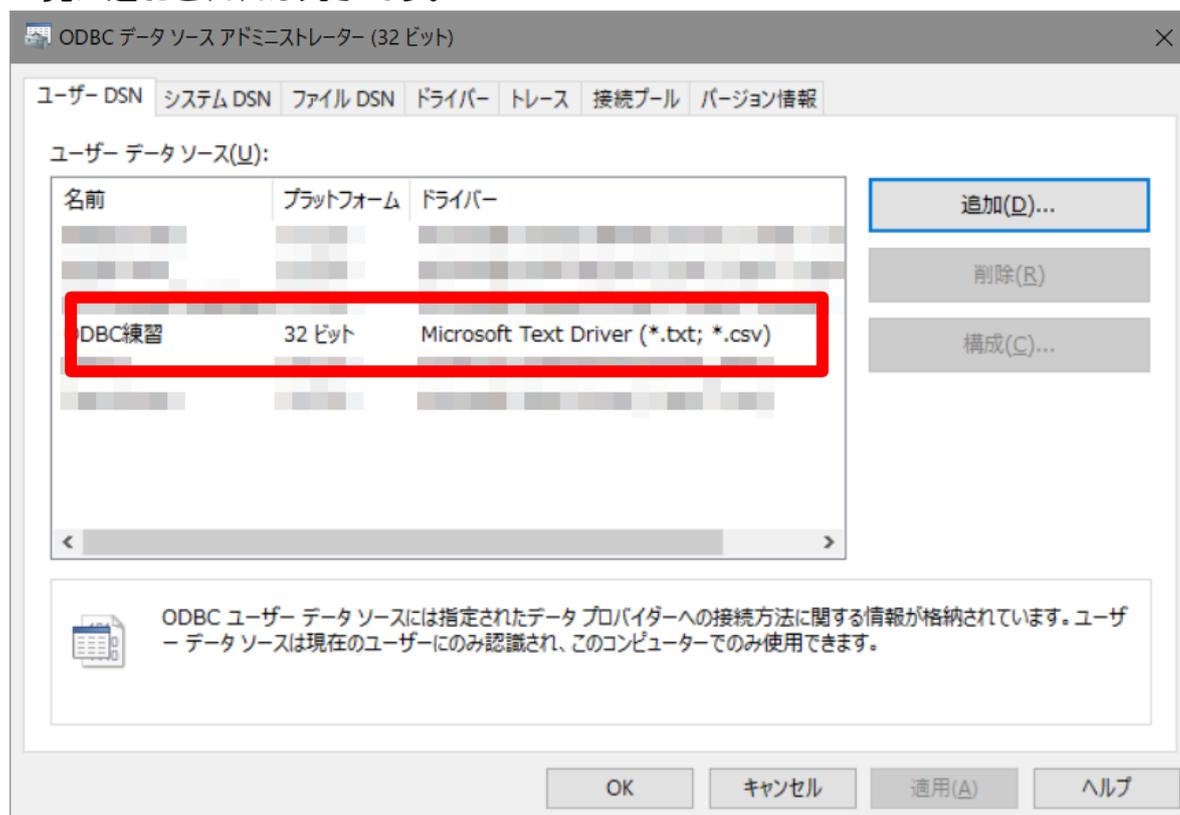
<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=13255>

その他の ODBC ドライバは、各メーカーから入手してください。

データソース名に「ODBC 練習」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。



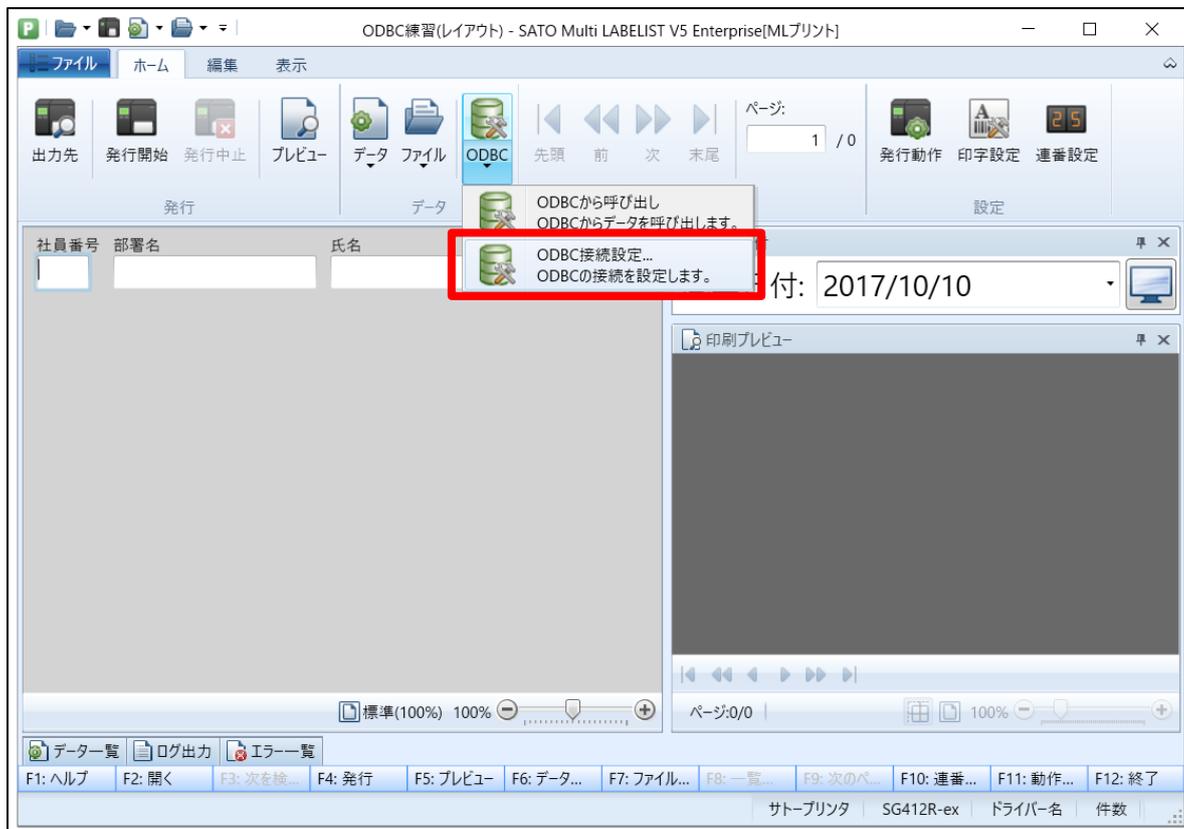
一覧に追加されれば完了です。



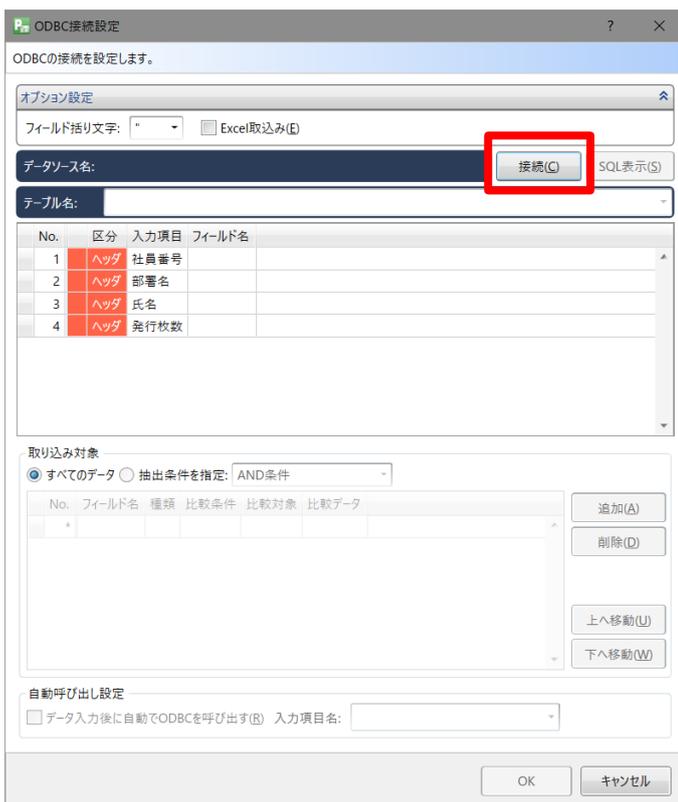
3. ODBC 接続の設定

つぎに ML プリント画面でデータを取り込むための ODBC 接続の設定をしましょう。

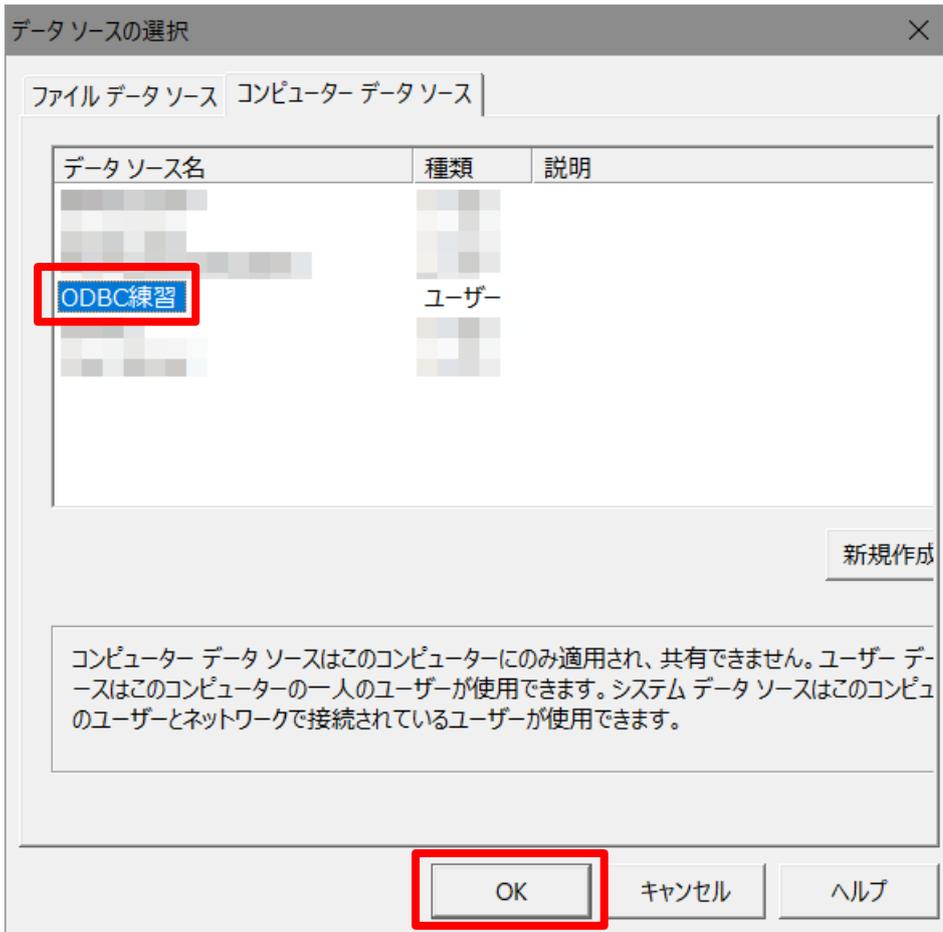
ML プリント画面を起動して「ODBC 接続設定」を選択します。



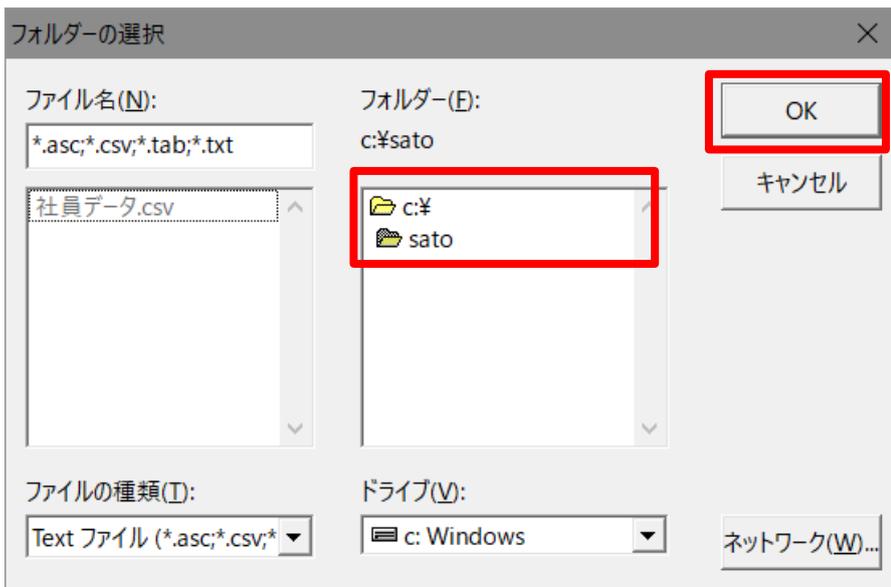
「接続」ボタンをクリックします。



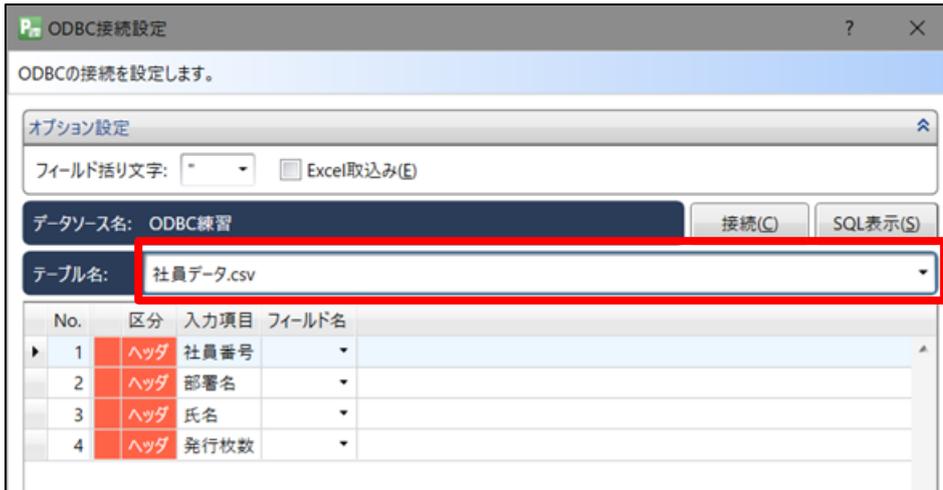
「コンピューター データ ソース」の「ODBC 練習」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



データファイル「社員データ.csv」を保存したフォルダを選択し、「OK」ボタンをクリックします。

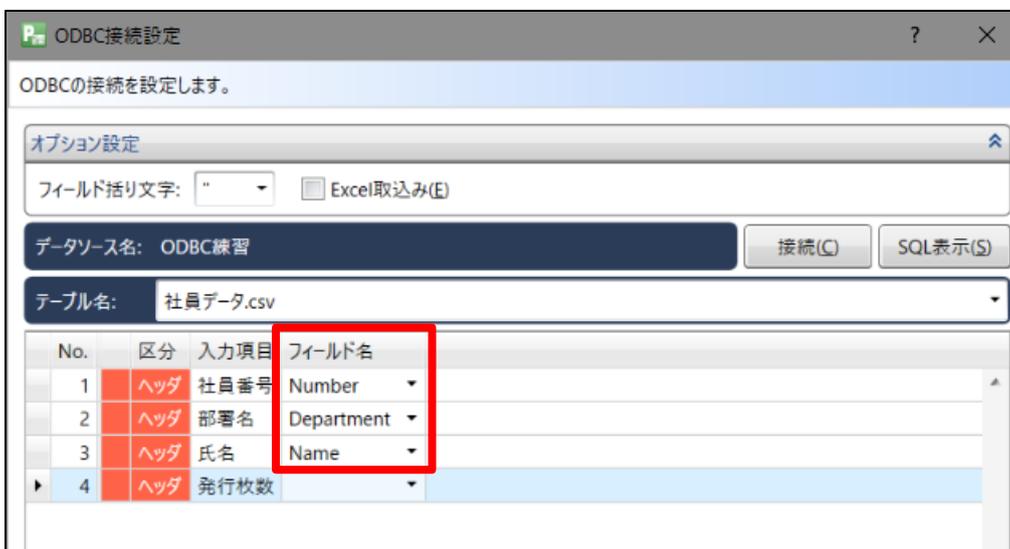


リストにデータファイル「社員データ.csv」が表示されます。



入力項目と関連付けるフィールド名を指定します。
(フィールド名はデータファイルのタイトル行が自動で取得されます。)

レイアウトファイルの入力項目名	データファイルのフィールド名
社員番号	Number
部署名	Department
氏名	Name



抽出条件を指定して、「OK」ボタンをクリックします。

• 抽出条件

入力した社員番号に該当するデータ（部署名と氏名）を取得する場合

フィールド名 : Number
 種類 : 数値
 比較条件 : =
 比較対象 : 入力項目
 比較データ : 社員番号

ODBC接続設定

ODBCの接続を設定します。

オプション設定

フィールド括弧文字: " Excel取込み(E)

データソース名: ODBC練習

テーブル名: 社員データ.csv

No.	区分	入力項目	フィールド名
1	ハッダ	社員番号	Number
2	ハッダ	部署名	Department
3	ハッダ	氏名	Name
4	ハッダ	発行枚数	

取り込み対象

すべてのデータ 抽出条件を指定: AND条件

No.	フィールド名	種類	比較条件	比較対象	比較データ
1	Number	数値	=	入力項目	社員番号

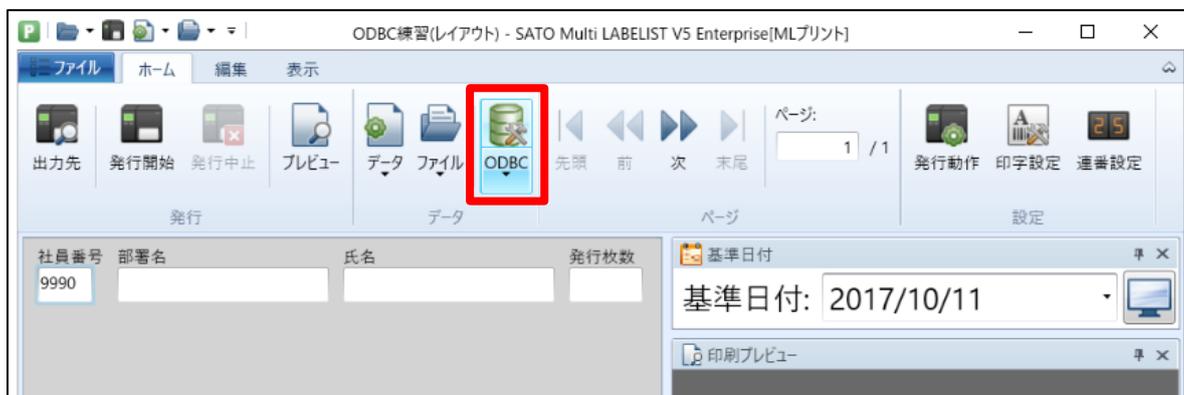
自動呼び出し設定

データ入力後に自動でODBCを呼び出す(R) 入力項目名:

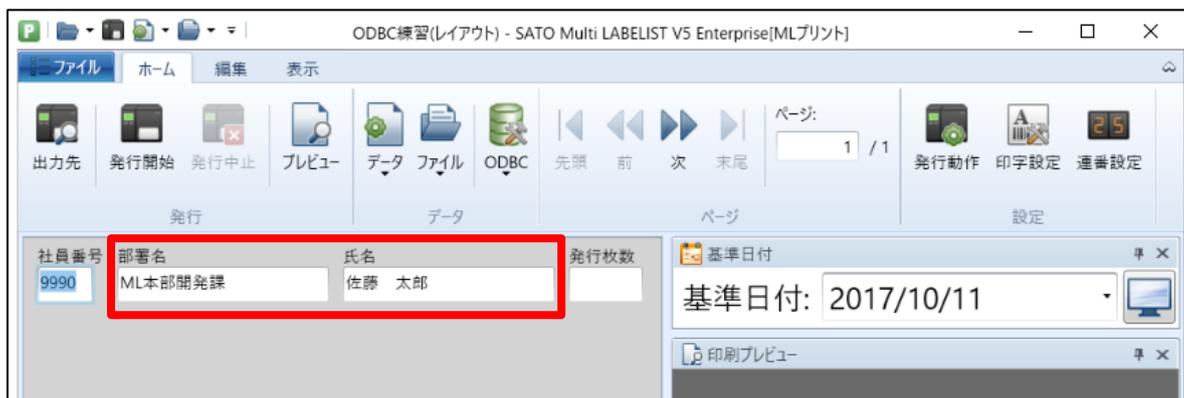
4. ODBC からの呼び出し

では、実際に ML プリント画面で ODBC 接続でデータを読み出してみましょう。

社員番号に「9990」を入力し、「ODBC」ボタンをクリックします。



社員データ.CSV から社員番号が「9990」の部署と氏名を読み出すことができました。



以上で「[6 : ODBC データ取込み](#)」は終了です。

さらに ODBC データ読み出しの機能を使いこなす場合は、「[知っておくと便利な機能](#)」をご参照ください。

知っておくと便利な機能

ODBC データ取込みで知っておくと便利な機能を紹介します。

1. 自動で ODBC データ呼び出しを行う

抽出条件を指定している場合に、特定の入力項目の入力が完了したら、自動的に ODBC データ呼び出しを実行する機能があります。「ODBC」アイコンを押す 1 手間を減らすことが可能です。

ODBC 接続設定の「自動呼び出し設定」を有効にし、連動させる入力項目を指定します。

ODBC接続設定

ODBCの接続を設定します。

オプション設定

フィールド括弧文字: " Excel取込み(E)

データソース名: ODBC練習

テーブル名: 社員データ.csv

No.	区分	入力項目	フィールド名
1	ハッダ	社員番号	Number
2	ハッダ	部署名	Depart...
3	ハッダ	氏名	Name
4	ハッダ	発行枚数	

取り込み対象

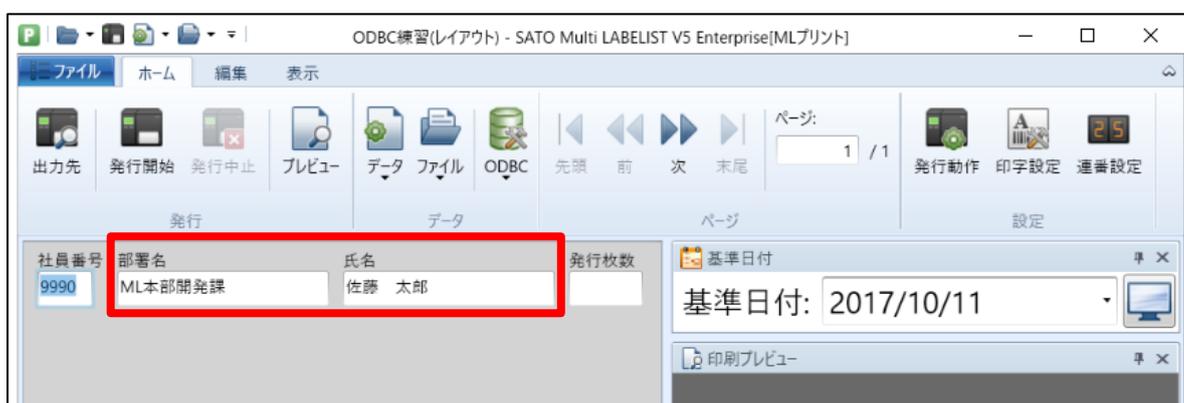
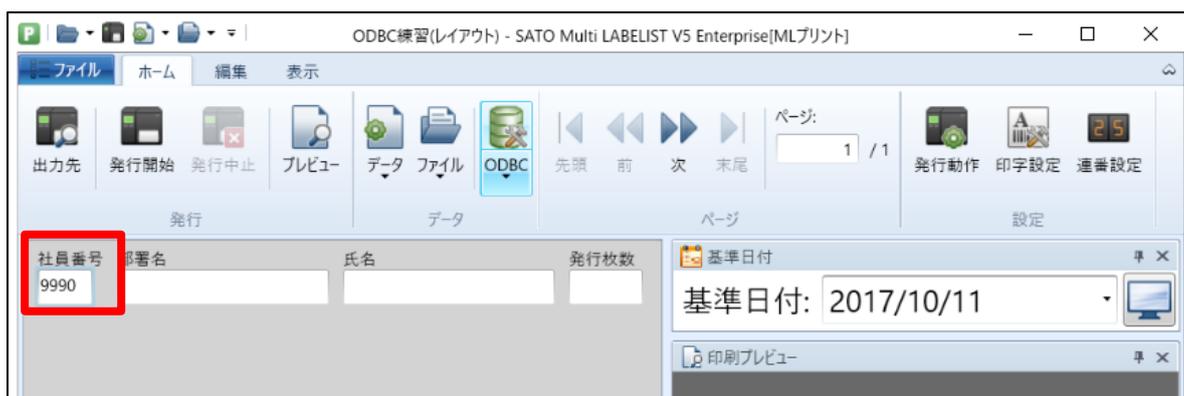
すべてのデータ 抽出条件を指定: AND条件

No.	フィールド名	種類	比較条件	比較対象	比較データ
1	Num...	...	=	入...	社員...
*					

自動呼び出し設定

データ入力後に自動でODBCを呼び出す(R) 入力項目名: 社員番号

入力を Enter キーで完了すると、自動的に ODBC データ呼び出しが実行されて、データが反映されます。



2. ODBC 接続でデータを全件取り込む

ODBC 接続設定で抽出条件を指定していない場合は、「ODBC」アイコンを押すだけで全件取り込むことができます。

抽出条件を指定している場合に、全件取り込みを行うには ODBC 接続設定の「取り込み対象」で抽出条件を種類「文字」、比較条件「like」に設定します。

ODBC接続設定

ODBCの接続を設定します。

オプション設定

フィールド括弧文字: " Excel取込み(E)

データソース名: ODBC練習

テーブル名: 社員データ.csv

No.	区分	入力項目	フィールド名
1	ハッダ	社員番号	Number
2	ハッダ	部署名	Depart...
3	ハッダ	氏名	Name
4	ハッダ	発行枚数	

取り込み対象

すべてのデータ 抽出条件を指定: AND条件

No.	フィールド名	種類	比較条件	比較対象	比較データ
1	Number	文字	like	入力項目	社員番号
*					

自動呼び出し設定

データ入力後に自動でODBCを呼び出す(R) 入力項目名:

発行画面で比較データの入力項目に「%」を入力することで、全件取込みが可能です。

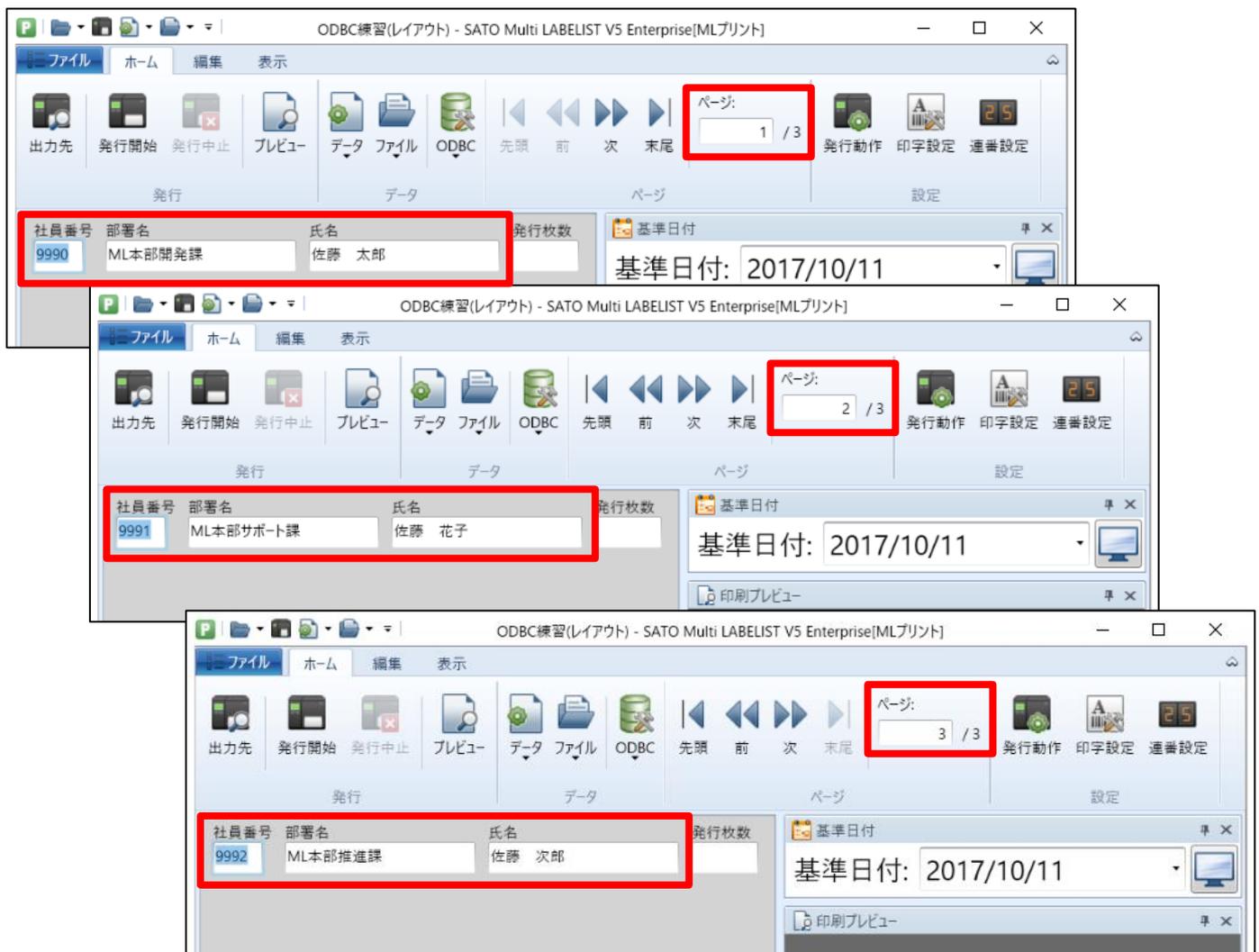


ODBC データ取込みを実行すると…



データファイルのレコード毎にページに分割されて取り込まれます。

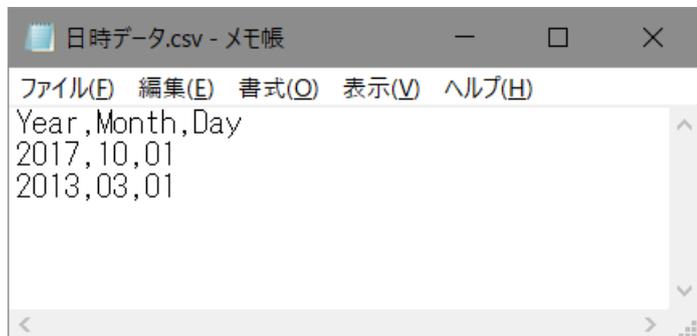
行部が存在するレイアウトの場合は、ヘッダ情報が共通するデータは1ページにまとめられます。



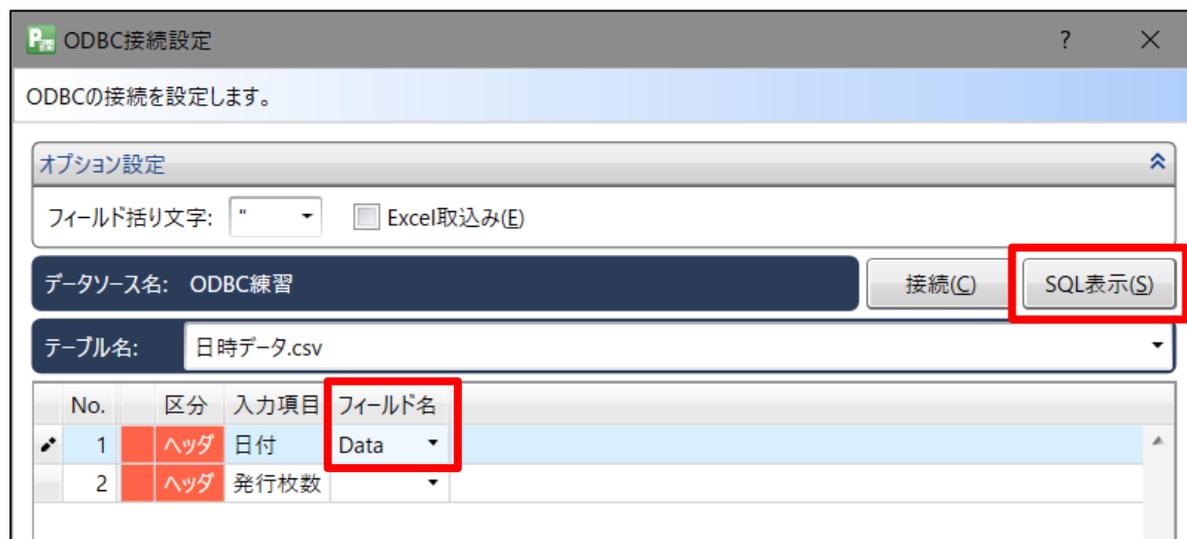
3. 取込むデータを加工する

複数のフィールドに存在するデータを 1 つの入力項目に取り込むなどデータの加工は、SQL 文を変更することで実現できます。

対象データに「Year」「Month」「Day」のフィールドが存在し、入力項目「日付」に加工したデータを取り込む場合を例に説明します。

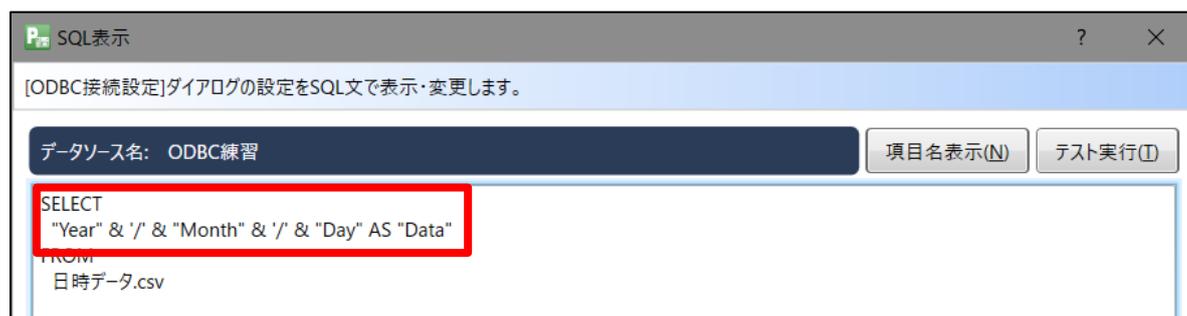


ODBC 接続設定で、入力項目「日付」にフィールド名「Data」を入力し、「SQL 表示」ボタンをクリックします。



SQL 文で SELECT と FROM の間に下記の値を入力します。

“Year” & ‘/’ & “Month” & ‘/’ & “Day” AS “Data”



書式	内容
"(フィールド名)"	取り込み対象のフィールド名を指定します。
(A) & (B)	文字列を結合します。
'(固定値)'	固定値を入力します。
(A) AS (B)	(A)の値を(B)として扱います。

上記のSQL文は「Year」「Month」「Day」から取得したデータを「/」で連結して、フィールド名「Data」として扱うという意味になります。

「テスト実行」を押して、日付が取り込めれば設定完了です。

